

茨城県教育財団文化財調査報告第214集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 X

(上巻)

平成16年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第214集

しま な くま やま い せき
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 X

(上巻)

平成16年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



第1426号土坑完掘状況（土器烧成遺構）



第1441号土坑出土「鳥」線刻土器（土器烧成遺構）

序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。この新しい街づくりの一端である「つくばエクスプレス」の整備は、つくば市と東京圏を直結させることによって人・物・情報の交流を盛んにし、地域活性化の大きな力になるものです。そこで、平成6年7月に県、市、地権者が三者協議で合意に達したのを受け、新線整備と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業が進められております。

この予定地内に島名熊の山遺跡が存在していたため、財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け、平成7年4月から発掘調査を実施してきました。その成果の一部は、既に当財団の文化財調査報告第120集、第133集、第149集、第166集、第174集、第190集として刊行しています。

本書は、平成14年度に調査を行った島名熊の山遺跡の調査成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成16年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城縣教育財団が平成14年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字島名に所在する島名館の山遺跡の一部の発掘調査報告書である。

2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成14年4月1日～平成14年5月31日、平成14年9月17日～平成15年3月31日

整理 平成15年4月1日～平成16年3月31日

3 当遺跡の発掘調査は、調査第一課長阿久津久のもと、以下の者が担当した。

調査第一課第一班長 熊淵和彦 平成14年4月1日～平成14年5月31日

平成14年9月17日～平成15年3月31日

主任調査員 稲田義弘 平成14年4月1日～平成14年4月30日

平成14年9月17日～平成15年3月31日

主任調査員 飯泉達司 平成14年5月1日～平成14年5月31日

平成14年9月17日～平成15年3月31日

主任調査員 寺内久永 平成14年4月1日～平成14年4月30日

平成14年9月17日～平成15年3月31日

副主任調査員 駒沢悦郎 平成14年5月1日～平成14年5月31日

4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長鶴見貞雄のもと、主任調査員稲田義弘、飯泉達司が担当した。

執筆分担は、以下のとおりである。

稲田 第1章～第3章第2節、第3章第3節2 奈良・平安時代の遺構と遺物、第3章第4節 まとめ

飯泉 第3章第3節1 古墳時代の遺構と遺物、第3章第3節3 中世の遺構と遺物、第3章第3節4 その他の時代の遺構と遺物、写真図版

5 墨書の判読については、司立歴史民俗博物館副館長の平川南氏に御指導いただいた。また、土器焼成遺構から出土した骨片については千葉県立中央博物館主席研究員 小宮孟氏に鑑定・分析をお願いした。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = +7,320\text{m}$ 、 $Y = +20,200\text{m}$ の交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点であり、抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を () を付けて併記した。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」、「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」、「B 2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 住居跡-S I 掘立柱建物跡-S B 柱穴列跡-S A 土坑-S K 井戸跡-S E 溝-S D
道路状遺構-S F 不明遺構-S X ビット-P

遺物 土器・陶器-P 土製品-D P 石器・石製品-Q 金属製品・古銭-M 拓本記録土器-T P

瓦-T

土層 攪乱-K

計測値 現存値-() 推定値-[]

- 3 当遺跡は、「茨城県遺跡地図」(茨城県教育委員会 平成13年3月改定)において、「熊の山遺跡」から「鳥名熊の山遺跡」と名称が変更されているが、本書では遺跡の整合性から平成7年度調査から継続の遺構・遺物番号を使用した。なお、今回報告分の遺物番号は120001からとなり、本書では煩雑を避けるために、120000を取り除いた番号を使用した。(例 120001→1)

- 4 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺跡全体図は500分の1、遺構は60分の1、または80分の1に縮尺して掲載した。
(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もある。
(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

■ 焼土・施軸・赤彩	■ 炉・火床面・貼床・繊維土器断面
■ 竈部材・粘土・黒色処理	■ 油煙・煤

●土器・瓦 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 ---硬化面

- 6 遺物観察表の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 土器の計測値の単位はcm、重量はgである。
(2) 備考の欄は、残存率や写真図版番号、及びその他必要と思われる事項を記した。
(3) 文字資料のうち、焼成前に線刻されたものを「筧書」、焼成後に線刻されたものを「刻書」と分けて記述した。

- 7 「主軸」は、竈を持つ窪穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書名	鳥名熊の山遺跡							
副書名	鳥名・福田坪一休型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	X							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第214集							
編著者名	福田義弘 飯泉達司							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 (225) 6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 (225) 6587							
発行年月日	2004 (平成16) 年3月26日							
ふりがな	ふりがな							
所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
しまなくまのやまいせき 鳥名熊の山遺跡	いばらきけん 茨城県つくば市 おのみかひらもちのまのふりまひ 大字鳥名字香取前 いばらき 1861番地ほか	08220 - 214	36度 3分 32秒	140度 3分 8秒	15 ~ 23m	20020401 ~ 20030331	15,133㎡	鳥名・福田坪 一休型特定土 地区画整理事 業に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
鳥名熊の山遺跡	集落跡	古 墳	竪穴住居跡	63軒	土器器 (埴・高杯・壺・瓶・鉢)・ 手探土器, ミニチュア土器, 須恵器	過去の調査結果を 含めると古墳時代 後期から奈良・平 安時代にかけての 竪穴住居跡約1500 軒, 竪立柱建物跡 約180種が確認さ れている。つくば市 高名地区の拠点の 集落である。今年 度の調査区からは, 竪立柱建物跡の集 中域や焼成遺構が 確認されている。		
			竪立柱建物跡	6棟	(埴・壺・甕・壺), 土製品 (鏡先形・ 支脚・土玉・紡錘車), 石器・石製品 (白玉・砥石・紡錘車), 鉄製品 (鍬・ 鎌・刀子・引手金具), 銅製品 (耳環)			
			不明遺構	1基				
その他	奈良・平安	竪穴住居跡	112軒	土器器 (小皿・杯・碗・壺・甕), 須恵器 (埴・高盤・蓋・壺・甕・鉢・ 瓶・壺), 灰釉陶器 (碗・皿・壺), 緑釉陶器 (碗), 土製品 (土玉・紡 錘車), 石器・石製品 (砥石・紡錘 車), 鉄製品 (鍬・刀子・鎌・手鎌・ 鍬金具・釘・火打金・紡錘車), 銅 製品 (丸鏡)				
		竪立柱建物跡	47棟					
		焼成遺構	11基					
		土坑	12基					
		柱穴列跡	5基					
その他	中 世	竪立柱建物跡	3棟	土師質土器 (小皿・内耳), 陶器 (鉢・ 甕・香炉)				
		地下式墓	3基					
		方形竪穴遺構	4基					
		堀跡	1条					
		井戸跡	2基					
その他	上 世	土坑	146基	陶器, 磁器, 縄文土器, 弥生土器				
		溝跡	18条					
		道跡	1条					
		遺物包含層	1か所					

目 次

—上 卷—

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	9
1 古墳時代の遺構と遺物	9
(1) 竪穴住居跡	9
(2) 掘立柱建物跡	150
(3) 不明遺構	160
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	162
(1) 竪穴住居跡	162
(2) 掘立柱建物跡	371
(3) 焼成遺構	443
(4) 柱穴列跡	459
(5) 土坑	462
3 中世の遺構と遺物	472
(1) 掘立柱建物跡	472
(2) 堀跡	475
(3) 方形竪穴遺構	477
(4) 地下式竈	480
(5) 井戸跡	485
4 その他の時代の遺構と遺物	487
(1) 道路跡	487
(2) 溝跡	488
(3) 土坑	492
(4) ビット群	500
(5) 遺物包含層	501
(6) 遺構外出土遺物	503
第4節 まとめ	507
写真図版	
付図	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19日～27日に現地踏査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、事業地内に鳥名熊の山遺跡が所在する旨回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日、茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

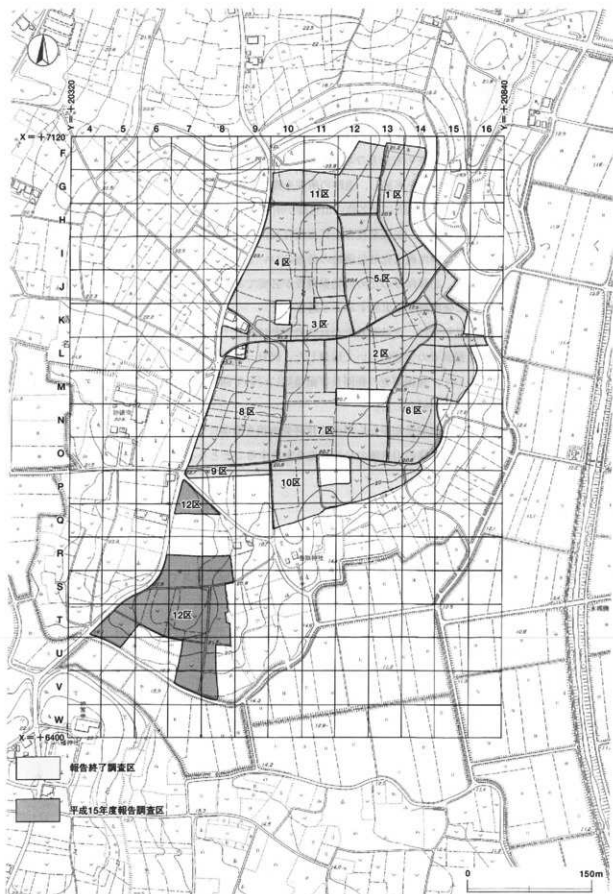
平成14年3月1日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。同日、茨城県教育委員会委員長は、茨城県知事あてに、鳥名熊の山遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成14年4月1日から平成15年3月31日まで鳥名熊の山遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

平成14年度の調査は、平成14年4月1日から平成15年3月31日まで実施した。調査経過については、下表の通りである。なお、平成14年6月3日～平成14年9月13日にかけては、同一事業である鳥名前野東遺跡の発掘調査を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備	■											
表土除去		■					■					
遺構確認		■					■					
遺構調査		■					■	■	■	■	■	■



第1図 島名熊の山遺跡調査区・グリッド設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥名熊の山遺跡は、茨城県つくば市大字鳥名字香取前1861番地ほかに所在している。

つくば市は、信仰と行楽で名高い筑波山を北端にして、その南西側に広がる標高約20～25mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川に、西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。また、それぞれの河川によって大きく開析された流域には、標高5～10mの沖積地が発達している。さらに、両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており、これらの河川によって台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

この筑波・稲敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層（0.3～5.0m）及び褐色の関東ローム層（0.5～2.0m）が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の旧谷田部町域の鳥名地区は、東谷田川と西谷田川に挟まれた平坦な台地上に位置している。鳥名熊の山遺跡はその台地上の東谷田川に面した縁辺部に立地しており、標高は20～23mである。また、周囲には小さな谷津が当遺跡を囲むように入り込み、その名のごとき島状を呈している。この台地は主に畑地として、また低地は水田として利用されており、台地と水田面の比高は約10mである。当遺跡の調査前の現況は畑地であり、主に野菜畑や菜畑として利用されていた。

第2節 歴史的環境

鳥名熊の山遺跡周辺の小貝川や東谷田川、西谷田川、蓮沼川流域の台地上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、主に東谷田川と西谷田川流域の遺跡について述べることにする。特に、鳥名熊の山遺跡が所在する鳥名地区は調査事例が多く、集落の動向をつかみやすい。

鳥名地区周辺には旧石器時代の遺構は見られないが、鳥名熊の山遺跡や鳥名前野東遺跡²⁾ (36) からナイフ形石器や剥片、^{おもりのつきた} 前遺跡 (53) から荒屋型彫器などが確認されている。いずれも表土中からの出土である。

縄文時代の遺構は、近年の調査の増加に伴って確認されるようになってきた。特に、西谷田川左岸の境松貝塚³⁾ (2) からは地点貝塚が、東谷田川右岸の鳥名境松遺跡⁴⁾ (38) からは土器焼成遺構と考えられる土坑が確認されており、注目される。鳥名熊の山遺跡付近では、遺構としては簡し穴敷塚が認められるにすぎず、表土中から石礫が複数点確認されていることなどから見て、当遺跡付近は狩猟の場として利用されていたと考えられる。

弥生時代の遺跡は少なく、後期の遺物が出土した境松貝塚や鳥名町田遺跡 (24)、鳥名熊の山遺跡などが確認されているだけである。鳥名熊の山遺跡から出土した土器片にはイネ籾痕が認められ、当遺跡における稲作を考える上で興味深い。

古墳時代になると、遺跡数の増加が顕著となる。古墳時代前期には、鳥名熊の山遺跡、鳥名前野遺跡⁵⁾ (3)、

鳥名前野東遺跡などの遺跡で集落が展開されるようになる。鳥名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が確認されているが、これらの集落はいずれも小規模で、東谷田川に沿って点在していた集落の一つととらえることができる。

古墳時代中期になると、集落は西谷田川沿いにまで広がりを見せ、前述した遺跡に加えて、谷田部遺跡⁶⁰(39)や鳥名ツバタ遺跡⁷¹(19)、真瀬三度山遺跡⁸⁰(34)、上堂丸古塚遺跡⁹¹(35)などにおいても集落が形成されるようになる。前・中期のこうした集落はいずれも台地の縁辺部や低地へ下りる緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、集落の立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く示唆される。

古墳時代後期になると、台地の内陸部にまで集落が及ぶようになる。また、昭和34年当時の谷田部地区には古墳群11か所、古墳約300基が確認される¹⁰¹など、急速に古墳が築造されたことが分かる。当遺跡周辺には、鳥名熊の山古墳群(18)、鳥名関ノ台古墳群(10)、鳥名前野古墳(51)、面野井古墳群(11)、鳥名板内古墳群(17)、下河原崎高山古墳群(12)などがあり、径10m代の小円墳が大部分を占めるこれらの古墳群は、地域的な群集墳の在り方を示しているともいえる。中でも、鳥名関ノ台古墳群は、「谷田部の歴史」¹¹¹によれば、円墳27基の他に、全長約40mの前方後円墳が近年まで存在していたとされ、鳥名地区の盟主的存在であった可能性が高い。基盤となる集落としては、掘立柱建物を有し、馬具や農具などの鉄器の他に須恵器なども相当数保持していた鳥名熊の山遺跡を挙げるのが妥当と思われる。

鳥名熊の山遺跡では、過去5年間の調査により、4～5世紀に台地の縁辺部に集落が出現した後、6世紀後半になって台地全体に集落が拡大し、急速に発展していく様子が明らかにされている¹²¹。鳥名熊の山遺跡と谷津を隔てて南側に隣接する鳥名八幡前遺跡¹²²(22)も集落の起源を後期に求めることができ、この時期においても集落を維持していた鳥名前野東遺跡や鳥名前野東遺跡とともに、鳥名熊の山遺跡を中心とする地区ではこれらの近接する遺跡間で互いの増減を補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりで集落が営まれていったことが分かる。

奈良時代になると、鳥名地区は急速に集落の再編が進むことが近年の発掘調査によって明らかにされている。その背景には、律令国家の成立と地方の国郡制の整備があったことは明らかで、当地区は河内郡嶋名郷に編入されることとなる。鳥名熊の山遺跡や鳥名八幡前遺跡は、人形住居とそれに付随する形で掘立柱建物が集落の中心となり、規模や形状の等質化したその他の住居跡がいずれも主軸を長北にして並存するようになる。さらに、鳥名熊の山遺跡にはし字状に配置された掘立柱建物群も整備され、郷関連の官衙施設の可能性も示唆されているところである。一方、鳥名前野東遺跡や鳥名前野東遺跡は7世紀をもって一旦集落が途絶えた後、8世紀中頃に再び集落が形成されるようになる。それは、約半世紀間「野」あるいは空閑地となっていた当地が、律令体制の進展と共に再開発の標的となったためと思われる。しかし、その一方で、これらの遺跡以外に鳥名地区における該期の集落は認められなくなり、鳥名熊の山遺跡周辺だけにこの時期の集落が集中するという現象が見られるようになる。

平安時代になると、遺跡数はさらに減少し、集落として明確に捉えられるのは鳥名熊の山遺跡と鳥名八幡前遺跡だけとなる。この2遺跡は、鍛冶生産や紡績などの手工業と積極的に関わっており、このことは9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。加えて、8世紀以来の集落が、大規模な集落を残し壊滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。この9世紀の集落編成も10世紀を迎えると新たな展開を示し、鳥名八幡前遺跡もまた集落としての終焉を迎えることになる。一方、鳥名熊の山遺跡はそれ以降も存続し、11世紀まで継続的に集落が営まれていく。

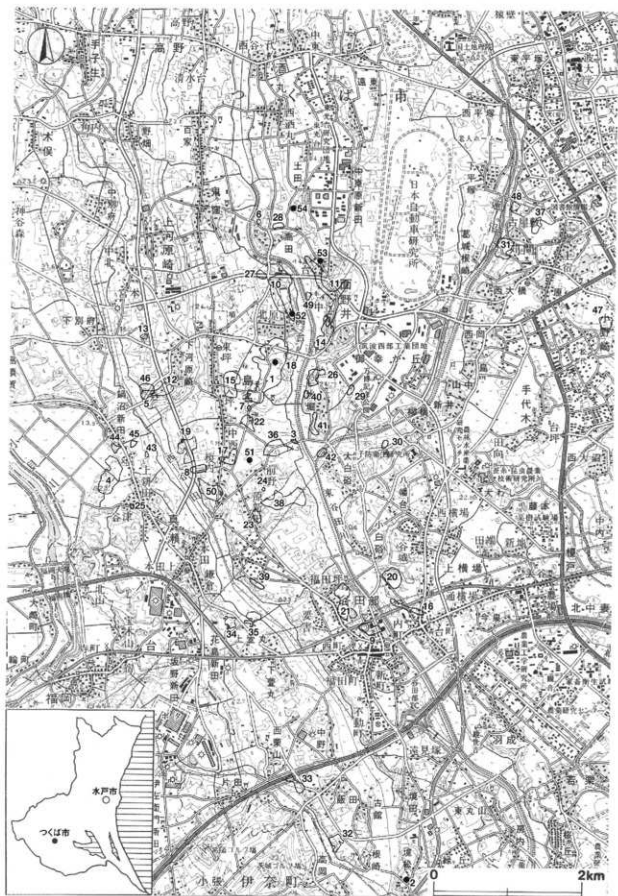
その後の集落の様相は、不明瞭になっていく。竪穴式住居から平地式住居への転換の時期と重なるためと思われるが、烏名熊の山遺跡の竪堀や井戸跡からは平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面から有力者層の存在をうかがうことができる。また、13世紀末には烏名熊の山遺跡の西側に妙徳寺が開山され、寺城周辺は城域として利用されていく。ほぼ同じ頃、烏名前野東遺跡には方1町に巡る堀に囲まれた方形居館が出現しており、居館内に居住する在地有力者が烏名熊の山遺跡の所在する烏名地区一帯を治めていたものと思われる。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会 『日本の地質3 関東地方』 共立出版 1986年10月
- 2) 田原康司 「烏名前野東遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 3) 久野俊彦 「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第41集 1987年3月
- 4) 寺門千穂 「烏名境松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 5) 稲田義弘 「烏名・福田坪一体型特定土地地区西整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 6) 梅澤貴司 「谷田部港遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 7) 皆川修 「烏名ツバタ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 8) 白田正子 「(仮称) 堂丸地区特定土地地区西整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 9) 註8) 文献に同じ
- 10) 谷田部町文化財保存会 「谷田部町文化財報告1」『古墳総覧』谷田部町教育委員会 1960年
- 11) 谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- 12) 稲田義弘 「熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 13) 青木仁昌 「烏名八幡前遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月

参考文献

- 『つくば遺跡地図』つくば市教育委員会 2001年7月
『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月



第2図 鳥名熊の山遺跡周辺遺跡位置図

表1 島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	時 代						番 号	遺 跡 名	時 代							
		旧 石 器	縄 文 器	弥 生 期	古 墳 期	奈 古 期	中 世			近 世	旧 石 器	縄 文 器	弥 生 期	古 墳 期	奈 古 期	中 世	近 世
1	島名熊の山遺跡		○		○	○	○	○	28	高 田 遺 跡					○	○	
2	境 松 貝 塚		○	○	○			○	29	水 堀 遺 跡					○		
3	島名前野遺跡		○		○	○	○	○	30	柳 橋 遺 跡				○	○		
4	真瀬山田遺跡		○						31	菊 間 神 田 遺 跡	○	○	○	○	○	○	○
5	下河原崎高山遺跡			○	○				32	根 崎 遺 跡	○	○		○	○	○	
6	高田和出古遺跡				○	○			33	西 栗 山 遺 跡	○	○		○			
7	島名葵師遺跡				○				34	真瀬三度山遺跡	○		○				○
8	島名榎内遺跡				○				35	上笠丸古屋敷遺跡	○		○			○	○
9	谷 田 部 城 跡						○	○	36	島名前野東遺跡	○		○	○	○	○	○
10	島名関ノ台古墳群				○				37	菊 間 六 十 日 遺 跡				○	○	○	○
11	面野井古墳群				○				38	島名境松遺跡	○		○				
12	下河原崎高山古墳群				○				39	谷 田 部 漆 遺 跡			○	○			
13	下河原崎古墳群				○				40	水堀屋敷添遺跡	○		○				
14	面野井南遺跡				○	○	○	○	41	水堀道後前遺跡	○		○	○			
15	島名本出遺跡				○	○	○	○	42	平 後 遺 跡				○		○	○
16	谷田部台町古墳群				○				43	真瀬堀附北遺跡				○			
17	島名榎内古墳群				○				44	真瀬山田北遺跡	○		○				
18	島名熊の山古墳群				○				45	鍋沼新田長峰遺跡	○		○				
19	島名ツバタ遺跡	○		○					46	下河原崎高山遺跡				○	○		
20	谷田部台成井遺跡	○							47	小 野 崎 館 跡						○	○
21	谷田部福田前遺跡	○		○	○				48	菊 間 城 跡						○	○
22	島名八幡前遺跡				○	○	○		49	面 野 井 城 跡						○	○
23	島名タカドロ遺跡	○		○					50	島名榎内南遺跡	○		○	○			
24	島名一町田遺跡	○							51	島名前野古墳				○			
25	真瀬新出谷津遺跡	○							52	島名関ノ台南B遺跡				○	○		
26	水堀下遺跡				○	○			53	面野井北の前遺跡				○	○	○	○
27	島名関ノ台遺跡				○				54	高 田 原 山 遺 跡				○			

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

調査区は、便宜上1～12区に分けられている。今回報告するのは、平成14年度に調査した12区の15,133㎡分についてである。

調査の結果、古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡を中心とする複合遺跡であることが確認できた。遺構は、竪穴住居跡174軒（古墳時代63軒、奈良・平安時代112軒）、掘立柱建物跡56棟（奈良・平安時代47棟、古墳時代6棟、中世3棟）、焼成遺構11基、地下式墳3基、方形竪穴遺構4基、土抗158基、堀跡1条、溝跡18条、井戸跡2基、道路跡1条などである。出土した主な遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、陶器、管状土錘、土玉、籾先形土製品、支脚、白玉、紡錘車、砥石、腰帯具、鉄鎌、刀子、鎌、釘などである。

第2節 基本層序

標高20mほどの平坦な台地上の南端部にあたる、調査12区の中央部南寄り（T7j8区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った。土層は9層に分層され、土層断面図中、第3～6層が関東ローム層に、第7～9層が常総粘土層に相当する。以下、テストピットの観察から、層序を説明する。

第1層は、暗褐色をした耕作土層である。ロームブロックを中量含み、粘性・締まりとも弱い。層厚は25～33cmである。

第2層は、黒褐色をした耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりとも弱い。層厚は5～14cmである。

第3層は、褐色をしたソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は7～19cmである。

第4層は、褐色をしたハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は33～51cmである。

第5層は、暗褐色をしたハードローム層である。第II黒色帯に相当するものと考えられる。粘性・締まりともに強く、層厚は19～26cmである。

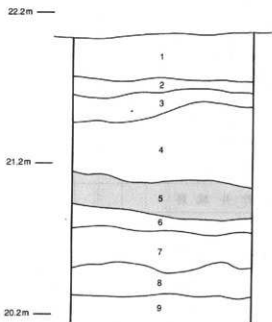
第6層は、褐色をしたハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は8～15cmである。

第7層は、にぶい黄橙色をした粘土層である。粘性・締まりともに特に強く、層厚は11～35cmである。

第8層は、黄橙色をした粘土層である。粘性・締まりともに特に強く、層厚は11～26cmである。

第9層は、にぶい黄褐色をした粘土層である。明黄橙色の砂粒を少量含み、粘性・締まりともに特に強い。下層は未掘のため、本来の厚さは不明である。

なお、住居跡などの遺構は、第3層上面で確認している。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、竪穴住居跡G3軒、掘立柱建物跡6棟などを確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1500号住居跡（第4図）

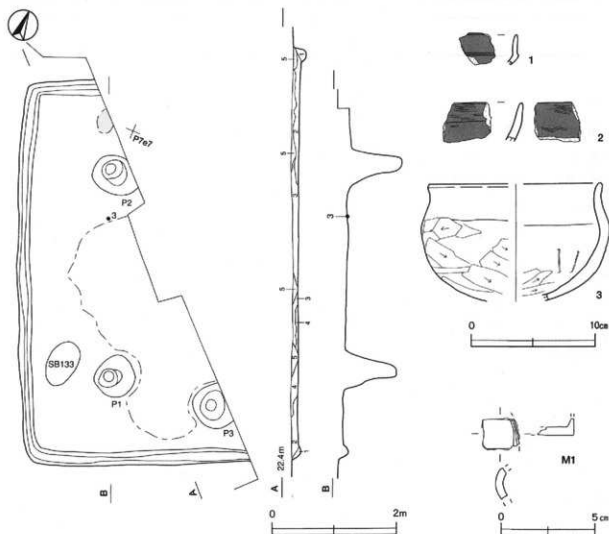
位置 調査区北部のP7e7区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第133号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 北部分が調査区域外に延びているため、南西壁6.1m、南東壁は3.6mだけが確認された。主軸方向はN-21°-Wで、方形または長方形と推定される。壁高は4cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、確認された範囲で壁溝が巡っている。

ピット 3か所。主柱穴はP1・P2が相当し、深さは56cm・64cmである。P3は深さ31cmで、南東壁際の中央に位置すると推定されることから、出入り口施設に伴うピットである。



第4図 第1500号住居跡・出土遺物実測図

覆土 5層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒少量、炭化粒少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒少量 | | |

遺物出土状況 土師器片89点(坏38、甕50、壺1)、鉄製品1点(不明)が出土している。その他、攪乱などにより須恵器片7点(坏4、甕3)、縄文土器片1点、瓦片4点、陶器片7点、土師質土器1点が混入している。1・2・M1は覆土中から、3は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 覆土中に焼土は多く認められないが、床面に焼土の広がりや確認されていることから、焼失後人為的に埋め戻されたものと考えられ、焼失に伴う焼土の可能性が高い。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第1500号住居跡出土遺物観察表(第4図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手注の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(23)	-	長石・赤色粒子	暗赤	普通	口縁部へナデ、底部外面へナデ	覆土中	
2	J.陶器	坏	-	(31)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい暗赤	普通	外部外面へナデ、内面へナデ、ナゲ後へナデ	覆土中	
3	土師器	壺	13.5	(38)	-	石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部へナデ、内面へナデ・輪筋あり	北東部下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M1	不明	(20)	(17)	(0.5)	(3.38)	鉄	網目字状	覆土中	

第1501号住居跡(第5図)

位置 調査区北部のP7h6区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 長軸3.6m、短軸3.5mの方形で、主軸方向はN-74°-Eである。壁高は9~16cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、各壁際と中央部のピット周辺を除いて踏み固められている。壁溝は北壁際の大部分と南壁際の一部で認められる。

竈 東壁のやや南寄りに付設されており、規模は焚口から煙道部まで68cm、袖部幅96cmである。壁外への掘り込みは35cmほどであり、袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は浅い皿状を呈し、被熱で赤変硬化している。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・粘土粒少量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒少量、砂粒微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| | | 7 暗褐色 | 砂粒中量、ロームブロック少量 |
| | | 8 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土粒子中量 |

ピット 15か所。P1は深さ62cmで、垂直に掘り込まれている形状やピットの周囲だけ硬い面が抜けている状況から、柱穴の可能性がある。P2~P15は、各壁際に沿って並んでいることから壁柱穴と考えられる。

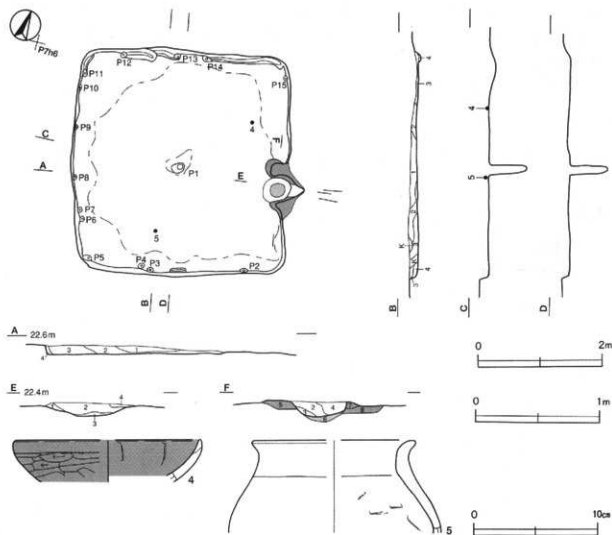
覆土 4層に分層され、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片33点(坏3, 甕30)が出土している。出土した遺物のほとんどが細片で、南西コーナー付近からまともに出ており、住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。4は北東部の床面から逆位の状態で、5は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 中央に主柱穴と考えられるピットが確認され、当遺跡では類例が少ない住居構造である。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第5図 第1501号住居跡・出土遺物実測図

第1501号住居跡出土遺物観察表(第5図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4	土師器	坏	[14.6]	(3.3)	-	石英・雲母	黒褐色	普通	内面ヘラナデ、内・外面輪積み紅	北東部床面	30%
5	土師器	甕	[12.8]	(7.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、内面ヘラナデ	南部下層	15%

第1502号住居跡(第6図)

位置 調査区北部のQ7a2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

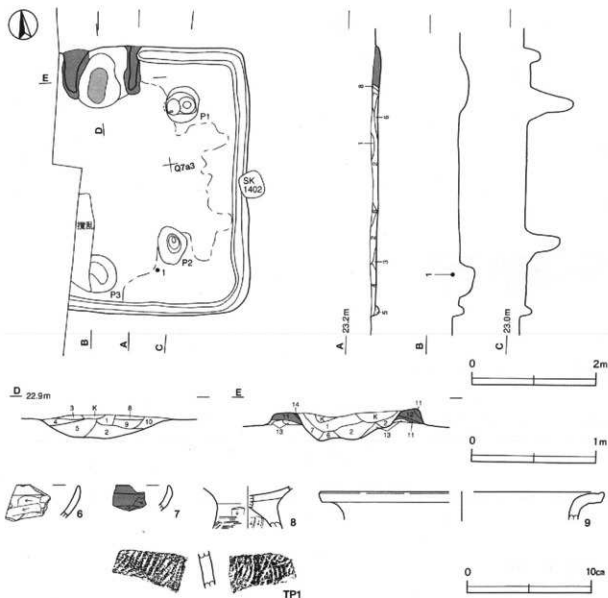
重複関係 第1402号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側部分が調査区域外に延びているため、南北軸は4.3mで、東西軸は3.1mだけが確認され、N-12-Eを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がっている。床はほぼ平坦で、コーナー部を除いて踏み固められている。壁溝は確認された壁際を巡っており、全周していたと推測される。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅126cmで、壁外への掘り込みはほとんど認められない。西袖部は掘り残した地山を芯として、東袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は浅い皿状を呈し、被熱で赤変硬化している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 灰多量、焼土粒子少量、炭化物微量 | 7 灰黄褐色 | ロームブロック・灰中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 灰褐色 | 灰中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・灰中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・砂粒・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒・粘土粒子微量 |



第6図 第1502号住居跡・出土遺物実測図

13 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

14 におい赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量

ピット 3か所。主柱穴はP1・2が相当し、深さはそれぞれ73cmと58cmである。P1からは柱の圧痕2か所が確認されている。P3は深さ26cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。各層ともロームブロックの混入が多く、堆積に乱れが見られることから、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|-------------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗 褐 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗 赤 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量 |
| 3 褐 褐色 | ロームブロック多量 | 8 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・砂粒・粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 灰 暗 褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片163点(環30, 高環1, 甕132), 須恵器片2点(環1, 甕1)が出土している。9は室内, TP1は南部の覆土中層から出土している。6は北東部, 7は北西部, 8は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 ロームブロックが西から東に向かって投げ込まれているのが確認され、人為的に埋められている。遺物はほとんどが細片であり、住居廃絶時に投棄したものと考えられる。時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。

第1502号住居跡出土遺物観察表 (第6図)

番号	類別	器種	口徑	器高	底径	出土	色調	産成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	環	-	(22)	-	長石-赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ、内面ヘウナテ後ヘウ磨き	北東部覆土中	
7	土師器	環	-	(20)	-	長石-石英-赤砂	におい黄褐色	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘウ磨き	北西部覆土中	
8	土師器	高環	-	(34)	-	長石-石英-赤色粒子	におい黄褐色	普通	器部内面ヘウ磨き、輪積み裏	北東部覆土中	10%
9	土師器	甕	[25cm]	(24)	-	長石-石英-赤砂	におい黄褐色	普通	口縁部横ナテ	室内	
TP1	須恵器	甕	-	-	-	長石-石英	暗灰黄	普通	体部外面縦位の平行磨き、内面同心円状の当て磨き	南部中層	

第1503号住居跡 (第7～9図)

位置 調査区北部のP7j7区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1419号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.4mで、短軸4.3mの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は20～43cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際と中央部を除いて踏み固められており、壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅109cmで、壁外へ30cmほど掘り込んでいる。火床部は床面を15cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土と砂質粘土で埋め戻して作っている。袖部は砂質粘土で構築され、内面が赤変している。煙道部は火床部からはほほ平坦に掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗 褐 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 | 7 純黄褐色 | 焼土粒子・砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・砂粒少量 | 8 暗 褐色 | 粘土粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂粒多量、焼土粒子少量 | 9 暗 褐色 | 砂粒中量、ローム粒子微量 |
| 5 褐 色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 | 10 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量 |

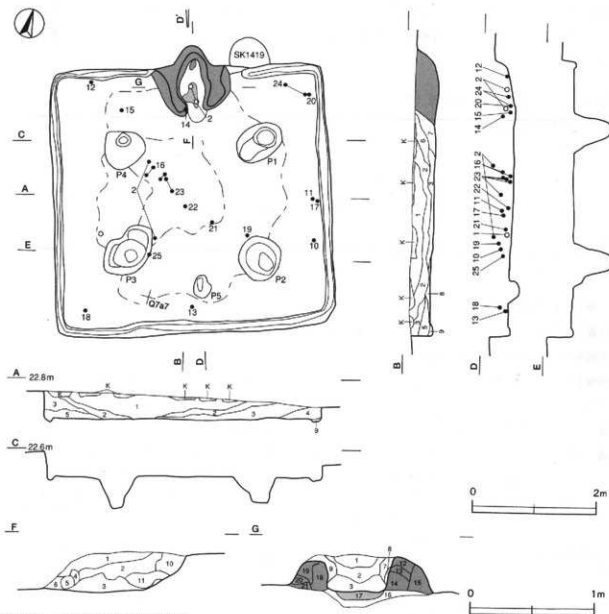
- | | | | |
|-----------|--|-----------|-----------------------------|
| 11 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック・粘土ブロック少量、
焼土ブロック・ローム粒子・炭化物微量 | 17 暗赤褐色 | 砂粒・焼土粒子中量、ロームブロック、
炭化物少量 |
| 12 オリーブ褐色 | 砂粒多量 | 18 オリーブ褐色 | 砂粒多量、焼土粒子少量 |
| 13 にぶい黄褐色 | 砂粒多量、焼土ブロック微量 | 19 にぶい黄褐色 | 砂粒中量、ローム粒子微量 |
| 14 オリーブ褐色 | 砂粒多量、焼土ブロック少量 | 20 黒褐色 | 砂粒中量、ローム粒子・炭化物少量 |
| 15 暗褐色 | 砂粒中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量 | 21 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量、砂粒微量 |
| 16 暗褐色 | ローム粒子・砂粒中量、炭化物少量 | | |

ピット 5か所。主柱穴はP1~4が相当し、深さ41~65cmである。P5は深さ16cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

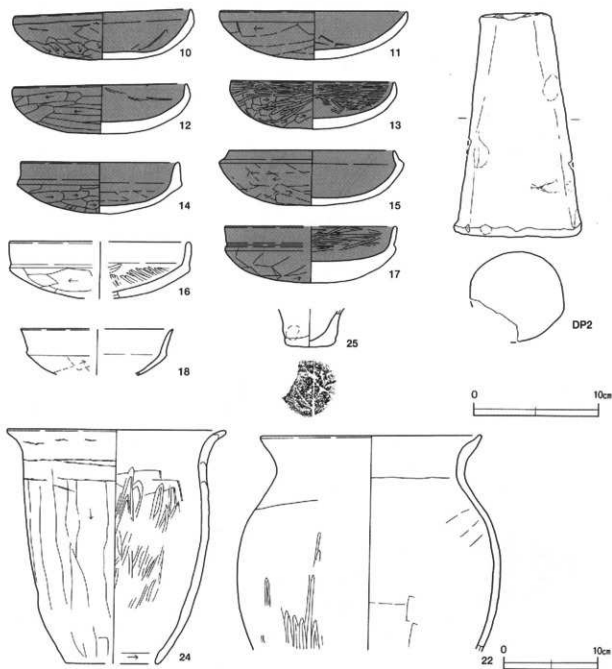
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・
砂粒少量、粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・
砂粒微量 | | |



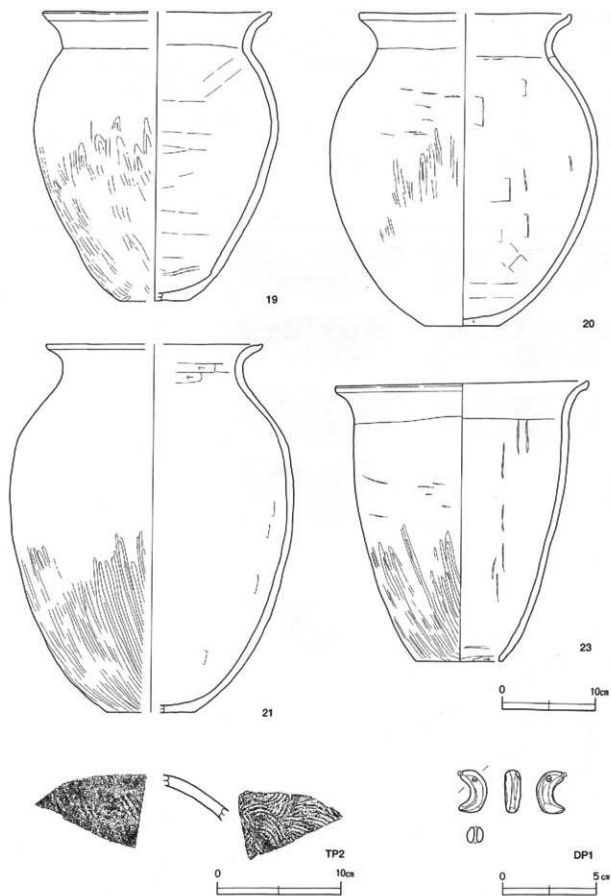
第7図 第1503号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片635点（坏96，高坏9，壺528，瓶2），須恵器片1点（壺），土製品2点（勾玉1，支脚1），鏝4点が出土している。21・22・23は中央部，24は北東コーナー部の床面からつぶれた状態で出土している。10・11は東壁際の覆土下層，13は南壁際の床面上で，15は北西部の床面上，12は北壁際の覆土下層からの出土であり，11と13は逆位の状態出土している。25とDP1は南西部の覆土下層，DP2は竈からそれぞれ出土している。TP2は中央部の覆土上層と中層から出土した破片が接合している。

所見 住居中央部から壺や瓶がつぶれた状態で出土していることから，住居廃絶時に投棄したものと考えられる。出入り口施設付近から出土した13は，意図的に伏せて置かれた可能性もある。時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第8図 第1503号住居跡出土遺物実測図(1)



第9图 第1503号住居跡出土遺物実測図(2)

第1503号住居跡出土遺物観察表 (第8・9図)

番号	種類	器号	口径	器高	底径	約上	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
10	土師器	杯	14.0	4.0	-	石灰・雲母	にぶい・青銅	普通	外面粘り付、内面ヘラナゲ残ナゲ	東院階中層	98%、PL43
11	土師器	杯	14.8	3.9	-	長石・赤色粒子	明赤銅	普通	外面ヘラナゲ残ナゲ、内面ヘラナゲ残ナゲ	東院階中層	98%、PL45
12	土師器	杯	13.6	4.0	-	長石・赤色粒子	にぶい・黄銅	普通	口縁部横ナゲ、内面ヘラナゲ残ナゲ	北院階下層	95%、PL45
13	土師器	杯	12.9	3.8	-	長石・石英	にぶい・黄銅	普通	外面ヘラナゲ残り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き	南院階床面	98%、PL45
14	土師器	杯	12.1	4.1	-	石灰・赤銅・赤色粒子	黒銅色	普通	口縁部横ナゲ、外面ヘラ磨り、内面ナゲ	東院階	98%、PL45
15	土師器	杯	13.0	4.4	-	長石・赤銅・赤色粒子	にぶい・黄銅	普通	外面ヘラ磨り後ナゲ、内面ナゲ	北西部床面	80%、PL45
16	土師器	杯	[142]	[4.6]	-	長石・赤色粒子	にぶい・黄銅	普通	口縁部横ナゲ、外面ヘラ磨り、内面ヘラ磨き	中央部下層・床面	40%、内・外 黒銅色・黄銅色
17	土師器	杯	[13.4]	4.5	-	長石・赤銅・赤色粒子	にぶい・黄銅	普通	外面ヘラ磨り後ナゲ、内面ヘラ磨き	東院階中層	65%
18	土師器	杯	[12.0]	[3.8]	-	長石・赤色粒子	緑	普通	口縁部横ナゲ、外面ヘラ磨り後ナゲ、内面ナゲ	南内コーナー	15%
19	土師器	壺	[20.0]	31.0	[8.8]	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	内面ヘラナゲ・輪轆み痕	中央部中層	45%、PL43
20	土師器	壺	122.8	33.5	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・黄銅	普通	口縁部横ナゲ、外部外面ヘラ磨り後ヘラ磨き、内面ヘラナゲ	北東コーナー・部床面	30%
21	土師器	壺	[23.0]	30.1	[9.0]	長石・石英・雲母	黒	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ナゲ	中央部下層	45%、PL45
22	土師器	壺	29.2	[23.1]	-	長石・石英	にぶい・黄銅	普通	外部外面ヘラ磨き、内面ヘラナゲ	中央部下層	40%、PL45
23	土師器	瓶	26.8	30.3	9.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・緑	普通	口縁部横ナゲ、体部外面ナゲ後ヘラ磨き、内面ナゲ・下部ヘラ磨り・輪轆み痕	中央部下層・床面	85%、PL46
24	土師器	瓶	23.1	25.0	9.6	長石・赤銅・赤色粒子	にぶい・緑	普通	口縁部横ナゲ、体部外面ヘラ磨り・輪轆み痕、内面ヘラナゲ後ヘラ磨き	北東コーナー・部下層・床面・器	70%
25	土師器	手押土器	-	[3.1]	3.9	長石・石英	黒灰	普通	内・外面ナゲ、粘り付、底部多量	南院階下層	50%、PL71
T22	灰土	塗	-	-	-	長石・石英	黒灰	普通	体部外面研削の平行印、内面同心円状	中央部上・中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	種類	出土位置	備考
DP1	勾玉	(2.3)	(1.4)	0.86	(22.1)	長石・石英	片割穿孔・ナゲ	北西部下層	PL72
DP2	支脚	18.0	10.1	10.0	(103.0)	長石	ナゲ、断面痕	北	PL74

第1504号住居跡 (第10・11図)

位置 調査区北部のP7区3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 長軸4.5m、短軸4.4mほどの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は12~30cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅170cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変している。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

遺土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|----------|----------------------------|
| 1 灰 黄 褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 灰 褐色 | 炭化物中量、粘土ブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物・砂粒微量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 3 にぶい褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・砂粒微量 |
| 4 黒 褐色 | 炭化物粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 灰 黄 褐色 | 砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | | 9 暗 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量 |

- | | | | | | |
|----|--------|-------------------------|----|--------|-------------------------|
| 10 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量 | 17 | 赤褐色 | 砂粒多量、炭化物少量 |
| 11 | 褐色 | 砂粒中量、炭化物少量 | 18 | 暗褐色 | 砂粒多量、焼土ブロック少量 |
| 12 | 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 19 | にぶい黄褐色 | 砂粒多量、焼土ブロック少量 |
| 13 | 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物・砂粒微量 | 20 | 暗褐色 | 砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 14 | 黒褐色 | 砂粒中量、焼土粒子・炭化物少量 | 21 | 黒褐色 | 砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 |
| 15 | オリーブ褐色 | 砂粒多量、焼土粒子微量 | 22 | 暗褐色 | 砂粒多量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 16 | 暗褐色 | 砂粒多量、焼土粒子・炭化物少量 | 23 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物少量 |

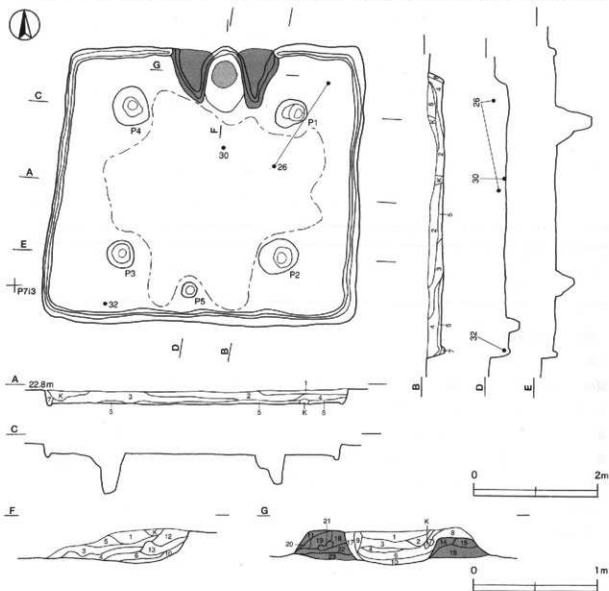
ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは30～67cmである。P5は深さ19cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 8層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

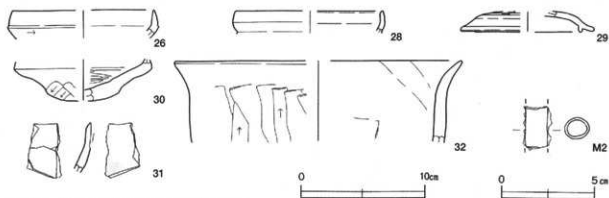
- | | | | | | |
|---|-----|------------------------|---|-----|----------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 | 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック多量 | 7 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 8 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片547点(坏117, 甕429, 瓶1), 須恵器片7点(坏5, 蓋1, フラスコ形瓶1), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(不明), 炉壁4点, 鉄滓2点が出土している。26は北東コーナー部と中央部の覆土上層から出土した破片が接合している。30は竈手前の床面, 32は南西部の床面からそれぞれ出土している。



第10図 第1504号住居跡実測図

所見 出土した土器のほとんどが細片の状態で、中央部には、土層断面の第3層にあたるロームブロックを多量に含むローム土が検出されていることから、住居廃絶時に廃棄され、埋められたものと考えられる。時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第11図 第1504号住居跡出土遺物実測図

第1504号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
26	土師器	坏	[11.2]	(2.3)	-	長石・雲母・赤色砂子	橙	普通	口縁部横ナデ、外面ヘラ削り	北東コーナー部・中央部に属	10%
28	土師器	坏	[11.6]	(1.8)	-	長石・赤色砂子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	
29	須恵器	蓋	[10.4]	(1.6)	-	長石・石英・赤色砂子	灰	普通	外周部ロクロナデ、天井部回転ヘラ削り	覆土中	
30	土師器	坏*	-	(3.4)	-	長石・石英・礫	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、体部ヘラ削り	甕手前床面	25%
31	須恵器	フラスコ型	-	(4.0)	-	長石	褐色	普通	内・外面ロクロナデ	覆土中	内面自然釉付着、裏面赤*
32	土師器	甗	[22.6]	(6.6)	-	長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、内面ヘラナデ	南西部床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M2	不明	(2.0)	(1.3)	0.2	(4.88)	黄	前面リング状、内径6.9cm	覆土中	PLR3

第1505号住居跡 (第12・13図)

位置 調査区北部のP7g7区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 長軸5.5m、短軸5.4mほどの方形で、主軸方向はN-34°-Wである。壁高は5~16cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。北西コーナー部に長軸75cm、短軸70cmの不整形の高まりが認められる。床面を5cmほど掘りくぼめて、ローム土を埋め戻し、床面より7cmほど高く盛り上げ、突き固めて作っている。中央部には径10cm、深さ5cmほどのくぼみを持たせている。また、南西側の一部で焼土の広がりが検出されている。

高まり部土層解説

1 褐色 ローム砂子多量

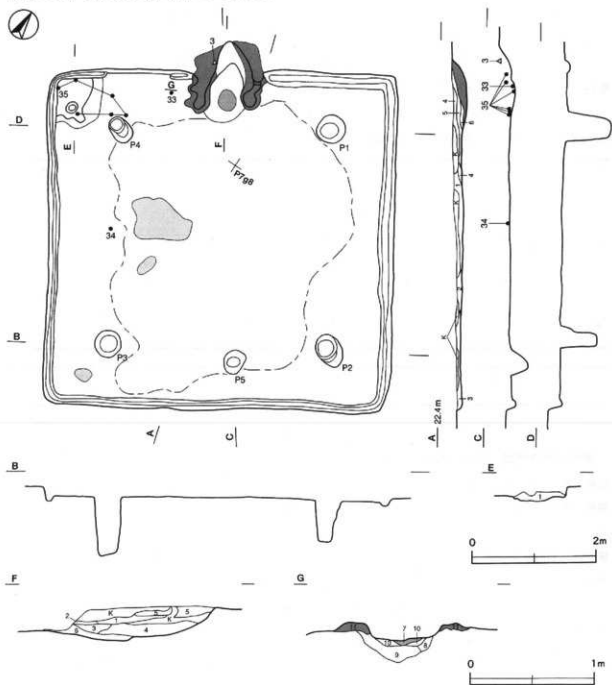
竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅120cmほどである。火床部は、

床面を35cmほど皿状にくぼめ、ローム土を埋め戻して作っている。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 黄褐色 | 砂粒中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化物・砂粒少量 | | |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは61～97cmである。P5は深さ28cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。



第12図 第1505号住居跡実測図

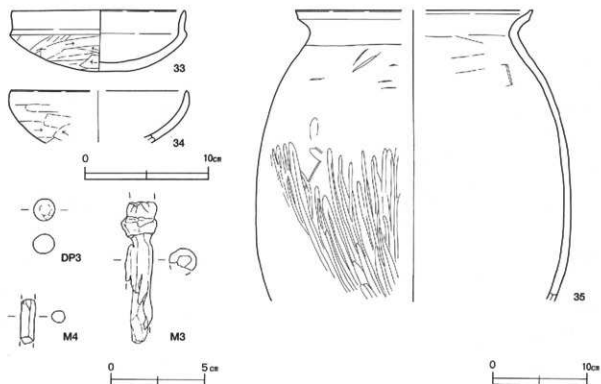
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片148点(坏28, 甕120), 須恵器4点(坏1, 甕3), 瓦片1点, 土製品1点(不明), 鉄製品2点(不明), 鉄滓1点, 炭化米が出土している。33は竈付近の床面から正位の状態で, 34は西部の覆土下層から出土している。35は西コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。また, 竈内からDP3, M3, 炭化米が出土している。

所見 西コーナー部に高さ7cmほどの高まりがあり, 中央部にくぼみを持たせている。甕などを置く棚として使用されていた可能性が考えられる。遺物は西側に多く, 35は西コーナー部から散らばって出土している。床面の一部に焼土の広がりが見出されていることから, 住居廃絶時に土器が投棄され, その後焼失したものと考えられる。時期は, 出土土器から7世紀前葉と思われる。



第13図 第1505住居跡出土遺物実測図

第1505号住居跡出土遺物観察表(第13図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
33	土師器	坏	13.7	4.9	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ, 外面ヘラ削り, 内面ナデ	竈付近床面	98%, PL45
34	土師器	坏	[14.0]	[4.2]	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り横ナデ, 内面ナデ	西部覆土下層	20%, 内面縁付
35	土師器	甕	[28.0]	[31.1]	-	長石・石英	にぶい棕色	普通	口縁部横ナデ, 体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	西コーナー部 床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP3	土玉	1.19	1.09	0.95	0.93	石英	ナデ, 無穿孔	竈内覆土中	

番号	形状	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M3	不明	(7.63)	(4.9)	(1.9)	(37.9)	鉄	断面円形	礎	P183
M4	不明	(2.4)	(0.8)	(0.65)	(2.26)	鉄	断面方形、釘	礎上中	

第1509号住居跡（第14・15図）

位置 調査区北部のQ 8 a2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1506号住居と第1405・1412号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.4m、短軸5.3mほどの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は10～28cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、壁溝が周回している。また、部分的ではあるが焼土の広がりが見出されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は、第1405号土坑に掘り込まれているため、壁外への掘り込みは不明であるが、袖部幅118cmほどである。袖部は、地山を床面より21cmほど高く掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面より13cmほど皿状に掘りくぼめ、地山面を使用している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

礎土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|----------------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・砂粒微量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物少量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒少量、ロームブロック微量 |

ピット 7か所。柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは58～79cmである。P 5は深さ39cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。P 6、P 7の深さはそれぞれ58cm、30cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 竈と北コーナーの間に位置している。長軸90cm、短軸81cmの楕円形で、深さは24cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

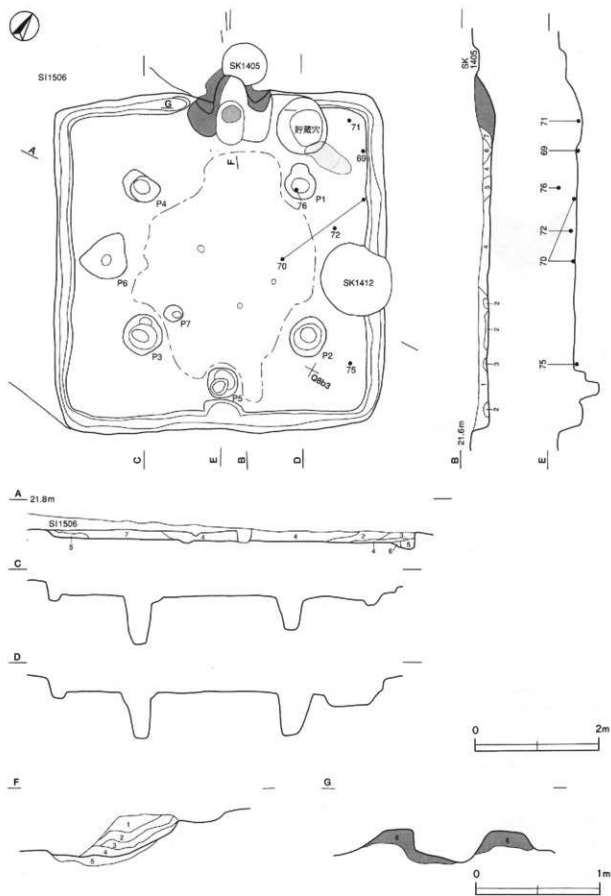
覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

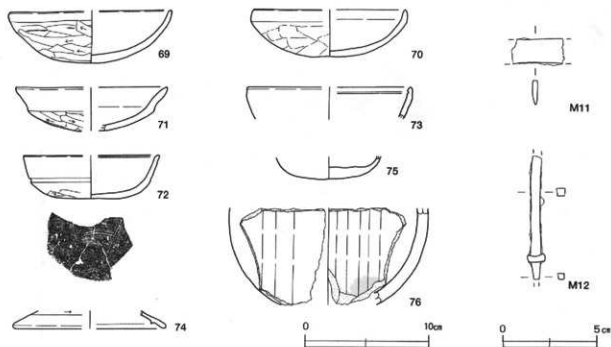
- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、炭化粒子微量 | | |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片699点（坏93、甕606）、須恵器片4点（坏1、壺1、瓶1、フラスコ形瓶1）、鉄製品2点（刀子・鎌か）が出土している。遺物は東側に広く分散し、ほとんどが細片である。69は北コーナー部の床面上、71は北コーナー部の覆土下層、76は北東部の覆土中、75は南東コーナー部の床面上からそれぞれ出土している。70は北東境界の覆土下層と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 遺物はほとんどが細片で、東側に散乱している状況から、住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。また、部分的ではあるが床面に焼土が確認されており、覆土中からも焼土が見出されていることから、焼失した可能性が考えられる。時期は、出土器から7世紀後半と考えられる。



第14图 第1509号住居跡実測図



第15図 第1509号住居跡出土遺物実測図

第1509号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	土器	鉢	[129]	4.2	-	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ、体部外面へラ削り、輪様みね、内面ナデ	北コーナー部床面	45%
70	土器	鉢	[122]	3.8	-	長石・赤色粒子	灰	普通	口縁部横ナデ、外面へラ削り後ナデ	北東壁際下層・中央部床面	30%
71	土器	鉢	[120]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ、外面へラ削り、内面ナデ	北コーナー部下層	25%
72	土器	鉢	[109]	3.5	[5.0]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部内・外面に修状工具による沈線1条	東部下層	25%、内・外面に黒色焼痕
73	須恵器	鉢	[130]	(2.5)	-	長石	褐灰	普通	口縁部クロロナデ・内面に沈線1条	覆土中	湖西産*
74	須恵器	蓋	[120]	(1.4)	-	長石・雲母	褐灰	普通	天井部回転へラ削り	覆土中	10%
75	須恵器	皿	-	(1.8)	-	長石・石英	灰	普通	底部回転へラ削り後ナデ、外周部クロロナデ	南東コーナー部床面	10%
76	須恵器	フタコナ	-	(7.7)	-	長石・石英・白色粒子	灰	緻密	外面クロロナデ、内面回転へラ削り	P1内	内面下層自然熱

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M11	刀子	(2.9)	1.3	0.3	(3.28)	鉄	断面三角形、刀身部	覆土中	
M12	簾*	(6.55)	(0.95)	(0.40)	(5.35)	鉄	断面方形、基部輪状開有り	覆土中	P1.79

第1514号住居跡 (第16~18図)

位置 調査区北東部のS8b8区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1440・1441号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.0m、短軸4.7mほどの方形で、主軸方向はN-80°-Eである。壁高は8~25cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

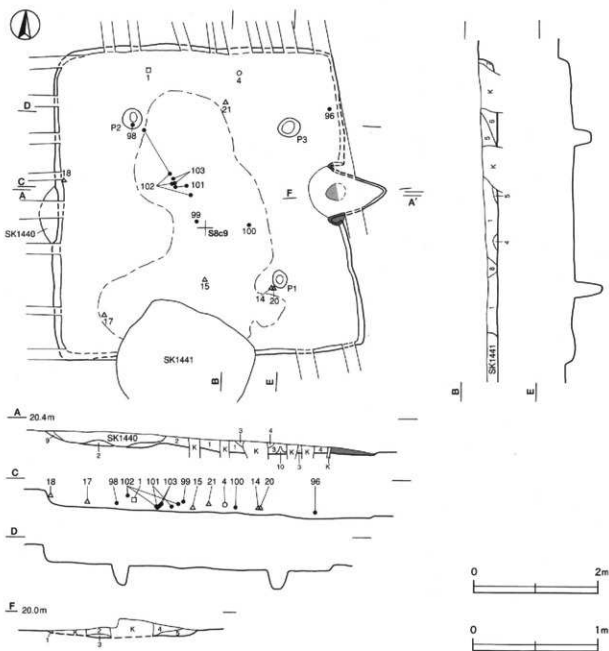
床 ほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は、焚き口から煙道部まで124cm、袖部幅98cmほどである。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も地山面を使用しており、火床面は被熱で赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 5 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化物微量 | | |

ピット 3か所。主柱穴はP1～P3が相当し、深さは33～43cmである。



第16図 第1514住居跡実測図

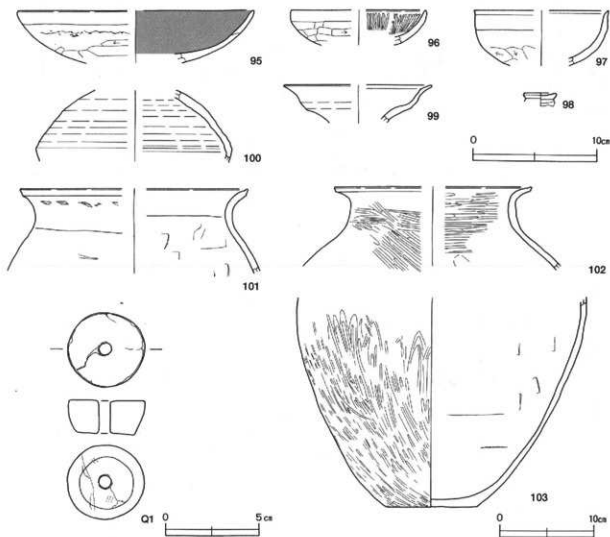
覆土 10層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

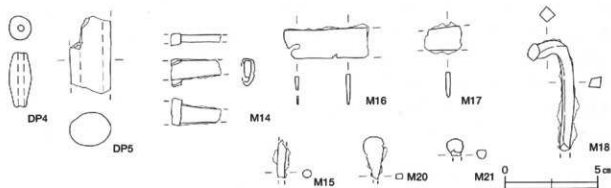
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片977点(坏165, 寛812), 須恵器3点(壺蓋1, 甌1, 長頸壺1), 土製品3点(管状土錘1, 支脚1, 不明1), 鉄製品8点(刀子1, 鎌2, 鏃1, 不明4), 石製品1点(紡錘車), 礫1点, 鉄滓1点が出土している。その他, 剥片(黒曜石)1点が混入している。遺物は中央部に多く分布しており, 98は北西部の覆土下層, 99~103は中央部の覆土中層~下層で, 101~103は土圧によりつぶれた状態で出土している。M14・M15・M17・M20は南部, M18は西壁際, DP4・Q1・M21は北部の覆土下層でそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後葉と考えられる。地形的に竈を東に作らなければならない立地でもなく, この時期の構造としては異質である。竈などが中央部からつぶれた状態で出土しており, 各壁際にも細片が散らばっていることから, 住居廃絶時に一括投棄されたものと考えられる。



第17図 第1514号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図 第1514号住居跡出土遺物実測図(2)

第1514号住居跡出土遺物観察表 (第17・18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
95	土師器	坏	[19.8]	(4.2)	-	長石・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ、外面輪積み肌、内面ナデ	覆土中	25%、外面黒色 地肌肌
96	土師器	坏	[10.8]	(2.8)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ磨り、内面ヘラ磨き	東壁階下層	
97	土師器	碗	[10.6]	(4.5)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面下葉ヘラ磨り、内面ナデ	覆土中	
98	須恵器	蓋	-	(1.1)	-	長石・石英	黄灰	普通	つまみ高0.5cm、貼り付け	北西部下層	
99	須恵器	罐	[11.7]	(3.3)	-	長石・石英	灰白	緻密	口縁部外輪積み肌	中央部中層	湖西産*
100	須恵器	長頸壺	-	(5.7)	-	長石・石英	灰	緻密	外面口クラロナデ、内面回転ヘラナデ	中央部下層	5%、湖西産*
101	土師器	甕	[24.1]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面輪積み肌、内面ヘラナデ	中央部下層	40%
102	土師器	甕	[21.0]	(8.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ、内・外面ヘラ磨き、断面肌	中央部中層	10%
103	土師器	甕	-	(22.5)	9.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラナデ・輪積み肌、底部ヘラ磨き	中央部下層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP4	管状土師	2.9	2.9	-	(3.38)	長石・雲母	ナデ、孔径0.3cm	北部中層	PL74
DP5	不明	(4.1)	2.1	1.8	(17.30)	長石・石英・雲母	ナデ、孔径0.3cm	覆土中	
Q1	粘板車	4.0	4.0	1.9	44.6	粘板岩	円盤台形、無文、孔径0.7cm	北部中層	PL75
M14	刀子	(2.7)	(1.0)	(0.65)	(3.28)	鉄	断面長方形、基部、リング状の金具有り	南部下層	
M15	不明	(2.0)	(0.5)	(0.4)	(1.22)	鉄	断面楕円形、基部のキ	南部下層	
M16	手鎌*	(4.6)	1.6	0.2	(5.30)	鉄	断面三角形、刃部*	覆土中	
M17	不明	(2.0)	1.3	0.3	(2.36)	鉄	板状、刀子手鎌の一部*	南部下層	
M18	不明	(6.0)	2.5	(0.6)	(12.6)	鉄	断面方形、L字状に屈曲、刃*	西壁階中層	PL83
M20	不明	(2.2)	(1.1)	(0.7)	(2.14)	鉄	薄部は塊状	南部下層	
M21	不明	(0.9)	(0.85)	(1.0)	(1.04)	鉄	薄部は球状	北部下層	

第1516号住居跡 (第19図)

位置 調査区北東部のS 8a9区に位置し、緩斜面に立地している。

重複関係 第90号溝と第1430号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西壁の3.8mだけが確認されている。南東に傾斜した地形のため壁の立ち上がりは確認できず、東側部分は調査区域外に延びているため、形状を把握することができない。主軸方向は竈の位置からN-41°-Wとし、方形または長方形と推定される。壁高は最も残りの良い部分で10cmほどであり、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈付近でわずかに硬化面が認められ、塹溝が北西襟際を巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されており、袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。中央部を第90号溝に掘り込まれているため、煙道部や天井部、火床部は遺存していない。

ピット 1か所。P1は、住居の形状が把握できないため性格不明である。

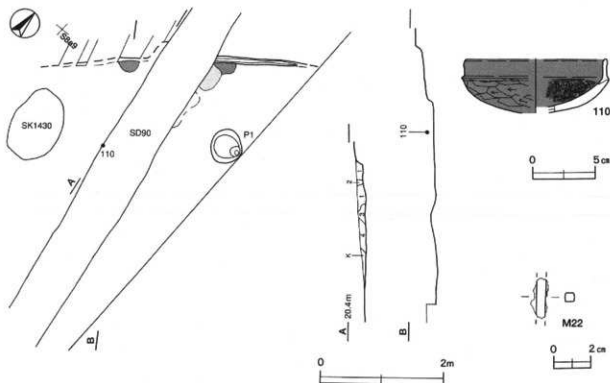
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 3 にぶい黄褐色 | 砂粒多量、粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、砂粒微量 |

遺物出土状況 土師器片23点（坏4、甕19）、土製品1点（羽口）、鉄製品1点（不明）、剥片1点（瑪瑙）が出土している。110は西部の覆土中層から正位の状態出土している。M22は覆土中からの出土である。

所見 遺存状態が悪く、遺物も少ないが、廃絶時期は出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第19図 第1516号住居跡・出土遺物実測図

第1516号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の野蠻	出土位置	備考
110	土師器	坏	[11.6]	(4.3)	-	石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ削り痕ナド・輪轆み痕	西部中層	30%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴			出土位置	備考
M22	不明	(2.1)	0.5	0.5	(1.54)	鉄	断面方形、縁の基部が			覆土中	

第1517号住居跡 (第20・21図)

位置 調査区中央部のR 818区に位置し、緩斜面に立地している。

重複関係 第1515号住居と第1435号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東に傾斜した地形のため、床面が露出した状態で検出され、北西側の壁溝4.5m、南西側の壁溝は1.5mだけが確認された。各壁の立ち上がりは確認できず、形状を把握することができないが、北西側の壁溝とピットの位置関係から、主軸方向をN-23°-Wとする方形または長方形と推定される。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められており、確認された範囲で壁溝が巡っている。

竈 攪乱を受けているため、全体の形状を把握することができない。火床部は、長径62cm、短径40cmほどで、床面から8cmほどの皿状に掘り込まれており、不整形円形を呈している。

竈土層解説

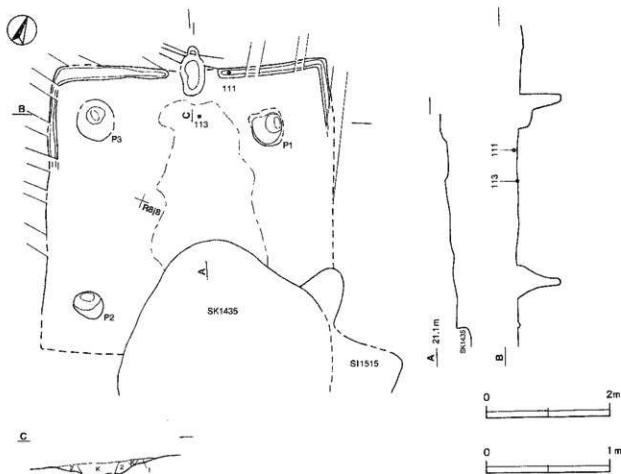
- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・砂粒少量
2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量、砂粒微量

ピット 3か所。主柱穴はP1～P3が相当し、深さは57～68cmである。

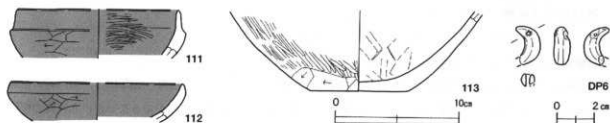
覆土 検出されていない。

遺物出土状況 土師器片70点(坏18, 甕52)、土製品1点(勾玉)、巻貝1点が出土している。111は北東壁溝内、113は竈手前の床面からそれぞれ出土している。また、巻貝片が中央部の床面から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から6世紀後葉と思われる。



第20図 第1517号住居跡実測図



第21図 第1517号住居跡出土遺物実測図

第1517号住居跡出土遺物観察表 (第21図)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
111	土師器	環	[12.8]	(3.9)	-	鉄石	にぶい橙	普通	外面へう削り、内面へう磨き	北部壁溝	
112	土師器	環	[13.8]	(3.0)	-	長石	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ、外面へう削り、内面ナデ	覆土中	
113	土師器	甕	-	(6.4)	8.4	石英・雲母・糠	灰緑	普通	底部外面二方向のへう削り、内面へうナデ	甕手前床面	10%

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP6	勾玉	(2.0)	(1.3)	0.85	(1.7)	長石・石英	ナデ、孔径0.20cm	覆土中	

第1519号住居跡 (第22図)

位置 調査区中央部の R 8 h7区に位置し、縦斜面に立地している。

重複関係 第1520・1522号住居と第1436・1438・1442号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が傾斜地のため壁の立ち上がりが認められず、南西壁5.3m、北西壁は2.5mだけ確認された。竈の位置やピットの位置関係から、主軸方向をN-23°-Wとする方形または長方形と推定される。壁高は6~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、P 3から甕手前にかけて踏み固められており、壁溝が北壁から西壁にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで134cm、袖部幅108cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど皿状に掘りくぼめられており、被熱で赤変硬化している。また、煙道部は壁外に50cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・砂粒少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂粒中量、ローム粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物少量、砂粒微量 |
| 3 灰褐色 | 砂粒多量、焼土ブロック・ローム粒子少量 | | |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量 | | |

ピット 5か所。主柱穴はP 1~P 4が相当し、深さは52~64cmである。P 5は深さ14cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

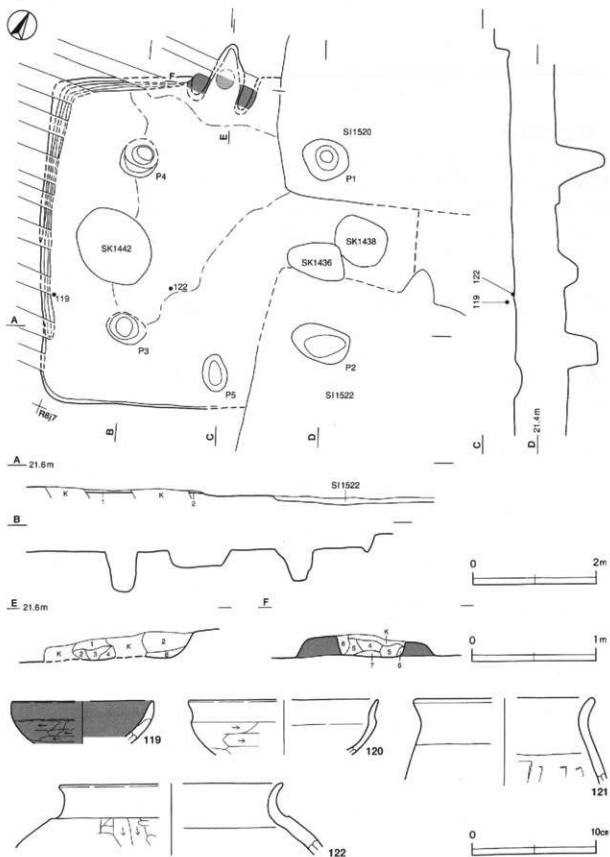
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
|--------|-----------------------|-------|----------------|

遺物出土状況 土師器片350点(坏44, 甕306), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(不明), 種子1点(桃)が出土している。119は西壁際の覆土下層, 122は中央部の床面, 桃の種子は南西コーナー部の床面上からそれぞれ

れ出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第22図 第1519号住居跡・出土遺物実測図

第1519号住居跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	種類	形状	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
119	土師器	杯	11.5	13.0	-	灰白-石灰	にぶい橙	普通	外部外直輪縁みね、内面ナデ	内壁際下層	
120	土師器	杯	15.0	14.4	-	灰石	灰褐色	普通	口縁部縁ナデ、外面ヘラ削り、内面ナデ	覆土中	
121	土師器	甕	14.0	17.0	-	石灰云母-毛織子	にぶい黄橙	普通	口縁部縁ナデ、内面ヘラナデ	覆土中	
122	土師器	甕	17.6	15.7	-	灰白-雲母	にぶい橙	普通	外部外面ヘラ削り、内面ナデ	中央部表面	

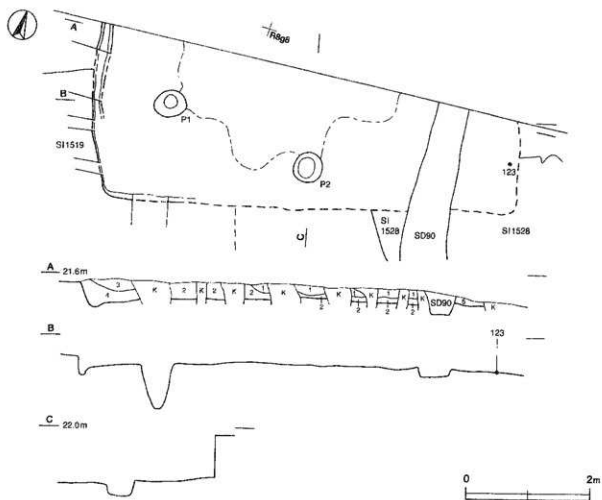
第1520号住居跡 (第23・24図)

位置 調査区中央部のR 8g8区に位置し、緩斜面に立地している。

重複関係 第1519・1528号住居跡を掘り込み、第90号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北側が調査区域外に延びているため、西壁は3.4m、南壁は1.4mだけ確認された。南東に傾斜しているため、南東壁の立ち上がりは確認できないが、硬化面の状態やピットの位置から、主軸方向をN-18°-Wとする方形または長方形と推定される。壁高は状態の良い所で16cmほどであり、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められている。壁溝は西壁で認められる。



第23図 第1520号住居跡実測図

ピット 2か所。主柱穴はP1が相当し、深さは70cmである。P2は深さ23cmで、南壁寄りの中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと推定される。

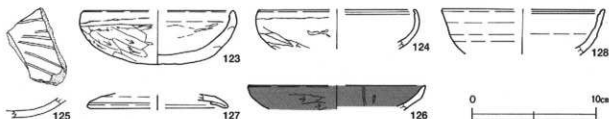
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量、 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片164点(坏37, 甕127), 須恵器片2点(坏1, 蓋1), 混入した石礫1点が出土している。遺物は、ほとんどが細片である。123は東壁際の床面から出土している。124~128は覆土中から出土している。

所見 北部が調査区外に延びているため全体を把握することができないが、確認された壁とピットの位置、硬化面の広がりなどの関係から、一辺が6mを超す大形の住居跡と推測される。廃絶時期は、出土土器から7世紀後葉と思われる。



第24図 第1520号住居跡出土遺物実測図

第1520号住居跡出土遺物観察表 (第24図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
123	土師器	坏	[120]	42	-	石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ、外面ヘラ削り・輪積み肌、内面ヘラナデ後ナデ	東壁際床面	80%, PL45
124	土師器	坏	[124]	(3.1)	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線1条、輪積み肌、内面ナデ	覆土中	
125	土師器	坏	-	(1.5)	-	長石・黄母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土中	
126	土師器	坏	[140]	(2.0)	-	長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ後ヘラ磨き	覆土中	15%, 調査済
127	須恵器	蓋	[112]	(1.1)	-	石英・白色粒子	灰	普通	外周部ロクロナデ、口縁部折返し	覆土中	
128	須恵器	坏	[129]	(3.6)	-	長石・黒黒色粒子	黄灰	緻密	口縁部内面棒状工具による沈線1条	覆土中	

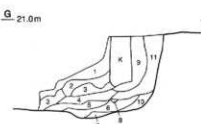
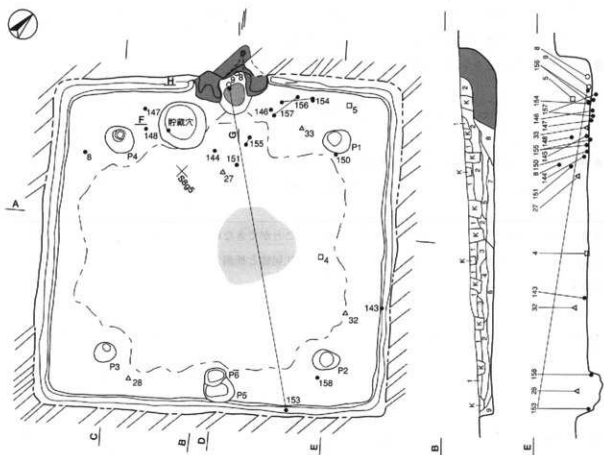
第1525号住居跡 (第25~28図)

位置 調査区北東部のS 8 g5区に位置し、緩斜面に立地している。

規模と形状 長軸7.5m, 短軸7.3mほどの方形で、主軸方向はN-44°-Wである。壁高は30~90cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。また、中央の一部で焼土の広がりが見出されている。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで150cm, 袖部幅158cmほどである。火床部は床面を15cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して作っている。火床面は被熱で赤変硬化している。



第25图 第1525号住居跡实测图

袖部はローム土を床面より12cmほど高く突き固めて基部とし、砂質粘土で構築されている。煙道部は壁外に68cmほど掘り込み、火床面からはほぼ直立している。

覆土層解説

1 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
2 暗 褐色	粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗 褐色	焼土ブロック少量
3 極暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	11 にぶい赤褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、焼土ブロック少量
4 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量	12 暗 赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子中量
5 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	13 暗 赤褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
6 暗 褐色	焼土粒子・炭化物少量	14 灰 黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・砂粒中量
7 暗 赤褐色	焼土粒子多量	15 灰 褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・砂粒少量
8 黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量		

ピット 6か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは72～83cmである。P5・P6の深さはそれぞれ30cm・37cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 竈とP4の間に位置している。一辺が1mほどの隅丸方形で、深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	5 暗 赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	6 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量
3 暗 褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	7 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	8 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

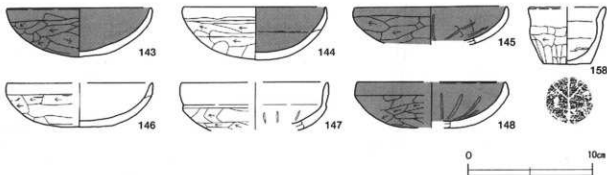
覆土 9層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

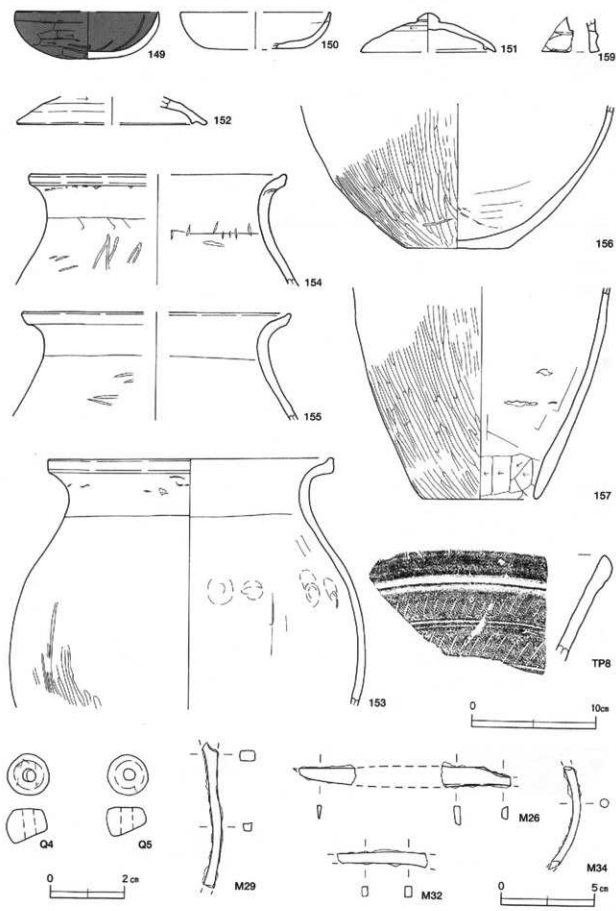
1 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	6 黒 褐色	ローム粒子微量
2 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	7 黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗 褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子少量	8 極暗褐色	粘土粒子・炭化粒子・砂粒少量、粘土ブロック微量
4 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗 褐色	ロームブロック微量
5 暗 褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片3064点(742, 高台付坏1, 高坏1, 甕2316, 瓶4), 須惠器片161点(坏32, 蓋6, 甕93, 瓶1, 瓶27, 甕1, 内面硯1), 土製品2点(支脚), 石製品2点(紡錘車1, 白玉2), 鉄製品9点(刀子1, 鎌6, 釘1, 馬具カ1), 種子2点(桃1, 不明1), 羽口3, 埴埴16点, 鉄滓14点(1717g)が出土している。遺物は北西壁際に多く、中央部からはほとんど出土していない。146・147・156・157は北部, 143は東壁際, 153は南東壁際の床面と竈内からそれぞれ出土している。158はP2際から横位の状態で出土している。また、石・鉄製品は東部でQ4が床面上, M32が覆土の中層, 北部でQ5・M27が覆土中層, M33が覆土下層, 南部でM28が覆土中層で出土している。

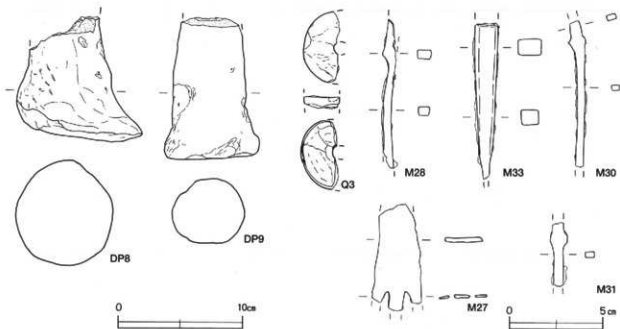
所見 一辺が7mを超える大形の住居である。竈は形状や支脚の位置などから、双掛けであった可能性が考えられる。また、竈とP4の間に貯蔵穴が付設されており特徴的である。時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第26図 第1525号住居跡出土遺物実測図(1)



第27图 第1525号住居跡出土遺物実測図(2)



第28図 第1525号住居跡出土遺物実測図(3)

第1525号住居跡出土遺物観察表 (第26~28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
143	土師器	坏	11.4	3.9	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面へう割り、内面へうナデ	北東部下層	65%, PL46
144	土師器	坏	11.3	4.3	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面へう割り、内面ナデ、輪積み痕	籠手前下層	70%, PL46
145	土師器	坏	12.0 (3.0)	-	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へうナデ後ナデ・へう磨き	北西部下層	80%
146	土師器	坏	[11.6]	3.5	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面へう割り、輪積み痕、内面ナデ	北部床面	50%
147	土師器	坏	[11.6]	3.8	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面へう割り、内面ナデ後へう磨き	北部床面	15%
148	土師器	坏	[11.8]	(3.7)	-	長石・白色粒子	橙	普通	外面へう割り、内面ナデ後へう磨き	北西部中層	20%
149	土師器	坏	[11.5]	3.8	-	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外部外面へう割り、内面ナデ後へう磨き	北東部上中	20%
150	須恵器	坏	[11.9]	3.0	[7.8]	長石・石英・雲母	黄灰	良好	内・外面ロクロナデ、内面輪積み痕	北東部下層	10%
151	須恵器	蓋	[11.0]	3.2	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転へう割り後つまみ貼付	籠手前中層	30%
152	須恵器	蓋	[15.0]	2.2	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転へう割り、外周部ロクロナデ	北西部中層	
153	土師器	甕	22.5 (19.9)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面輪積み痕、外部外面ナデ後下位へう磨き、内面へうナデ・指摺痕	南東部床面・籠内	35%
154	土師器	甕	[20.4]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部輪積み痕、外部外面へう割り後へう磨き、内面へう割り後へうナデ	北東部床面	10%
155	土師器	甕	[21.2]	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ、外部外面へう磨き、内面ナデ	籠手前下層・床面	10%
156	土師器	甕	- (11.5)	7.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外部外面下位へう磨き、内面へうナデ	北部床面	40%
157	土師器	瓶	- (17.9)	9.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内面へうナデ・下層へう割り、輪積み痕	北部床面	30%
158	土師器	ミニチュア	[6.0]	4.5	3.7	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外部外面へう割り、内面ナデ・輪積み痕	南東部床面	60%, PL71
159	須恵器	円面瓶	- (2.6)	-	-	長石・石英	灰	普通	内・外面ロクロナデ	南東部上層	
TP8	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英	オリーブ黒	良好	底部外面波状文、内面ナデ	西部上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP8	支脚	(9.9)	(10.1)	(8.7)	(454)	スサ人粘土・長石	ナデ、底部に棒の圧痕	籠内	PL71
DP9	支脚	(11.3)	7.5	6.8	(482)	長石・石英・雲母	ナデ	籠内	PL74

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q3	粘土管	-	-	(0.5)	(5.0)	粘板岩	孔径0.7cm	覆土中	通行管、PL75
Q4	円瓦	1.1	1.1	0.9	1.68	粘板岩	断面太鼓状、片面穿孔、孔径0.3cm	東部中層	PL78
Q5	白瓦	1.1	1.1	0.75	1.21	粘板岩	断面太鼓状、片面穿孔、孔径0.3cm	北部中層	PL78
M26	刀子	(8.7)	(1.1)	0.3	(8.15)	鉄	刀身は断面三角形、琴部から刀身にかけて欠損	覆土中	PL78
M27	鏃	(3.63)	(2.6)	(0.25)	(6.50)	鉄	鏃身部、魚鱗部から基部欠損	覆土部中層	PL80
M28	鏃	(7.85)	(0.75)	(0.5)	(8.30)	鉄	断面方形、上部長方形、尾端欠損	南部中層	PL79
M29	鏃	(7.75)	(0.7)	(0.5)	(7.70)	鉄	断面方形、上部長方形、尾端欠損	覆土中	PL79
M30	鏃	(8.8)	1.0	0.5	(3.75)	鉄	断面方形、基部、輪状開有り	覆土中	PL79
M31	鏃	(3.4)	0.9	0.4	(3.44)	鉄	断面長方形、基部、輪状開有り	覆土中	
M32	鏃	(4.8)	0.7	0.4	(4.34)	鉄	断面長方形、鏃の基部	北部中層	PL79
M33	釘	(8.3)	1.2	0.8	(40.8)	鉄	頭部の断面は長方形、段付の痕跡有り	北部下層	PL81
M34	不明	(5.5)	(10.1)	(0.4)	(6.10)	鉄	断面円形、為具の一部	覆土中	PL83

第1526号住居跡（第29図）

位置 調査区中央部のS7g8区に位置し、緩斜面に立地している。

規模と形状 東に傾斜しているため、東壁の立ち上がりは確認できないが、長軸6.4m、短軸5.7mほどの長方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は10cmほどで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、P5から竈に向かってよく踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北西壁中央部より西側に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅108cmほどである。中央部にも被熱で変硬化した火床面が確認されており、作り替えられたことがうかがえる。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、火床部も地山面をそのまま使用している。また、煙道部は壁外に56cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量
- 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒少量
- 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量
- 灰褐色 灰多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは18～91cmである。P5は深さ36cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

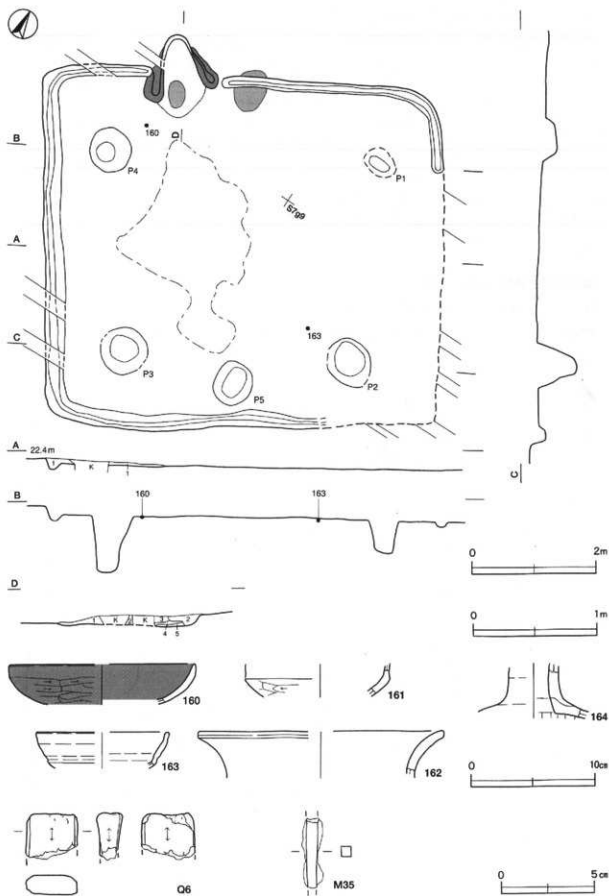
覆土 単一層である。ロームブロック及び焼土ブロックが含まれていることから人為堆積である。

土層解説

- 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片164点（坏24、甕140）、須恵器片2点（甕1、フラスコ形1）、鉄製品1点（不明）が出土している。ほとんどが細片で、160は産子剪の床面、163は南東部の床面、P4内の覆土からそれぞれ出土している。M35は北東部の覆土から出土している。

所見 竈は北西壁中央部より西側に位置しているが、北西壁中央部にも火床面が確認されていることから、竈の作り替えが行われたことがうかがえる。廃絶時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第29图 第1526号住居跡・出土遺物実測図

第1526号住居跡出土遺物観察表（第29図）

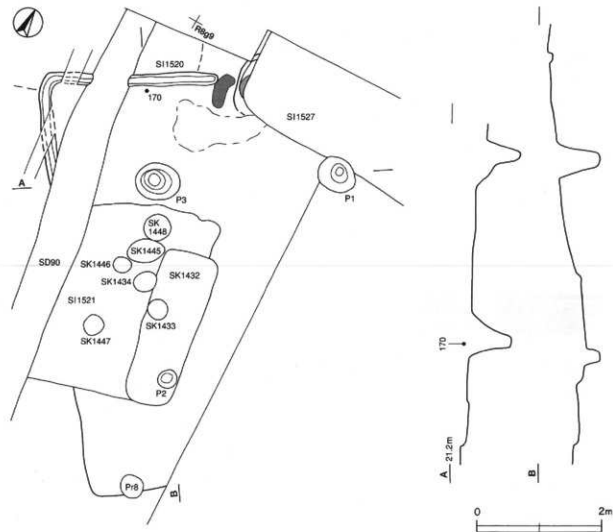
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
160	土師器	杯	[14.7]	(3.2)	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	唇部外面へうけり、内面へうけナデ	電手前床面	10%
161	土師器	杯	-	(2.7)	-	長石・赤色粒子	にぶい灰	普通	口縁部横ナデ、外面へうけり、内面ナデ	北西部上層	
162	土師器	壺	[19.4]	3.7	-	長石・石英	にぶい灰	普通	口縁部横ナデ	P 4 内	
163	須志器	罎	[10.4]	(2.9)	-	長石・石英	灰	良好	内・外面ロクロナデ	南東部下層	10%、潤西産々
164	須志器	フタツコ瓶	-	(4.5)	-	長石・石英	灰	普通	胴部ロクロナデ・輪轆み痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q6	瓦石	(2.5)	2.8	1.3	(11.5)	凝灰岩	断面長方形、断面4面	覆土中	
M35	不明	(3.2)	(1.05)	(0.55)	(6.50)	鉄	断面方形、釘々	覆土中	

第1528号住居跡（第30・31図）

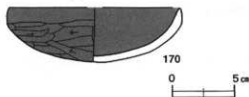
位置 調査区北東部のR 8 g9区に位置し、緩斜面に立地している。

重複関係 第1520・1521・1527号住居及び第90号溝、第8号柱穴列、第1432～1434・1445～1448号土坑に掘り込まれている。



第30図 第1528号住居跡実測図

規模と形状 東側部分が調査区域外に延びており、床面が露出した状態で検出されたため、壁の立ち上がりは確認されず、壁溝が北西側で2.8m、南西側で1.9mだけ確認された。竈や支柱穴の位置から主軸方向をN-36°-Wとする方形または長方形と推定される。



第31図 第1528号住居跡出土遺物実測図

床 ほほ平坦で、竈付近で硬化面が確認されている。壁溝は北西側の壁で巡っている。

竈 北西壁に付設され、袖と火床面の一部を残すだけである。袖部は床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は6cmほど皿状に掘りくぼめられ、被熱して赤変硬化している。

ピット 3か所。支柱穴はP1～P3が相当し、深さは45～75cmである。

覆土 検出されていない。

遺物出土状況 土師器片8点(坏1, 甕7)が出土している。その他、陶器片1点が混入している。170は北西壁際の床面から正位の状態でも出土している。

所見 耕作による攪乱で、壁の立ち上がりを確認することができず、東側が調査区域外に延びているため、全体を把握することはできないが、竈や支柱穴の位置から、一辺が6mほどの住居と推定される。廃絶時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第1528号住居跡出土遺物観察表 (第31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
170	土師器	坏	136	143	-	長石-赤色粒子	にひい黄橙	普通	口縁部横ナデ、外面ヘラ削り、内面ナデ	北西壁際床面	30%

第1535号住居跡 (第32・33図)

位置 調査区北東部のR85区に位置し、緩斜面に立地している。

重複関係 第135号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.2m、短軸5.8mほどの方形で、主軸方向はN-42°-Wである。壁高は8cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅130cmほどである。火床部は床面を16cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して作っており、火床面は被熱して赤変硬化している。袖部は床面と同じ高さまで埋め戻した土の上に砂質粘土で構築されている。煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色 | 炭化物中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | | |

ピット 5か所。支柱穴はP1～P4が相当し、深さは35～55cmである。P5は深さ38cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

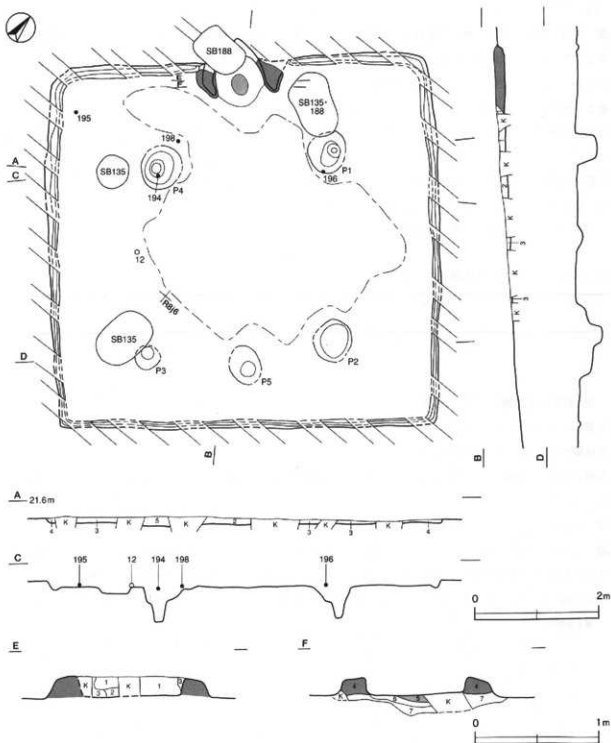
覆土 5層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

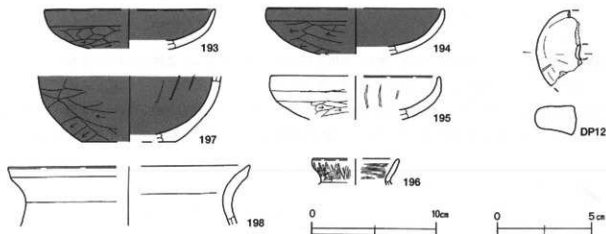
- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片175点（坏54，壺1，甕120），土製品1点（紡錘車）が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており，そのほとんどが細片である。194は西部，195は西コーナー部，198は竈手前の床面からそれぞれ出土している。また，193はP2内，197は竈の掘り方，DP12は南西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第32図 第1535号住居跡実測図



第33図 第1535号住居跡出土遺物実測図

第1535号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
193	土師器	坏	[13.6]	(3.2)	-	長石・白色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ、外面へう削り、内面ナデ	P 2 内	20%
194	土師器	坏	[14.0]	(3.7)	-	長石・白色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ、外面へう削り、内面ナデ	西部床面	20%
195	土師器	坏	[13.4]	(3.5)	-	石英・白色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ、外面へう削り・輪襷み肌、内面ナデ後へう磨き	西コーナー部 床面	15%
196	土師器	坏	[6.8]	(2.1)	-	石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部内・外面へう磨き	北東部下層	10%
197	土師器	甕	-	(5.3)	[7.5]	長石・雲母・赤色粒子	黒	普通	内面へうナデ、底部へう削り	甕内	10%
198	土師器	甕	[19.2]	(4.8)	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ	P 4 階床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP12	紡錘車	(4.1)	(2.5)	1.4	(12.6)	長石・石英・雲母	ナデ	南西部床面	

第1539号住居跡 (第34図)

位置 調査区中央部の S 8c2区に位置し、台地縁辺部の緩斜面に立地している。

規模と形状 南東に傾斜しているため、壁の立ち上がりが確認できず、北西壁4.5m、南西壁は3.1mだけ確認された。壁高は4~14cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-47°-Eで、ピットと床の硬化面などから方形と推定される。

床 ほほ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が北西壁を巡っている。

竈 北東壁中央部に付設されている。擾乱されており、袖部の一部と火床部の掘り込みだけが確認されている。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど皿状に掘りくぼめている。

甕土層解説

- 1 層 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 にぶい赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所。主柱穴はP 1~P 4が相当し、深さは30~41cmである。P 5は深さ29cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

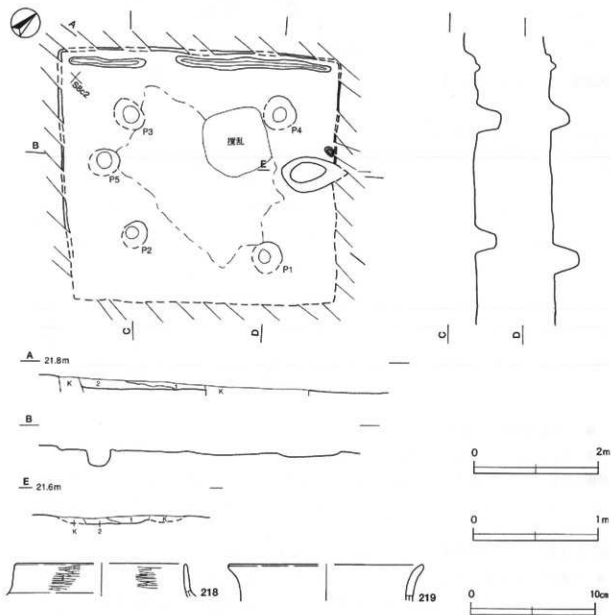
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片110点(坏14, 壺96)が出土している。覆土が薄く、遺物の出土数も少ない。出土した土器片はほとんどが細片である。218・219は覆土中のものである。

所見 廃絶時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。古墳時代の住居は主軸方向が北西を向いているものが多いが、本跡は北東に主軸方向が向いている。他にも同時期の住居で、第1501・1611号住居が主軸方向を北東に向けており異質である。



第34図 第1539号住居跡・出土遺物実測図

第1539号住居跡出土遺物観察表(第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
218	土師器	坏	13.6	(27)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面へラ磨き	覆土中	
219	土師器	壺	15.4	(29)	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁部磨ナデ	覆土中	

第1540号住居跡 (第35・36図)

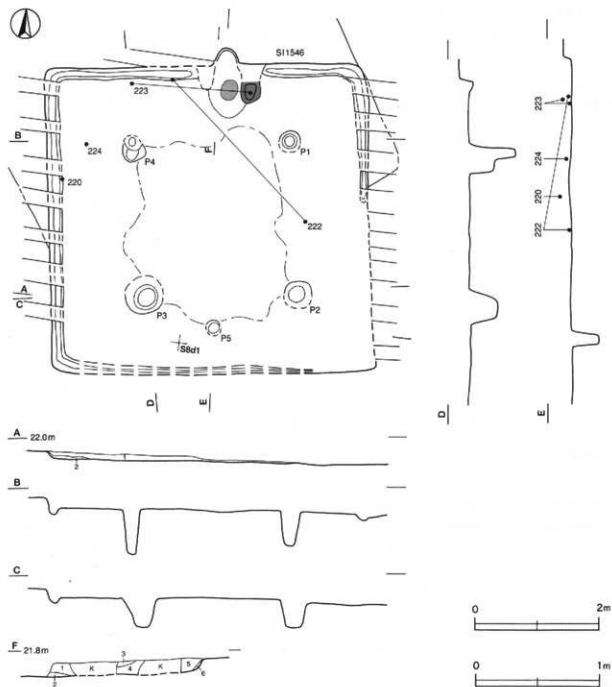
位置 調査区中央部のS7c0区に位置し、南東にやや傾斜した平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1546号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.1m、短軸4.9mほどの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は14cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで112cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に24cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。



第35図 第1540号住居跡実測図

覆土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|----------------------------|
| 1 柿褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 | 炭化物・砂粒中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物中量, 砂粒少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子少量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは44～75cmである。P5は深さ41cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

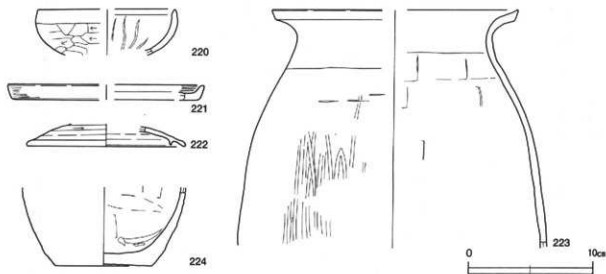
覆土 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|-------------------|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片223点(坏45, 高坏1, 甕177), 須恵器片8点(坏2, 釜1, 甕5), 礫3点が出土している。その他, 灰軸陶器片3点, 磁器片2点は攪乱による混入である。遺物は北壁間に散在しており, そのほとんどが細片である。223は竈袖部と北壁際の覆土中層, 222は北壁際と東部の床面から出土したものがそれぞれ接合している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後葉と考えられる。223は袖部の補強材として使用されていたものが, 攪乱により分離したものと推測される。



第36図 第1540号住居跡出土遺物実測図

第1540号住居跡出土遺物観察表 (第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
220	土師器	坏	[11.0]	(3.7)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り, 内面ナデ後ヘラ磨き	西壁際中層	10%
221	土師器	坏	[15.6]	1.2	[15.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き	北西部上層	
222	須恵器	甕	12.5	(1.8)	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り, 外周部ロクロナデ	北壁際・東部 床面	40%
223	土師器	甕	[19.6]	(19.0)	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	口縁部横ナデ, 体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	竈袖部・北壁 際中層	20%
224	土師器	甕	-	(6.3)	[7.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り直, 底部内・外面ヘラ削り	北西部下層	10%, 体部外面摩滅

第1541号住居跡 (第37・38図)

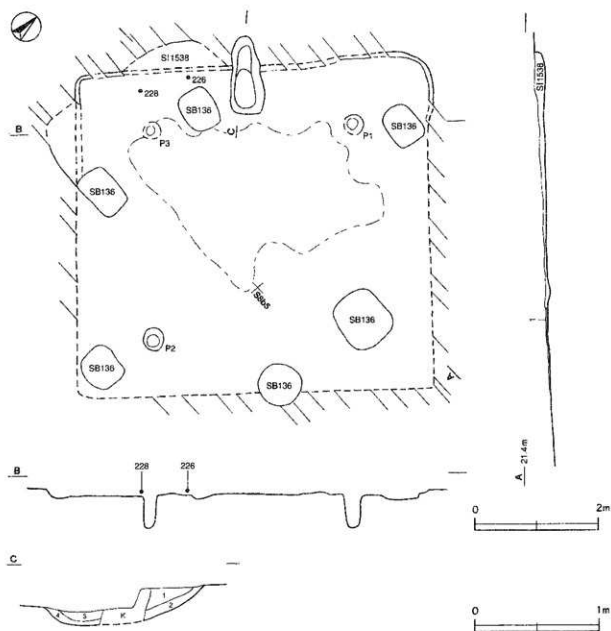
位置 調査区中央部のS 8 a4区に位置し、南東にやや傾斜した平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1538号住居と第136号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南東に傾斜しているため、北西側だけが確認されている。南西壁とピットなどの関係から、一辺が5.7mほどの方形または長方形と推定され、主軸方向はN-51°-Wである。壁高は16cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平川で、ピットの内側が踏み固められている。壁溝は認められない。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅95cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変している。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱して赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。



第37図 第1541号住居跡実測図

覆土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・砂粒少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック中量、砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐 色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 3か所。主柱穴はP1～P3が相当し、深さは49～54cmである。

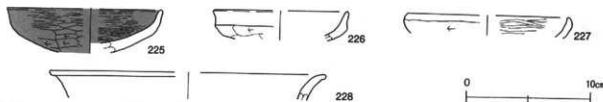
覆土 単一層である。ロームブロックや焼土ブロックを含んでいることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片72点(坯37, 甕35)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。225・227は覆土中、226・228は西部の覆土下層から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第38図 第1541号住居跡出土遺物実測図

第1541号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
225	土師器	坯	[11.2]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き	覆土中	10%
226	土師器	坯	[10.6]	(2.3)	-	長石・石英	明褐色	普通	体部外面へラ削り、内面ナデ	西部下層	
227	土師器	坯	[12.8]	(1.6)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り、内面へラ磨き	覆土中	
228	土師器	甕	[21.8]	(2.1)	-	石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部ナデ	西部下層	

第1546号住居跡 (第39・40図)

位置 調査区中央部のS7b0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1540・1582号住居に掘り込まれている。

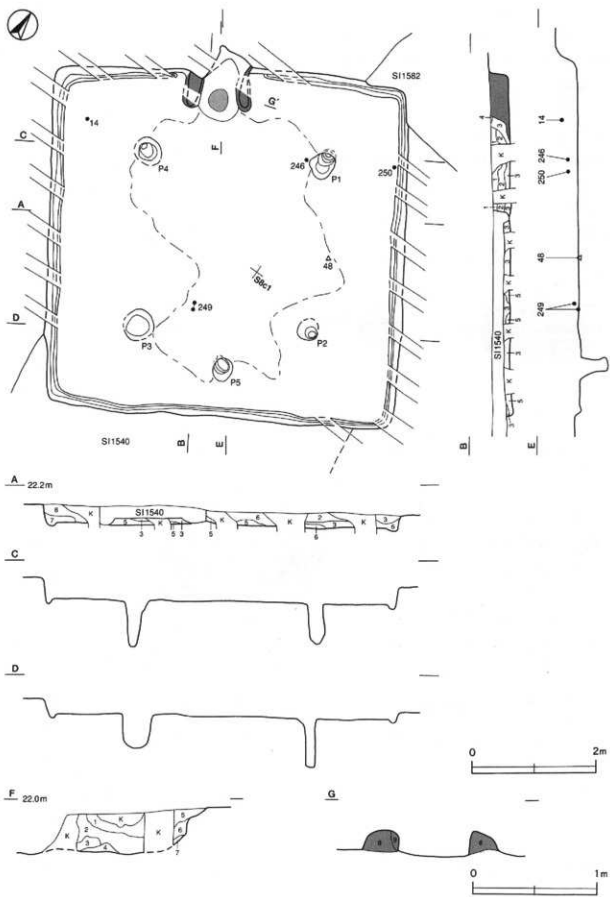
規模と形状 長軸5.7m、短軸5.6mほどの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は34cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周囲に回っている。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで122cm、袖部幅110cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変している。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック多量 | 5 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化物・砂粒少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土粒子多量、ロームブロック少量 | 7 暗 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒 褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物少量、粘土粒子・砂粒微量 | 8 灰 褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・砂粒少量 |
| | | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物・砂粒少量 |



第39图 第1546号住居跡実測図

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは54～79cmである。各主柱穴からは抜き取り痕が確認されている。P5は深さ47cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

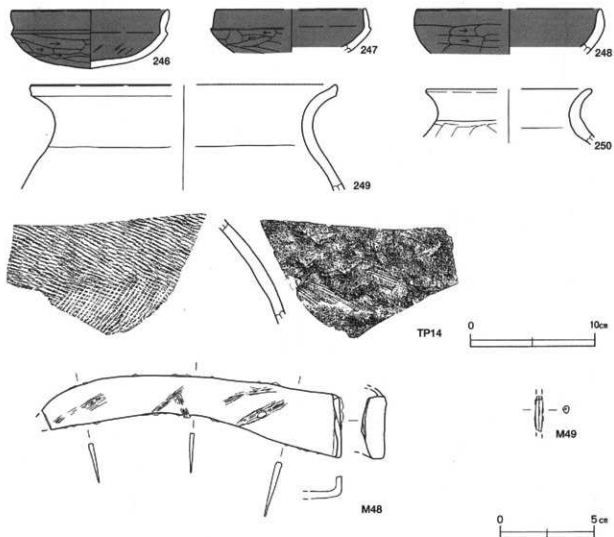
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片181点(坏21, 高坏1, 甕159), 須恵器片3点(長頸壺2, 甕1), 土製品2点(支脚), 鉄製品2点(鎌1, 不明1)が出土している。246は北東部の覆土下層, 250は北東壁際の覆土下層, 249は中央部の覆土下層と床面から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。各主柱穴跡からは抜き取り痕が確認できる。柱に使用されていた部材は, 抜き取り痕から径15～24cm程度の丸材と推定される。



第40図 第1546号住居跡出土遺物実測図

第1546号住居跡出土遺物観察表 (第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	出土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
246	土師器	杯	124	4.7	-	長石・赤漆	灰	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	北東部下層	100%, PL46
247	土師器	杯	119	(3.4)	-	長石・赤色砂子	灰青濁	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	北東部上層	10%
248	土師器	杯	146	(3.6)	-	長石・赤色砂子	灰	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	北東部中層	10%
249	土師器	差	242	(8.4)	-	石英・雲母	にぶい・黄橙	普通	口縁部焼ナデ、体部内面ヘラナデ	中央部下層・ 奥面	
280	土師器	差	133	(4.4)	-	長石・石英・雲母	灰濁	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	北東部下層	
TP14	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英	灰	普通	体部外面(方向による斜位)の平行印き、 内面ヘラナデ	北西壁際中層	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質・出土	特徴	出土位置	備考
M48	鉄	(160)	(3.5)	(0.4)	(0.93)	鉄	刃部はわずかに彎曲、中央部は研ぎ減り、基部は全体を折り返し、刃部に横線貫行付着	北東壁面	PL41
M49	不明	(185)	(0.4)	(0.6)	(6.53)	鉄	断面円形、中央に微小穴	覆土中	

第1547号住居跡 (第41・42図)

位置 調査区中央部のS7d9区に位置し、南東にやや傾斜している平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1461・1465・1469号土坑と第92号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南東に傾斜しているため、南部壁の立ち上がりは確認できない。北西壁5.7m、南西壁は4.2mだけが確認されている。主軸方向は竈やピットの配列などからN-24°-Wで、方形または長方形と推定される。壁高は30cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、確認された範囲で壁溝が通っている。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで98cm、袖部幅90cmほどである。袖部はローム土を突き固めて基部とし、その上に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面は被焼で赤変硬化している。煙道は壁外に33cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

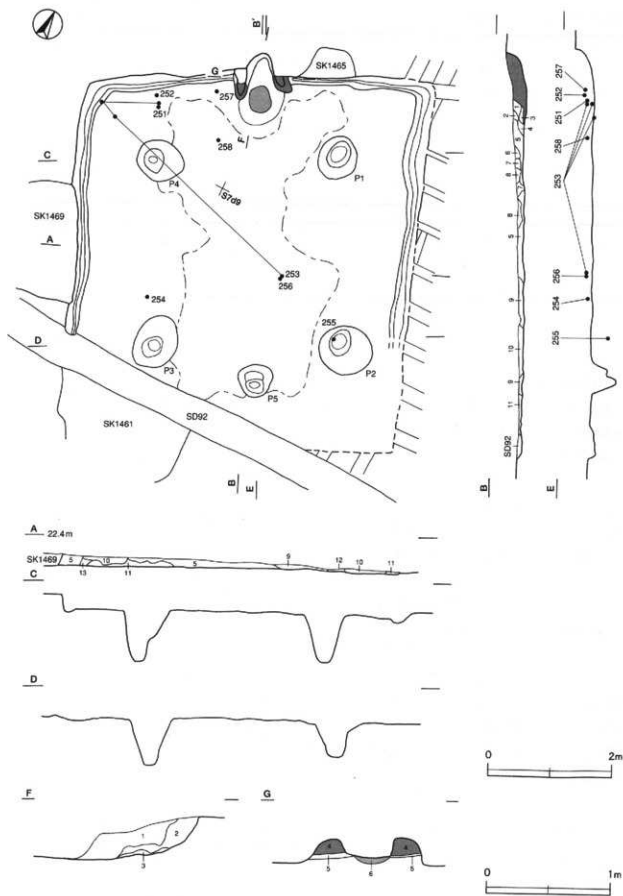
- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・灰少量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1〜P4が相当し、深さは59〜83cmである。P5は深さ40cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 13層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

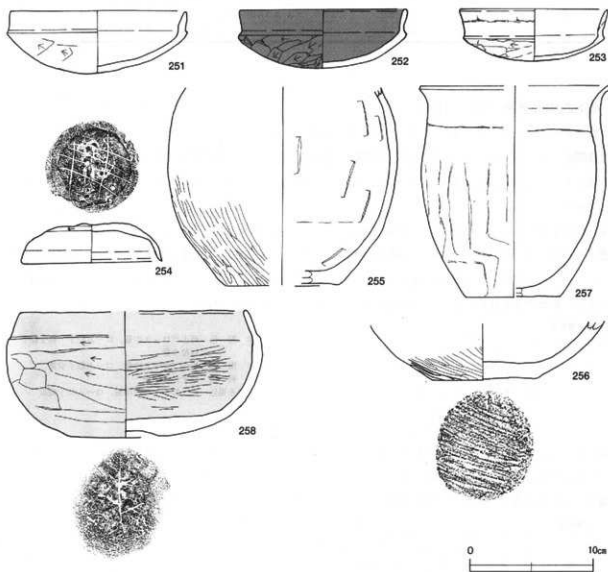
- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、砂粒微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂粒中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |



第41图 第1547号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片53点(坏12, 高坏1, 鉢1, 寛39), 須恵器片1点(蓋), 土製品2点(支脚)が出土している。遺物は北西部から多く確認されている。251~253は北西部の覆土下層から床面で出土している。253は, さらに中央部の覆土下層から出土した破片が接合している。254は南西部, 258は電手前の覆土下層, 255はP 2内, 256は中央部, 257は竈左袖脇の床面からそれぞれ出土している。

所見 土器片は北西部に多く出土している。253は北西部と中央部から出土した土器片が接合しており, 住居廃絶時に投棄され, 飛散したものと考えられる。時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第42図 第1547号住居跡出土遺物実測図

第1547号住居跡出土遺物観察表 (第42図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
251	土師器	坏	14.9	5.0	-	石炭・雲母	にぶい膠	普通	体部外面へう削り, 内面ナデ	北西部下層	95%, 片形記録, PL46
252	土師器	坏	13.1	4.8	-	長石・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面へう削り, 内面へラナデ	北西部下層	98%, PL46

番号	種類	器種	口径	器高	成径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
233	土師器	平	11.8	4.1	-	長石	黄	普通	口縁部黄ナデ・外面輪襷み痕、体部外面ヘウ張り、内面ナデ	北西部下層一 層部・中央部 床面	90%、PL46
254	須恵器	壺	11.0	3.0	-	石英	灰	普通	天弁部回転ヘウ切り、外周部口口ロナデ	南西部下層	95%、天弁部に 1層目の地巻PL47
265	土師器	甕	-	13.80	1.00	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘウ張りヘウ磨き、内面ヘウナデ	P 2 内	20%
256	土師器	甕	-	1.45	8.0	石英	にぶい黄	普通	内面ヘウナデ、底部外面ヘウ磨き	中央部床面	10%
257	土師器	小形甕	15.0	16.8	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘウ張り、底部外面ヘウナデ	竈左地階下層	50%
258	土師器	鉢	18.0	10.0	6.4	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘウ磨き、底部木炭痕	竈正面床面	60%、PL48

第1552号住居跡（第43・44岡）

位置 調査区中央部のS7j0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 南部を第148・162、173号掘立柱建物、北東部を第1492号土坑に掘り込まれている

規模と形状 長軸5.2m、短軸3.3mほどの長方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は18~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピット内側の中央部が踏み固められており、整清が周囲している。

竈 北東中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで95cm、袖幅100cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変している。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外へ16cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

甕土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、
粘土粒子・砂粒少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・
砂粒少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・
粘土粒子・砂粒少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・灰中量、焼土ブロック・
ローム粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 4 にぶい黄色 | 粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子・
焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 オリーブ赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子微量 |

ピット 3か所。主柱穴はP1・P2が相当し、深さは46cm・51cmである。P3は深さ12cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 15層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

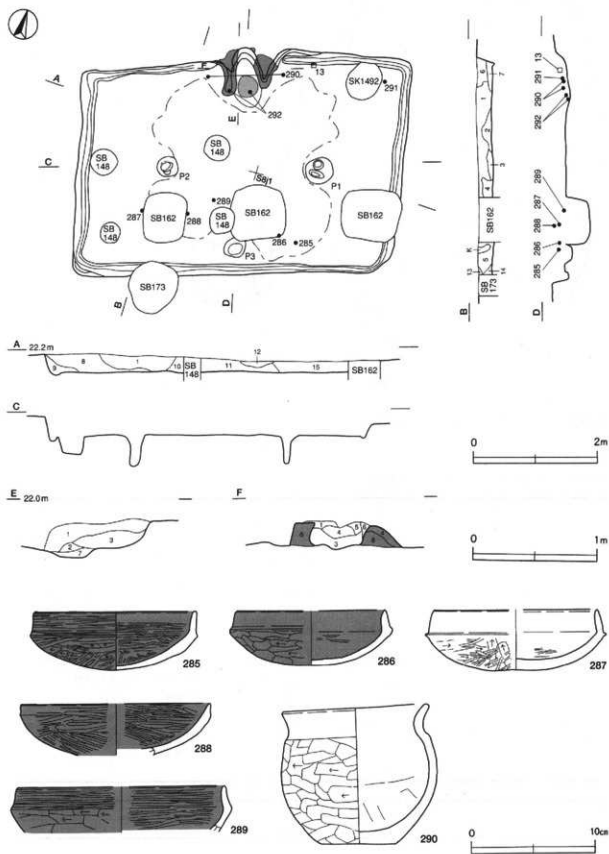
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム大ブロック多量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量 | 13 褐色 | ロームブロック・ローム粒子中量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック中量 | | |

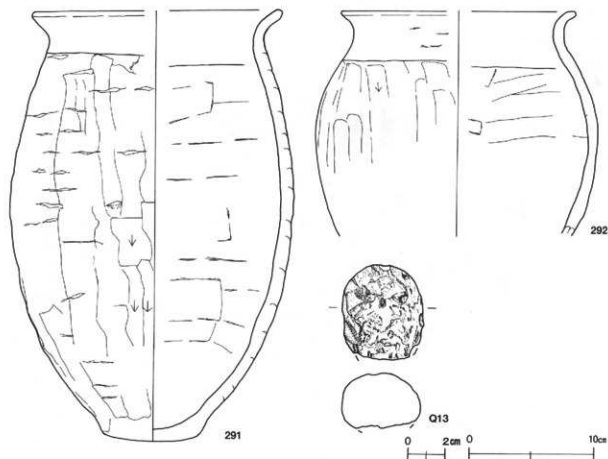
遺物出土状況 土師器片311点（坏85、高坏3、鉢1、甕221、甌1）、土製品1点（支脚）が出土している。

その他、縄文土器片1点が混入している。遺物はほぼ全域に散在しており、細片が多い。285・286は南東部、287は南西部の覆土中層で出土している。291は北東コーナ一部分の床面からつぶれた状態で出土している。290は竈の東袖脇の床面から出土した破片が接合したものである。支脚は竈内から横位の状態で、Q13は北東部壁際の覆土下層で出土している。

所見 平面形が長方形をしており、2本の支柱による特異な構造で、上屋構造は不明である。時期は、出土土器から7世紀初頭と考えられる。



第43図 第1552号住居跡・出土遺物実測図



第44図 第1552号住居跡出土遺物実測図

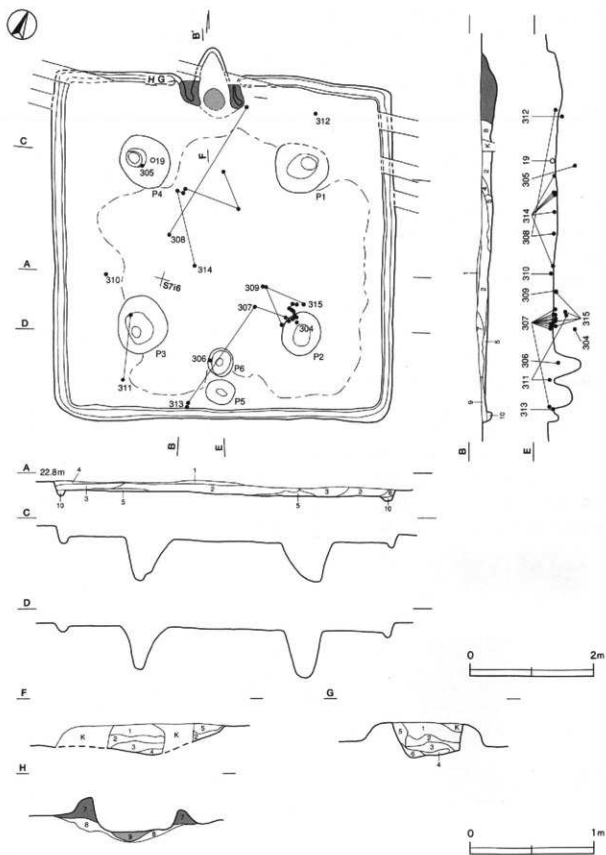
第1552号住居跡出土遺物観察表 (第44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
285	土師器	坏	12.8	4.7	-	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ割り後へラ磨き、内面へラナゲ後へラ磨き	南東部中層	90%, PL46
286	土師器	坏	[11.8]	4.4	-	長石	にぶい橙	普通	体部外面へラ割り、内面ナゲ後へラ磨き	南東部中層	30%
287	土師器	坏	[13.0]	4.9	-	長石	にぶい橙	普通	体部外面へラ割り後へラ磨き、内面ナゲ後へラ磨き	南西部中層	30%
288	土師器	坏	[15.0]	(4.1)	-	長石・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ割り後へラ磨き、内面へラ磨き	南西部上層	25%
289	土師器	鉢	[16.4]	(3.7)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ナゲ後へラ磨き	中央部下層	10%
290	土師器	小形甕	11.4	11.2	5.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部狭ナゲ、体部外面へラ割り、内面へラナゲ、底部外面へラ割り	電手前下層・床面	85%, PL47
291	土師器	甕	19.3	34.5	7.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面輪積み痕、内面へラナゲ、底部外面二方向のへラ割り	北東コーナー部下層	70%, PL47
292	土師器	甕	[18.5]	(18.0)	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面輪積み痕、体部内面へラナゲ	電手前下層	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q13	砥石	(5.0)	4.3	(3.0)	(36.6)	軽石	形状不明、側面摩滅、砥面痕有り	北東部埋設下層	

第1556号住居跡 (第45~48図)

位置 調査区中央部のS7h5区に位置し、平坦な台地上に立地している。



第45図 第1556号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.6m, 短軸5.4mほどの方形で, 主軸方向はN-17°-Wである。壁高は6~14cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, ビットの内側が踏み固められており, 壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで120cm, 袖部幅100cmほどである。火床部は床面を16cmほど皿状に掘りくぼめ, ローム土を埋め戻して作っている。袖部は, 埋め戻したローム土の上に砂質粘土で構築されている。また, 煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 褐色 砂粒中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 5 暗 赤 褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量 |
| 2 暗 赤 褐色 焼土ブロック・砂粒中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 6 暗 赤 褐色 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 灰 黄 褐色 灰多量, 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 | 7 オリーブ褐色 砂質粘土粒子多量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子中量 | 8 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| | 9 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |

ビット 6か所。主柱穴はP1~P4が相当し, 深さは64~76cmである。P5・P6は深さ30cm・47cmで, 竈と向かい合う位置にあり, 出入り口施設に伴うビットである。

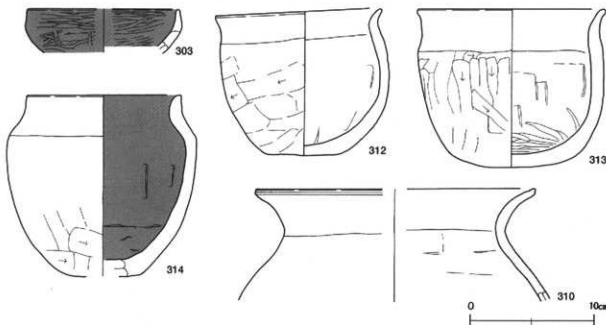
覆土 10層からなり, ブロック状に堆積状況した人為堆積である。

土層解説

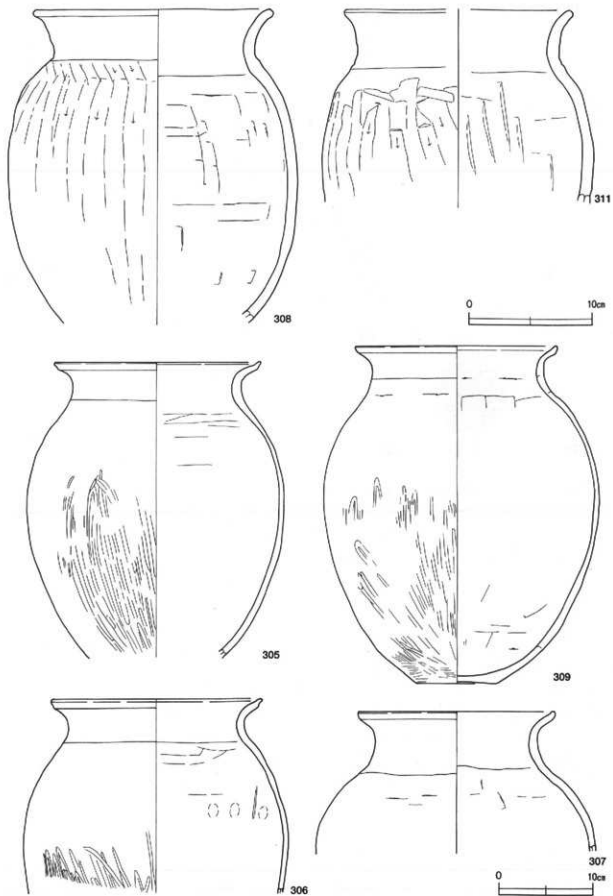
- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒 褐色 ロームブロック微量 | 7 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 8 暗 褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗 褐色 ロームブロック, 炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |
| 6 褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片766点(坏55, 甕703, 瓶8), 須恵器片3点(坏1, 甕2), 土製品1点(土玉), 種子2点(桃1, 不明1)が出土している。遺物はほぼ全域に散在している。304はP2内, 305はP4内, 311はP3内からそれぞれ土圧によりつぶれた状態で出土している。307・309・315は南東部の覆土下層から床面でまともって出土している。314は中央部の覆土下層から破片が散らばった状態で出土している。また, DP19はP4の上面, 桃の種子は南壁際の覆土下層から出土している。

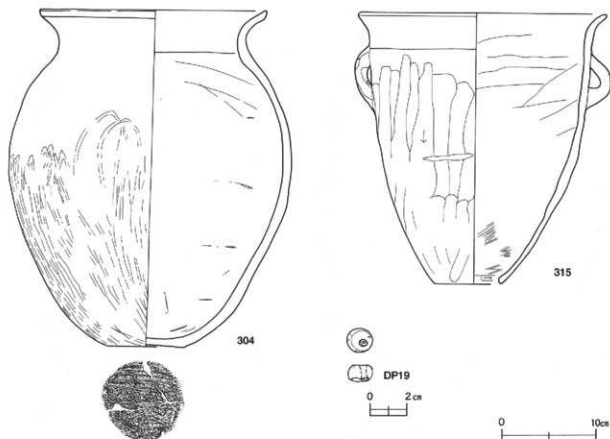
所見 土器片はほとんどがつぶれた状態でまともって出土しており, 甕が多い。出土状況から住居廃絶時に投棄されたものと推定される。時期は, 出土土器から6世紀末葉と考えられる。



第46図 第1556号住居跡出土遺物実測図(1)



第47图 第1556号住居跡出土遺物実測図(2)



第48図 第1556号住居跡出土遺物実測図(3)

第1556号住居跡出土遺物観察表 (第46~48図)

番号	種別	器種	L径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
300	土師器	坏	[120]	[35]	-	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ナテ後へラ磨き・輪組み痕	北西部上層	10%
304	土師器	甕	238	36.0	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面へラナテ、底部外面へラ磨き	P 2内	90%, PL48
305	土師器	甕	218	[31.5]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き、内面へラナテ	P 4内	60%, PL48
306	土師器	甕	22.2	[21.0]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ、体部外面へラ磨き、内面へラナテ・指痕痕	南西部上層～ 東面・北東部 上層	80%
307	土師器	甕	20.8	[15.0]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き痕、内面へラナテ	東部下層～東面	20%
308	土師器	甕	18.8	[25.0]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り、内面へラナテ	中央・北東部下層	60%
309	土師器	甕	21.3	36.1	8.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面輪組み痕、体部内面へラナテ	中央部下層	60%
310	土師器	甕	[22.0]	[9.0]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁端部難状工具による成形痕	西部下層	10%、引違り目
311	土師器	甕	[18.0]	[15.7]	-	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナテ、体部外面へラ磨り、内面へラ磨り後へラナテ	P 3内・南西部下層	30%、外面調整
312	土師器	小形甕	13.1	11.3	5.8	長石・石英・小塵	にぶい黄橙	普通	体部内面へラナテ、底部外面へラ磨り	北東部東面	95%、外面調整PL47
313	土師器	小形甕	15.0	12.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部外面へラ磨き痕、内面下位へラ磨き	南西部下層	75%、PL50
314	土師器	小形甕	12.2	14.5	[6.4]	長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部横ナテ、体部外面へラ磨り、内面へラナテ・輪組み痕	中央部・北東部下層	70%
315	土師器	甕	25.8	29.0	9.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラナテ後へラ磨き	P 2内・中央部下層	80%、PL49

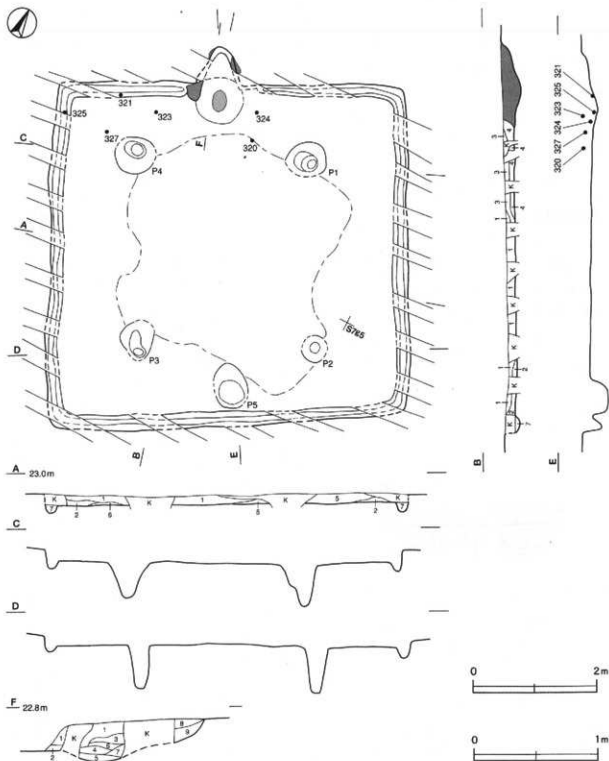
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP19	上玉	-	1.30	0.88	1.50	長石・石英	ナテ、孔径0.2cm	P 4 上面	

第1558号住居跡 (第49～51図)

位置 調査区中央部のS74区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 長軸5.8m、短軸5.6mほどの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は12~28cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周囲している。



第49図 第1558号住居跡実測図

職 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで122cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 9 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物少量 | | |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは59～73cmである。P5は深さ28cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットである。

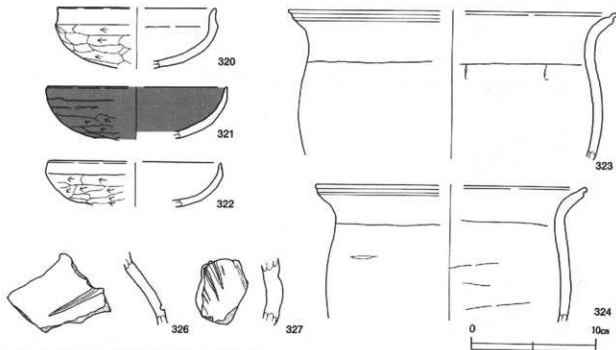
覆土 7層からなり、レンズ状にした自然堆積である。

土層解説

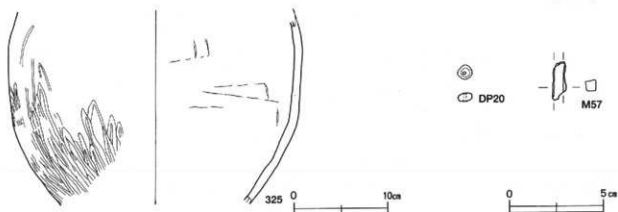
- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒少量、ローム粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・粘土ブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土器片850点（坏139、高坏1、寛709、瓶1）、土製品2点（支脚1、土玉1）、鉄製品1点（不明）が出土している。遺物の多くは覆土上層部から細片の状態で出土している。321・323・325・327は北壁際の竈横から北西コーナー部、320・324は竈手前の覆土中層から床面にかけてそれぞれ出土している。DP20は竈内の灰を水洗選別したものである。

所見 遺物は北壁際から比較的多く出土している。土器片は細片の状態で覆土の上層にまとまっていることから、住居廃絶時に投棄したものと推定され、時期は出土土器から7世紀前葉と考えられる。本跡の約20m北西に第1596・1613・1614号住居が位置している。主軸方向を北に向け、性格的な違いが見られる。集落内における小集団の違いや若干の時期差が考えられる。



第50図 第1558号住居跡出土遺物実測図(1)



第51図 第1558号住居跡出土遺物実測図(2)

第1558号住居跡出土遺物観察表 (第50・51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
320	土師器	坏	[12.5]	(4.9)	-	石灰・赤色粒子	にぶい橙	普通	外部外面ヘラ削り、内面ナデ	蔵手前中層	40%、外面黒色処理痕
321	土師器	坏	[14.4]	(3.6)	-	長石・赤色粒子	灰黄濁	普通	外部外面ヘラ削り・輪轆み痕、内面ナデ	北壁階床面	25%
322	土師器	坏	[15.6]	(3.4)	-	長石・白色粒子	橙	普通	外部外面ヘラ削り、内面ナデ	覆土中	15%
323	土師器	甕	[27.2]	(11.7)	-	長石・石灰・雲母	にぶい赤濁	普通	口縁端部棒状工具による成形痕	北壁階中層	
324	土師器	甕	[21.2]	(10.7)	-	長石・石灰・雲母	にぶい赤濁	普通	口縁端部1条の沈線、体部内面ヘラナデ	蔵手前下層	
325	土師器	甕	-	(20.3)	-	長石・石灰・雲母	にぶい橙	普通	外部外面ヘラ削き、内面ヘラナデ	北西コーナー裏面	10%
326	土師器	甕	-	(6.3)	-	長石・石灰・雲母	にぶい橙	普通	外部外面ナデ、内面ヘラナデ	蔵内	砥石転用痕
327	土師器	甕	-	(5.1)	-	長石・石灰・雲母	にぶい橙	普通	外部外面ナデ、内面ヘラナデ	北西部中層	砥石転用痕

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考	
DP20	臼	正	0.8	0.8	0.4	0.34	長石・赤色粒子 ナデ、側面太鼓状		蔵内	PL73
M57	不明	(2.0)	(0.55)	(0.55)	(1.60)	鉄	断面方形、縁の基部♯		覆土中	

第1562号住居跡 (第52～54図)

位置 調査区中央部のT7c8区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 南東部を第1590号住居、第150・152・171号掘立柱建物、東部を第158号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.5m、短軸7.4mほどの方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は6～30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝は南東壁の一部を除き巡っている。

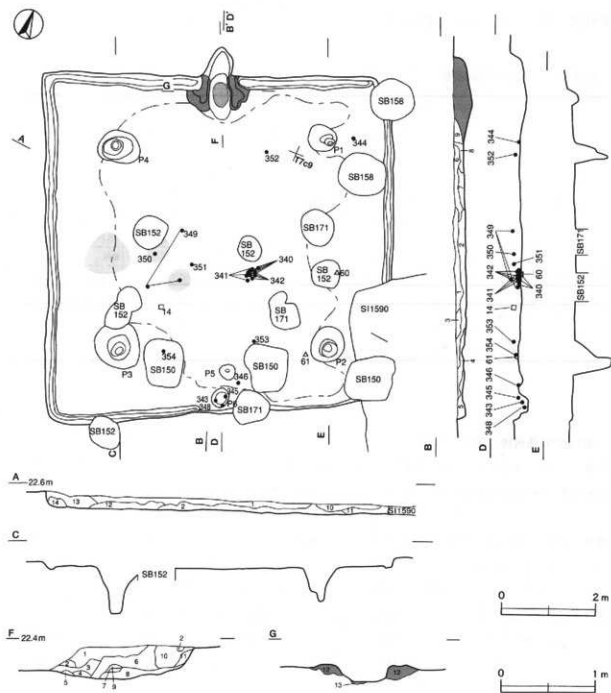
竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで154cm、袖部幅130cmほどである。袖部は床面を7～12cm掘りくぼめ、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を13cmほど皿状に掘りくぼめた地山面を使用している。袖の内側と火床面は、被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に58cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗 褐 色 焼土ブロック・砂粒少量、炭化物微量 | 9 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化物少量 |
| 2 オリーブ褐色 砂粒中量 | 10 暗 褐 色 砂粒少量 |
| 3 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 黒 褐 色 炭化粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量 |
| 4 赤 褐 色 焼土粒子中量、炭化物微量 | 12 暗オリーブ褐色 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 5 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 13 暗 赤 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 6 黒 褐 色 焼土ブロック少量 | |
| 7 極 暗 褐 色 炭化粒子中量、焼土粒子少量 | |
| 8 暗 褐 色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物微量 | |

ピット 6 か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは74～100cmである。P5・P6は深さ27cm・29cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 14層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。



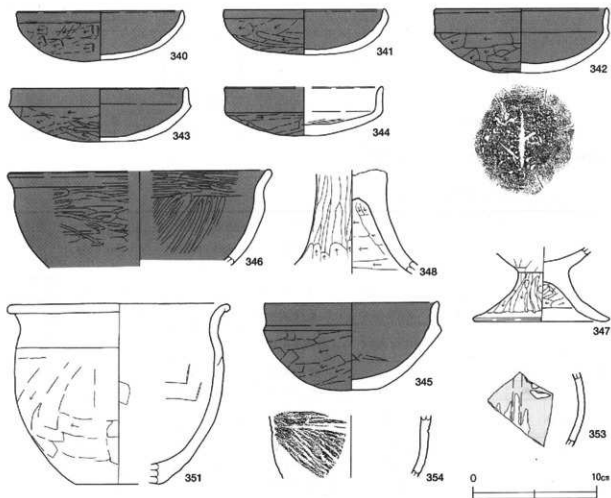
第52図 第1562号住居跡実測図

土層解説

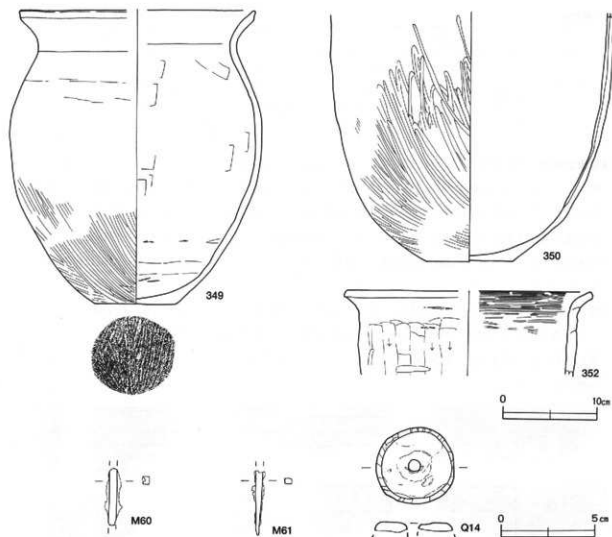
1 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	9 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量
3 黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 極暗褐色	ローム小ブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	11 黒褐色	ローム小ブロック少量
5 極暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子少量	12 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	13 黒褐色	ローム中ブロック少量
7 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量	14 極暗褐色	ローム中ブロック少量

遺物出土状況 土師器片523点(坏130, 碗5, 高坏4, 鉢2, 甕381, 瓶1), 須恵器片1点(フラスコ形瓶), 鉄製品2点(鎌カ), 石製品1点(紡錘車)が出土している。340~342は中央部の覆土下層から重なり合って出土している。349は中央部と中央部よりやや西側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。351は中央部の覆土上層から逆位で、土圧によりつぶされた状態で出土している。343・345・348は出入り施設付近の床面から出土しており、343・345は正位の状態でも出土している。M60は東部の床面, M61は南部の床面から出土している。

所見 床面積が54㎡を超える大形の住居である。中央部には焼土の広がりが見出され、土器片もままとって出土していることから、住居廃絶時に投棄され、住居も焼却されたものと考えられる。343・345・348は意図的に置かれた様子がうかがえ、住居廃絶時に祭祀的な行為が行われた可能性がある。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第53図 第1562号住居跡出土遺物実測図(1)



第54図 第1562号住居跡出土遺物実測図(2)

第1562号住居跡出土遺物観察表 (第53・54図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
340	土師器	坏	13.0	3.9	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り, 内面ナデ	中央部下層	75%, 外面磨減, PL47
341	土師器	坏	12.7	3.6	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り, 内面ナデ	中央部下層	90%, 外面磨減, PL46
342	土師器	坏	13.7	5.1	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り, 内面ナデ, 底部本葉取	中央部下層	90%, PL47
343	土師器	坏	13.9	4.3	-	長石・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面へラ削り, 内面ナデ	南部床面	95%, 漆付着, PL47
344	土師器	坏	[12.4]	3.9	-	石英	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り, 内面へラ磨き	北東部床面	70%
345	土師器	甗	13.8	6.9	3.9	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へラナデ, 底部外面へラ削り	南部床面	80%, PL48
346	土師器	鉢	[20.6]	(7.6)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部横ナデ後へラ磨き, 体部内・外面へラ磨き	南部床面	
347	土師器	高坏	-	(5.9)	11.0	石英・雲母	橙	普通	脚部外面へラ削り後へラ磨き, 裾部横ナデ	覆土上層	50%
348	土師器	高坏	-	(8.4)	-	長石・赤色粒子・雲母	橙	普通	脚部外面へラ磨き, 内面へラ削り	南部床面	40%
349	土師器	甗	[24.8]	31.4	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へラナデ・輪轆み痕	中央部上・下層	30%
350	土師器	甗	-	(26.6)	9.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面へラナデ・輪轆み痕	中央部上層	40%, 内面磨減
351	土師器	小形甗	17.1	14.4	[6.9]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ削り, 内面へラナデ	中央部上層	70%, PL49

番号	種別	容積	口径	高さ	底径	胎土	色調	施装	手法の特徴	出土位置	備考
352	上部器	飯	26.0	(8.1)	-	灰石・石英	にじい青銅	滑潤	口縁部内側へつめき、体部外側へつめき り・輪襷み風、内面ナメたへう磨き	壺手内・壺手 肩下縁	10%
333	須恵器	飯	-	(5.9)	-	灰石・黒色砂子	灰オリーブ	良好	体部内・外周ロコナデ	南部中層	明確自然色、灰赤
354	土器器	鉢	-	(3.0)	-	灰行	灰黄陶	普通	体部内面ナデ	南部床面	10%、灰赤色

番号	器種	長さ	幅	高さ	口径	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q14	粘土	4.1	4.1	(0.6)	(0.5)	粘板岩	円筒台形、無文、口径 0.7 cm	中部中層	PL75
M60	皿	(3.1)	0.4	0.4	(2.6)	鉄	扁圓方形、平底	南部床面	
M61	皿	(2.4)	0.4	0.3	(0.6)	鉄	新面長方形、底部は錐状、蓋部	宮庭東縁	

第1564号住居跡（第55・56図）

位置 調査区中央部のR 8 h3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 北東部を第1545号住居、西部を第1544号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南東に傾斜しているため壁の立ち上がりが確認できず、西壁5.5m、南壁は5.3mだけ確認されている。主軸方向はN-14°-Wで、竈やピットの配列などから方形と推定される。壁高は8～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほは平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が確認された壁際を巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで118cm、袖部幅92cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を20cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻している。煙道部は壁外へ24cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 6 灰黄褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化物少量 | | |

ピット 5か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは63～75cmである。また、底面から柱のあたりが確認されている。P 5は深さ46cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。各ピットの平面形は楕円形をしており、長軸線が中央に向かっている。

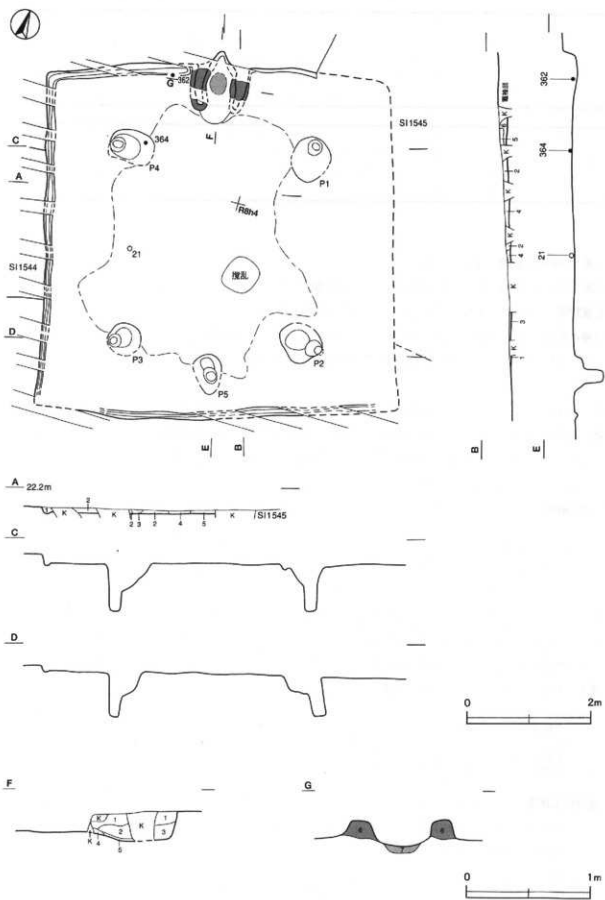
覆土 6層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

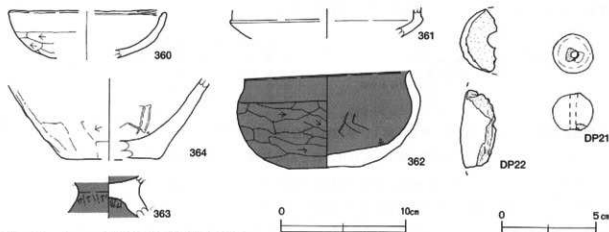
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂質粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子中量、砂粒少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片85点（坏7、碗1、高坏1、壺76）、須恵器片1点（甕1）、土製品2点（土玉、管状土鐘）が出土している。360は竈、361はP 3の覆土中、362は北壁際の床面、263は覆土中、364はP 4内、D P 21・D P 22は西側の床面と覆土中から出土している。

所見 各ピットは楕円形を呈している。長軸線が中央に向かっていることから、抜き取り痕と考えられる。抜き取り痕からは柱のあたりが確認され、直径12～15cmほどの丸材が使用されていたと推定される。時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。



第55图 第1564号住居跡实测图



第56図 第1564号住居跡出土遺物実測図

第1564号住居跡出土遺物観察表 (第56図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
360	土師器	環	[12.3]	(3.7)	-	長石・雲母	橙	普通	口縁端部内面に棒状工具痕。内面ナデ	竈内	
361	土師器	環	-	(2.3)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	P3内	内面厚減
362	土師器	碗	13.1	7.7	3.7	長石・石灰	橙	普通	内面ナデ・ヘラ磨き痕。底部ヘラ削り	北壁際床面	70%、PL48
363	土師器	高杯	-	(3.3)	-	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	胴部内・外面ヘラ削り。杯部内面ナデ	南西部上層	10%
364	土師器	壺	-	(6.4)	(7.9)	長石・石灰・雲母・織	にぶい橙	普通	胴部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ	P4内	10%、別面厚減

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考	
DP21	土玉	-	5.1	(2.0)	(1.20)	長石・石灰・赤色粒子	ナデ		西壁床面	PL73
DP22	管状土塊	(4.1)	(4.1)	(1.93)	(21.60)	長石・石灰・赤色粒子	ナデ		竈土中	

第1567号住居跡 (第57・58図)

位置 調査区中央部のT8b1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 竈部を第1560号住居、南部を第1590・1642号住居、第157号掘立柱建物、北東コーナー部を第1554号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸3.6m、南北軸は2.9mだけ確認された。主軸方向をN-9°-Wとする方形または長方形と推定される。壁高は15~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部から竈手前にかけて踏み固められており、壁溝は北西コーナー部を除き巡っている。また、中央部で焼土の広がりが検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、幅は104cmほどで内側が赤変硬化している。火床部は床面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量、砂粒微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・砂粒少量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量、砂粒微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・砂粒少量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量、砂粒微量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・灰少量 |
| 5 灰黄褐色 焼土ブロック・砂粒少量、炭化物微量 | |

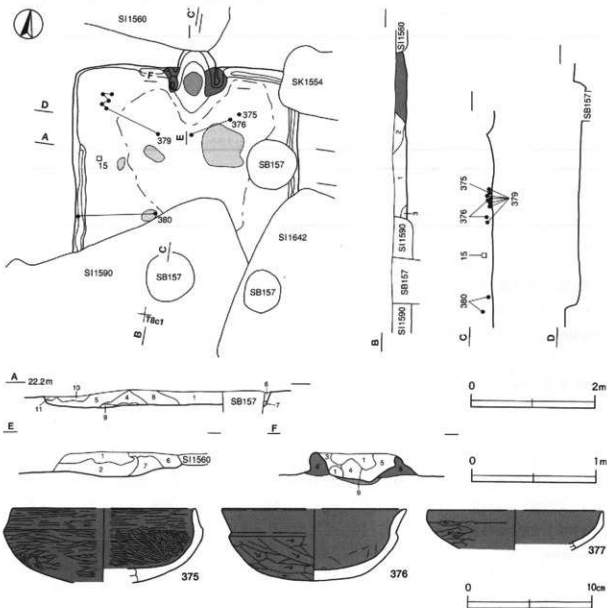
覆土 11層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

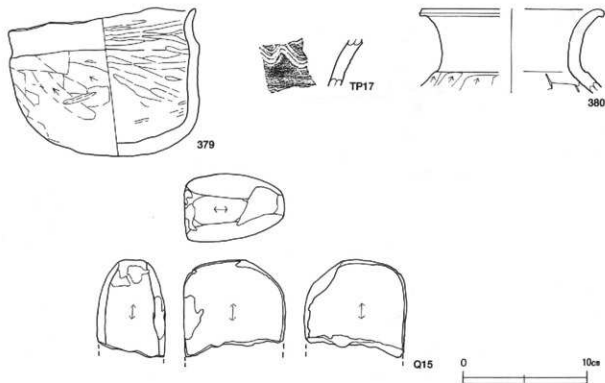
- | | | | |
|--------------|-------------------|----------|-------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム小ブロック少量 | 7 極 暗 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 に ぶ い 黄 褐色 | 砂粒中量、焼土粒子少量 | 8 黒 褐色 | 炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 3 褐 色 | 焼土粒子・炭化物微量 | 9 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 10 黒 褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 5 黒 褐色 | ローム中ブロック少量 | 11 黒 褐色 | ローム小ブロック・焼土ブロック少量 |
| 6 黒 褐色 | ローム中ブロック・焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片106点(坏12, 鉢1, 甕93), 須恵器片1点(甕), 土製品1点(支脚), 石器1点(砥石)が出土している。遺物は壁際に散在しており, ほとんどが細片である。379は北西コーナー部の覆土下層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。375・376・支脚は甕手前の覆土下層, Q15は西部の覆土中層, 380は西壁際の覆土上層と中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 床面には遺物と伴に焼土の広がりが確認されている。土器片は壁際にあり, 中央部には見られない。出土した土器片は, ほとんどが細片であることから投棄されたもので, 住居廃絶時に伴う焼失住居であると考えられる。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第57図 第1567号住居跡・出土遺物実測図



第58図 第1567号住居跡出土遺物実測図

第1567号住居跡出土遺物観察表 (第57・58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
375	土師器	坏	[146]	5.9	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後ヘラ磨き	甕手前下層	35%
376	土師器	坏	[146]	5.8	-	石英・赤色粒子	陶灰	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ後ナデ	甕手前下層	60%
377	土師器	坏	[140]	(3.2)	-	黒石・赤褐色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ	覆土中	
379	土師器	鉢	14.5	12.0	-	長石・石英・赤色粒子	明黄緑	普通	口縁部内面ヘラ磨き、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き、底部内面ヘラ磨き	北西部下層～床面	80%、内・外面 黒色処理痕PL48
380	土師器	甕	[144]	(6.7)	-	長石・石英・赤母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	西壁際上層・中央部下層	
TP17	須恵器	葉	-	-	-	長石・石英	陶灰	普通	頸部外面波状文、内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q15	磁石	(7.7)	(8.0)	(5.5)	(69.0)	砂岩	縦面4面	西部中層	PL76

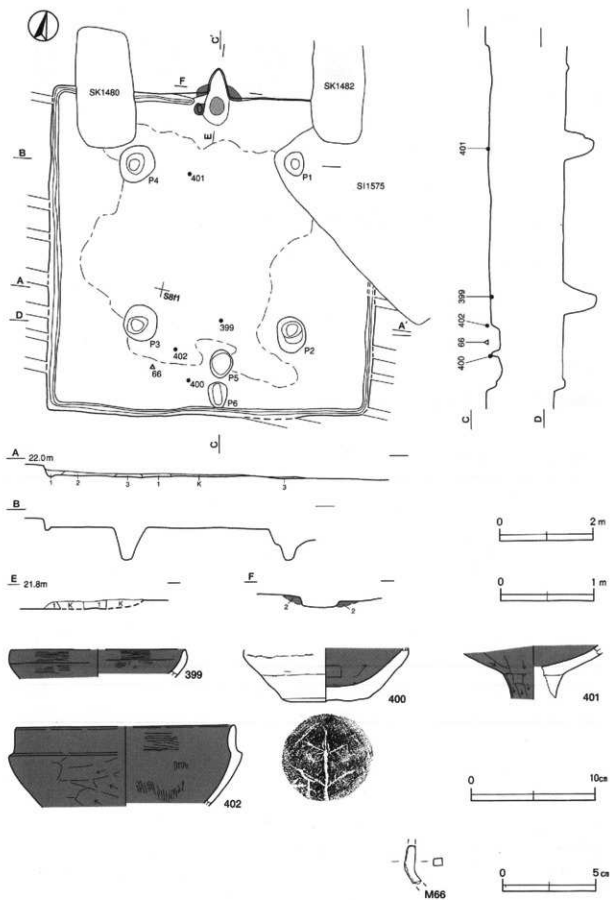
第1572号住居跡 (第59図)

位置 調査区中央部のS7e0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 北東部を第1575号住居、北部を第1480・1482土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺が6.9mほどの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は4～28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝は北東側の一部を除き巡っている。



第59图 第1572号住居跡・出土遺物実測图

竈 北壁中央部に付設されており、規模は笑口部から煙道部まで120cm、袖部幅98cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に53cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中級、焼土粒子・炭化粒子・砂砂少量 2 暗赤褐色 焼土粒子中級、ロームブロック・炭化物少量

ピット 6か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは60～71cmである。P5・P6は深さが17cm・23cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状態を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック中級

遺物出土状況 土師器片82点（坏10、高坏1、鉢1、甕70）、鉄製品1点（刀了）が出土している。その他、擾乱により常滑片1点が混入している。北壁際からは覆土が薄いため遺物は出土していない。399・400・402は南部の床面から出土している。401は電手前の床面から出土している。

所見 床面積が47㎡を超える大形の住居で、時期は出土土器から6世紀後葉と考えられる。半径20m以内に主軸方向をほぼ同じくする同時期の住居が隣接しており、集落内に構成された小集団の中心的存在であったことがうかがえる。

第1572号住居跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	地肌	手法の特徴	出土位置	備考
399	土師器	坏	11.0	2.1	-	長形	にふい	滑	口縁部・底部内・外面へラ削き	南部床面	
400	土師器	坏	-	4.2	7.0	石灰・赤色粒子	にふい	滑	体部外面輪積み肌、内面へラナグ、木素	南部床面	60%
401	土師器	高坏	-	4.0	-	石灰・赤色・赤色粒子	にふい	滑	坏部内面ナグ・取付、坏・器部外面へラ	電手前床面	
402	土師器	鉢	17.5	6.4	-	長形・石灰・赤色	にふい	滑	口縁部内面・体部内面へラ削き	南部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M66	不明	2.0	0.4	0.4	0.90	鉄	断面方形、中央部で傾曲、木部*	南部下層	

第1573号住居跡（第60・61図）

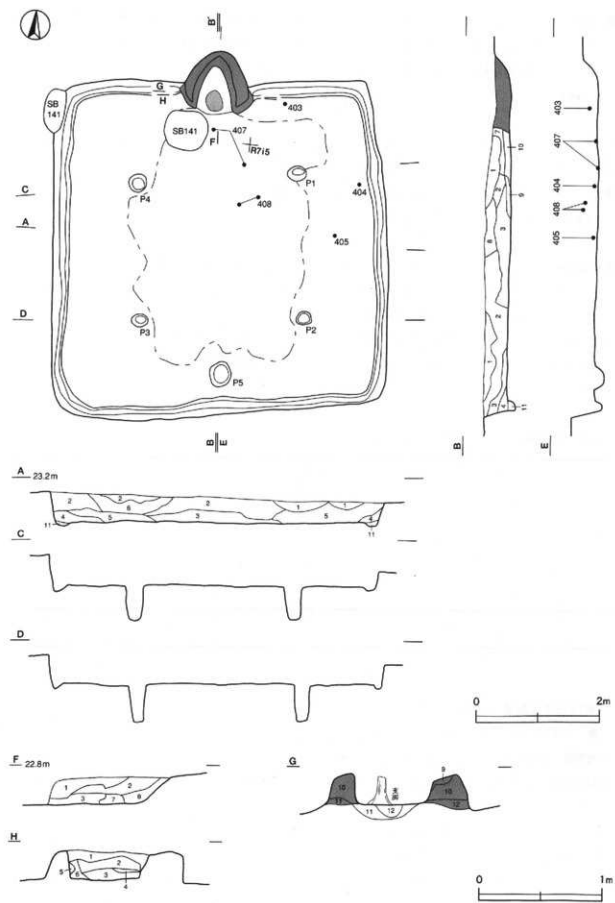
位置 調査区中央部のR74区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 北西部を第141号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.4m、短軸5.3mほどの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は20～45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は笑口部から煙道部まで100cm、袖部幅120cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変している。火床部は床面を10cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して作っている。また、煙道部は壁外に50cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。



第60图 第1573号住居跡実測图

覆土層解説

1 暗褐色	粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	7 灰褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・灰少量
2 極暗赤褐色	焼土ブロック・灰中量, 炭化粒子少量	8 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量
3 灰褐色	灰多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量	9 極暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化物・灰少量
4 にいり赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・灰少量	10 灰黄褐色	砂粒・粘土粒子多量, ロームブロック少量
5 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量	11 褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量	12 暗褐色	ロームブロック少量

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは57～58cmである。P5は深さ16cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

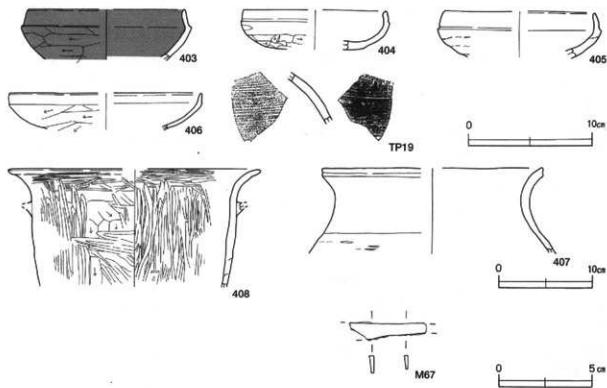
覆土 11層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8 灰黄褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量
3 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量	9 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
4 極暗褐色	ロームブロック微量	10 灰黄褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土ブロック少量
5 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量	11 暗褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック		

遺物出土状況 土師器片1138点(坏156, 甕974, 瓶8), 須恵器片1点(壺カ), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(刀子)が出土している。遺物は、覆土上層から中層にかけて甕や坏が多く出土しており、そのほとんどが細片である。403は北東部の覆土中層, 404は東壁際の覆土下層, 405は東部の覆土下層から出土している。407は竈手前の床面から出土した2点が接合されている。土製支脚は、竈の火床面に据えられた状態で出土している。TP19・M67は覆土中からの出土である。

所見 覆土上層から床面にかけて遺物が散在している。細片がほとんどで、出土状況から見て住居廃絶時に投棄されたものと推定される。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第61図 第1573号住居跡出土遺物実測図

第1573号住居跡出土遺物観察表 (第61図)

番号	種別	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
403	土師器	杯	[12.4]	(4.1)	-	長石・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部磨ナデ、体部外面へラ削り、内面ナデ	北東部中層	15%
404	土師器	杯	[11.4]	(3.2)	-	長石・赤色粒子	均共焼	普通	口縁部外面磨ナデ、体部内面ナデ	東部地下層	15%
405	土師器	杯	[12.0]	(3.7)	-	長石・赤色	明赤焼	普通	体部外面へラ削り・輪郭み肌、内面ナデ	東部下層	内外黄褐色土
406	土師器	杯	[15.3]	(3.0)	-	長石・赤色	灰褐	普通	体部外面へラ削り、内面ナデ	山嵐部上層	
407	土師器	甕	[28.4]	(9.0)	-	長石・赤色	にぶい	普通	口縁部磨ナデ、体部外面へラ削り	籠手前床面	10%、赤褐色
408	土師器	甕	[26.2]	(12.5)	-	長石・赤色粒子	にぶい	普通	体部外面へラ削り・底肥了胎付・へラ磨き、内面へラ磨き・底微み肌	中央部上層へ中層	10%、赤褐色
TP19	消磁器	差	-	-	-	長石	灰白	良好	体部内・外面へラ削り	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M67	刀子	(4.2)	(0.8)	(0.2)	(2.70)	鉄	断面長方形、刃部欠損	覆土中	PL78

第1574号住居跡 (第62・63図)

位置 調査区中央部のS7d5区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第92・93・94号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.9m、短軸5.8mほどの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は16-46cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内縁が踏み固められており、卑溝が周囲している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚11部から煙道部まで136cm、袖部幅154cmほどである。火床部は床面を18cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して作っている。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。また、袖部内側と火床面は焼熱で赤変硬化している。煙道部は、壁外に40cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

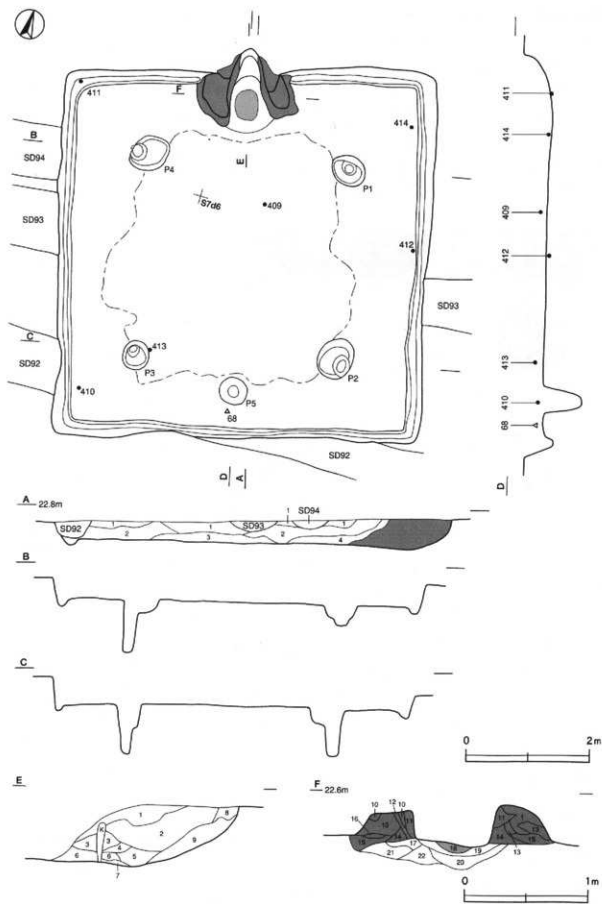
1	暗褐色	砂質粘土粒少量、ロームブロック・焼土粒・炭化粒子少量	11	にぶい赤褐色	焼土ブロック中層、炭化物少量
2	黒褐色	砂質粘土粒少量、ロームブロック・焼土粒・炭化粒子少量	12	暗赤褐色	焼土粒子少量
3	にぶい黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	13	黒褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック中層	14	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
5	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	15	暗赤褐色	焼土ブロック中層、炭化粒子少量
6	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	16	暗赤褐色	焼土粒子多量
7	暗赤褐色	焼土ブロック中層	17	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒・砂質粘土粒子少量	18	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物少量
9	黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒少量、ローム粒子微量	19	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中層、炭化物少量
10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量	20	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
			21	褐色	ロームブロック中層、焼土ブロック微量
			22	褐色	ロームブロック中層

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは32～87cmである。P5は深さ63cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

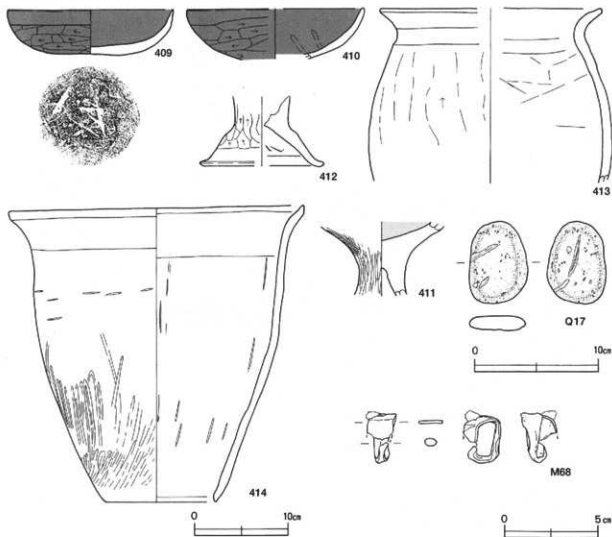
1	暗褐色	ロームブロック中層	4	暗褐色	ロームブロック中層、砂質粘土ブロック・焼土粒少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中層			
3	暗褐色	ロームブロック少量			



第62图 第1574号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片526点（坏111，高台付坏2，高坏3，堇410），土製品1点（支脚），鉄製品1点（鎌子），石器1点（磨石），鉄滓3点，炉壁3点が出土している。その他，縄文土器片1点が混入している。遺物は，覆土上層からの出土が多く，そのほとんどが細片である。414は東壁際の床面から，土圧によりつぶれた状態で出土している。412は東壁際床面から，413は南西部の覆土中層から，D P25は甕手前覆土中層から，409は中央部の覆土下層から正位の状態それぞれ出土している。また，M68が南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。隣接する第1556・1572号住居跡と主軸方向と時期が同じで，集落内で小集団が構成されていた可能性が考えられる。



第63図 第1574号住居跡出土遺物実測図

第1574号住居跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	L径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
409	土師器	坏	13.2	3.6	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	中央部下層	95%，PL47
410	土師器	坏	[14.0]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南西部下層	20%
411	土師器	高坏	-	(5.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り，坏部外面ヘラ磨き，内面ナデ	北西コーナー部床面	15%，外面赤影飯

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
412	土師器	高坏	-	(5.5)	[9.2]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	臀部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	東壁際床面	20%
413	土師器	壺	[17.7]	(13.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	臀部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	南西部中層	13%, 内面筆焼
414	土師器	飯	31.4	31.4	10.6	長石・石英・赤母	にぶい黒	普通	臀部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	東壁際床面	98%, PL51

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q17	磨石	6.6	4.7	1.2	59.9	安山岩	平面形は不整形四角形、上・下面に使用痕	覆土中	
M68	蓋	(2.6)	(1.6)	(0.5)	(5.60)	鉄	方形に屈曲、蓋身から蓋縁の方頭弁鎖式*	南部下層	

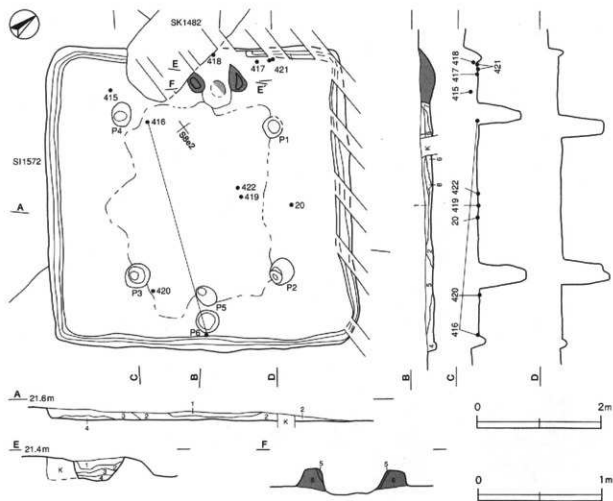
第1575号住居跡 (第64・65図)

位置 調査区中央部のS 8 e2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1572号住居跡を掘り込み、第1482号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺が4.8mほどの方形で、主軸方向はN-54°-Wである。壁高は3~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほば平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。



第64図 第1575号住居跡実測図

■ 北西壁中央部に付設されている。袖部は幅95cmほどで、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変硬化している。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変硬化している。

■ 土層解説

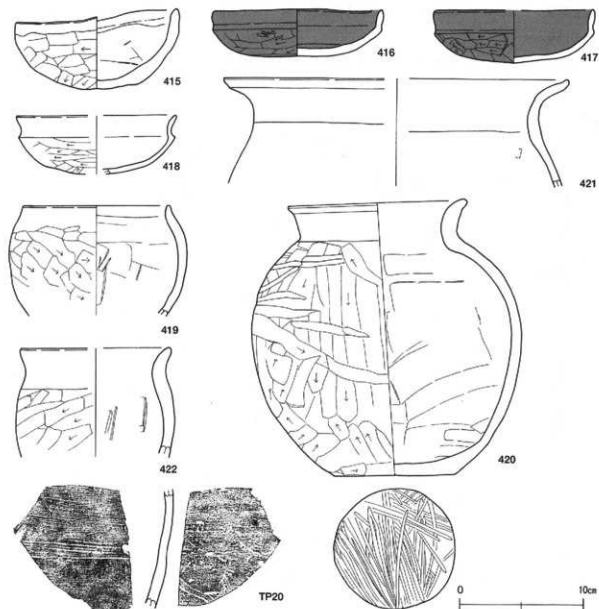
- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・砂粒・粘土粒子少量 | 4 暗 赤 褐色 焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗 赤 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 暗 赤 褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 3 灰 褐色 灰多量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 6 灰 黄 褐色 砂粒・粘土粒子多量、ロームブロック少量 |

■ ビット 6か所。主柱穴はP 1～P 4が相当し、深さは72～77cmである。P 5・P 6は深さ47cm・18cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うビットである。

■ 覆土 8層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不自然に堆積した人為堆積である。

■ 土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------------|
| 1 極 暗 褐色 ロームブロック中量 | 6 にぶい赤褐色 砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 暗 赤 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 |
| 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 8 極 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | |
| 5 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | |



第65図 第1574号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片269点(杯39, 壺1, 小形甕1, 甕228), 須恵器片1点(広口壺), 土製品1点(支脚), 鉄滓1点が出土している。その他, 縄文土器片1点が混入している。417・421は, 壺付近の床面と覆土下層からそれぞれ出土している。また, 416は西部の床面と, 南東壁際の床面から出土した破片が接合しており, 北部から投棄した様子がうかがえる。420は南部側の床面から, 土圧によりつぶれた状態で出土している。TP20は東部の床面から出土している。

所見 細片のため図示できないものもあるが, 坏や甕などが床面から15点出土しており, 住居廃絶時に伴い廃棄されたと考えられる。時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。

第1575号住居跡出土遺物観察表(第65図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
415	土師器	杯	12.8	6.1	-	石灰・赤土・赤色粒子	にぶい粉	普通	体部外面へう割り, 内面ナデ, 指頭痕	西部中層	100%, PL48
416	土師器	坏	13.3	3.7	-	長石・石英・赤土	粉	普通	口縁部横ナデ・輪縁み痕, 体部外面へう割り, 内面ナデ	西部・南東壁 基床南	85%, PL47
417	土師器	坏	12.6	4.2	-	石灰・赤土・赤土	にぶい粉	普通	体部外面へう割り, 内面ナデ	基層下層	50%
418	土師器	坏	12.7	4.7	-	長石・石英・赤土	粉	普通	体部外面へう割り, 内面ナデ	地内	15%
419	土師器	鉢	11.7	8.8	-	長石・石英・赤土	にぶい灰粉	普通	口縁部横ナデ, 体部外面へう割り, 内面へうナデ	中央部床面・上層	50%, PL45
420	土師器	壺	14.0	22.0	9.8	長石・赤土・赤色粒子	粉	普通	内面へうナデ, 底部外面へう割き	南部床面	90%, PL50
421	土師器	甕	27.4	18.0	-	石灰・赤土	粉	普通	口縁部横ナデ, 体部内面へうナデ	基層下層・床面	5%
422	土師器	小形甕	11.8	8.8	-	石灰・赤土	灰褐色	普通	体部外面へう割り, 内面へうナデ	中央部床面・上層	5%
TP20	須恵器	広口壺	-	-	-	長石・石英	灰オリーブ	普通	体部内・外面へうナデ	北庭床面	

第1577号住居跡(第66図)

位置 調査区中央部のR8h1区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1601号住居跡を掘り込み, 第1584・1569・1549号住居及び第140号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸3.4m, 南北軸は3.3mだけ確認された。ピットや硬化面などから方形と推定され, 主軸方向はN-3°-Eである。壁高は6~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

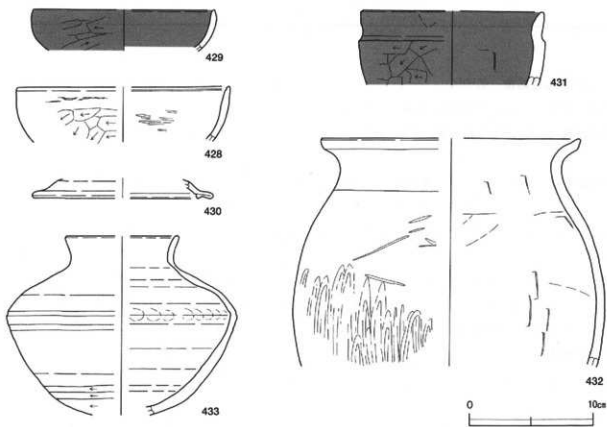
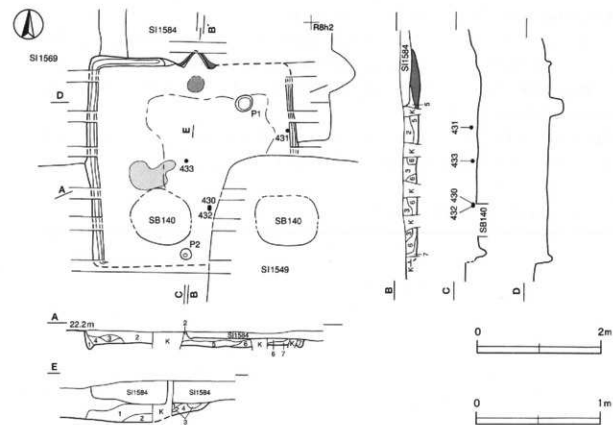
床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められており, 壁溝が周回している。また, 南西側の一部で焼土の広がりが検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。火床部と煙道部が残っているだけである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部も地山面をそのまま使用し, 火床面は被熱で赤変硬化している。また, 煙道は壁外に20cmほど掘り込み, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 灰青褐色 砂質粘土粒子多量, ローム塊下・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 灰中層, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 棕褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 2か所。P2は深さ18cmで, 竈と向かい合う位置にあり, 出入口施設に伴うピットである。P1の性格は不明であるが, 位置的にみて主柱穴の可能性も考えられる。



第66图 第1577号住居跡・出土遺物実測図

覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色 焼土ブロック多量 | 5 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 緑褐色 焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片184点(坏20, 高台付坏2, 鉢1, 甕161), 須恵器片2点(蓋1, 壺1)が出土している。遺物は、中央部に焼土とともにまとまって出土しており、ほとんどが細片である。430・432は、南部の床面から混在した状態で出土している。433は、中央部の覆土下層から連位の状態で出土している。

所見 中央部の床面に焼土とともに出土している土器片は、出土状況から住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

第1577号住居跡出土遺物観察表(第66図)

番号	類別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	硬成	手法の特徴	出土位置	備考
428	土師器	坏	[17.0]	(4.4)	-	灰石・雲母・白土粒子	明赤陶	普通	口縁部外側ナテ・輪持ち肌、内面ヘラ磨本	北東部上層	
429	土師器	坏	[14.4]	(3.3)	-	長石・雲母	にぶい陶	普通	体部外面ヘラ磨り、内面ナテ	北東部上層	
430	須恵器	壺	[14.2]	(1.5)	-	石灰・雲母	灰黄	普通	外側部ワタロナテ、口縁部磨き出し	南部床面	
431	土師器	鉢	[14.2]	(3.9)	-	長石・雲母	にぶい陶	普通	体部外面ヘラ磨り、内面ヘラナテ	東部中層	
432	土師器	蓋	[20.6]	(18.2)	-	石灰・雲母	にぶい陶	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナテ	南部床面	25%
433	須恵器	壺	[8.5]	(14.3)	-	炭石・石灰・白土粒子	灰黄	良好	ワタロナテ、外内洗割2条、内面節造肌	中央部下層	40%, PL30

第1579号住居跡(第67図)

位置 調査区中央部のR7h9区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 北部を第184号独立柱建物、第1483号土坑に、南部を第1471・1496・1497号土坑に、西部を第142号独立柱建物、第1484号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東-南西軸5.4m、北西-南東軸は4.5mだけが確認された。主軸方向はN-31°-Wで、方形または長方形と推定される。壁高は6cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、確認された範囲で壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。残存状態が悪く規模は不明である。火床部は、地山面をそのまま使用し、火床面は焼成で赤変硬化している。

ピット 5か所。主柱穴はP1~P4が相当し、深さは65~82cmである。P5は深さ17cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

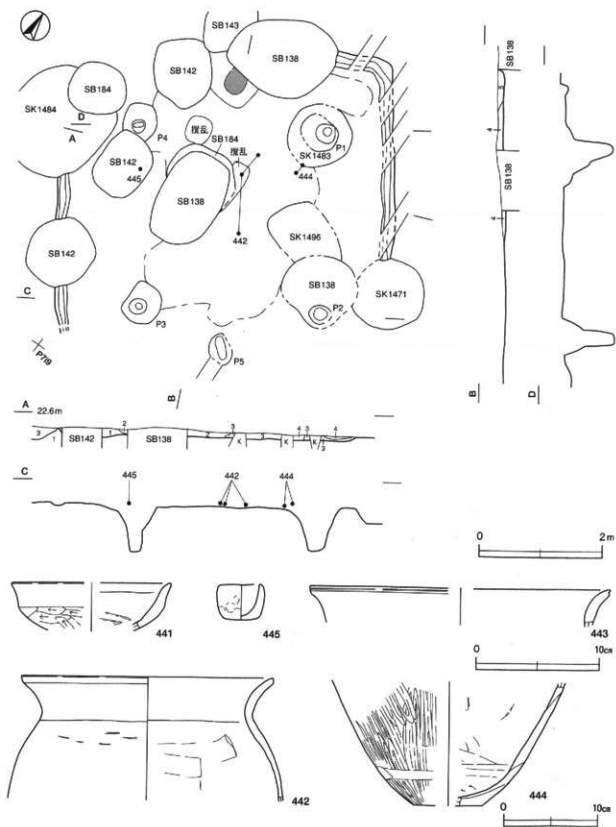
覆土 5層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 6 暗褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片129点(坏15, 甕113, 手捏土器1), 須恵器片2点(甕), 鉄滓1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。412・444は中央部の覆土下層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。445は西側の床面に正位の状態で出土している。

所見 442・444は出土状況から住居廃絶にともなって廃棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第67図 第1579号住居跡・出土遺物実測図

第1579号住居跡出土遺物観察表 (第67図)

番号	種類	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
441	土師器	杯	12.5	3.8	-	長石・赤色粒子	にぶい褐色	普通	1) 縁部横ナデ、外部外面ヘラ削り、内面ナデ	覆土中	10%
442	土師器	甕	22.6	13.1	-	長石・石英・古母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	1) 縁部横ナデ、外部外面底部ヘラナデ 2) 内面ヘラナデ	中央部下層・床面	10%
443	土師器	甕	24.0	8.9	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	1) 縁部横ナデ・縁部北端1条	覆土中	
444	土師器	甕	-	13.2	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	1) 外部外面ヘラ磨き後下位にヘラナデ痕 2) 内面ヘラナデ、底部外面ヘラ磨き	中央部下層	10%
445	土師器	手押土器	3.4	2.8	2.6	長石・石英	出祖	普通	1) 外部外面ヘラ削り後ナデ・磨削痕	西部床面	90%、FL71

第1580号住居跡 (第68・69図)

位置 調査区中央部のS7b8区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1565号住居と第137・145号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.6m、短軸5.4mほどの方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は36cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が固まっている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口から煙道部まで140cm、袖部幅108cmほどである。火床部は床面を25cmほど皿状に掘りくぼめ、ルーム土を埋め戻して作っている。袖部は、床面と同じ高さに埋め戻したルーム土に砂質粘土で構築されており、内側が赤変硬化している。煙道部は、壁外に25cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|-----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ルーム粒子少量、焼土ブロック・砂粒微量 | 7 暗褐色 | ルームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・砂粒微量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 | 9 褐色 | ルームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | 焼土粒子少量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子多量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
| 6 にぶい赤褐色 | ルームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 | | |

ピット 4か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは56～72cmである。

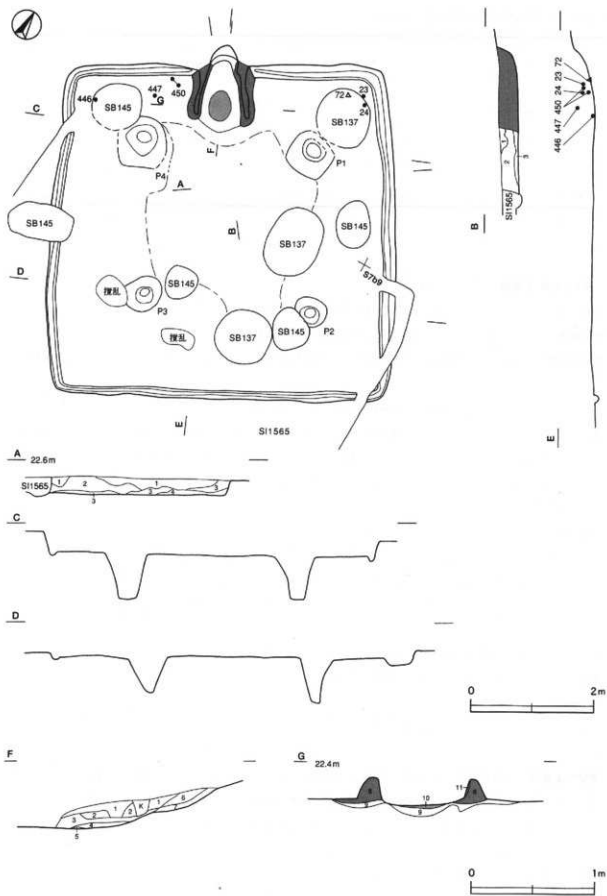
覆土 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

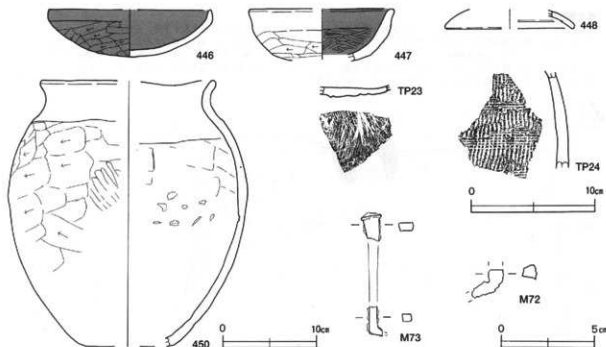
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ルームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ルームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ルームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ルームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片215点(坏29、甕186)、須恵器片4点(坏1、蓋1、甕1、甕1)、鉄製品2点(不明)、種子1点(桃)が出土している。450は北西部の覆土中層と下層からつぶれた状態で出土した破片が接合されたものである。また、北西部の床面から446、北東部の床面からM72、覆土中層からT P23・T P24がそれぞれ出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第68图 第1580号住居跡実測图



第69図 第1580号住居跡出土遺物実測図

第1580号住居跡出土遺物観察表 (第69図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
446	土師器	罎	[130]	3.8	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り、内面ナデ	北西部床面	60%
447	土師器	罎	[112]	(4.1)	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り、内面へラ磨き	北西部上層	15%
448	須恵器	皿	[100]	(1.6)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	
450	土師器	罎	[180]	28.2	[102]	長石・石英・雲母	暗褐	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き	北西部中・下層	40%
TP23	土師器	罎	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい暗色	普通	内面ナデ	北東部中層	磁石転用
TP24	須恵器	罎	-	-	-	長石・石英・小塵	暗灰	不良	内部外面横位と縦位の平行磨き、内面ナデ	北東部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M72	不明	(1.5)	0.8	0.7	(1.32)	鉄	断面方形、中央部で屈曲、鍔の基部*	北東部床面	
M73	不明	(2.95)	(1.1)	(0.4)	(3.04)	鉄	断面長方形、釘*	覆土中	

第1581号住居跡 (第70・71図)

位置 調査区中央部のS766区に位置し、平坦な台地上に立地している。

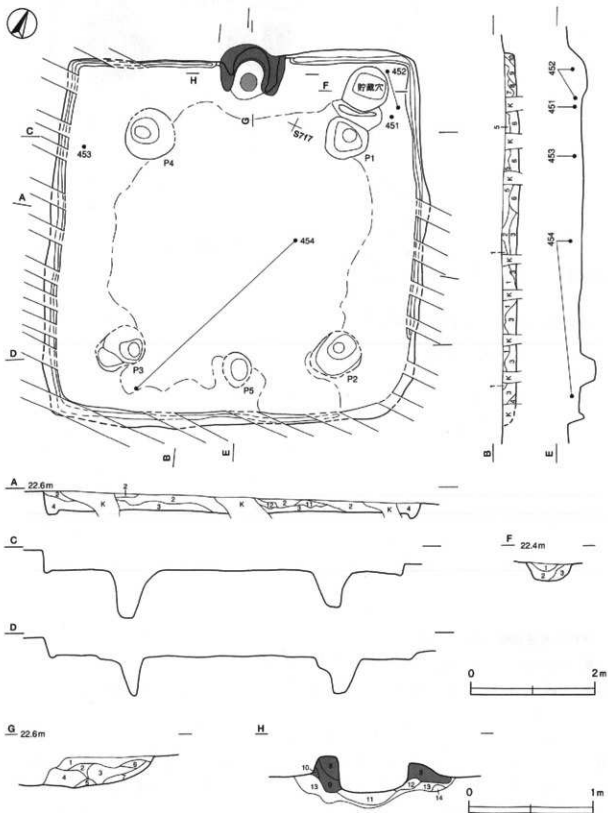
規模と形状 長軸6.0m、短軸5.9mほどの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は14~26cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ビツの内側が踏み固められており、壁溝が周囲している。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで96cm、袖幅104cmほどである。火床部は床面を23cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して作っている。袖部は、床面と同じ高さに埋め戻したローム土上に砂質粘土で構築している。煙道部は壁外に15cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竪土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|----------|------------------------|
| 1 黒灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子中量 |
| 2 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、
ローム粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・灰中量、ローム粒子少量 | 7 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・灰中量 |
| 4 暗褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 | 8 灰黄褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |



第70図 第1581号住居跡実測図

- 9 にぶい黄褐色 砂粒多量
 10 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
 11 暗 赤褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック中量
 12 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量
 13 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
 14 にぶい黄褐色 砂粒多量、焼土粒子少量

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは57～74cmである。P5は深さ24cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。規模は長軸74cm、短軸68cmの不整形形で、深さは34cmである。底面は平坦で、長方形を呈しており、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗 褐色 ローム小ブロック中量
 2 暗 褐色 ローム大ブロック中量
 3 褐色 ローム小ブロック中量

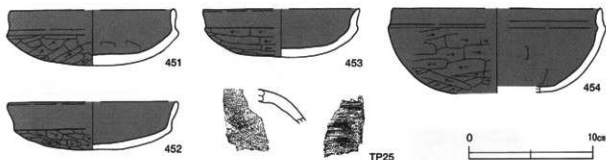
覆土 12層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 極 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量
 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 3 暗 褐色 ロームブロック中量
 4 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 5 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
 6 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 7 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量
 8 黒 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
 9 灰 褐色 砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
 10 暗 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物・砂粒少量
 11 極 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 12 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片524点(坏153, 高坏1, 鉢1, 甕369), 須恵器片2点(瓶1, 甕1), 土製品1点(支脚), 鉄滓1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。451は中央部と南西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。451・452は北東部, 453は北西部の覆土下層からそれぞれ出土している。TP25は南東部の覆土中から出土している。

所見 当遺跡内で貯蔵穴を備える住居は少なく、本跡は貯蔵穴とP1との間の床面に高まりが見られ特徴的である。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第71図 第1581号住居跡出土遺物実測図

第1581号住居跡出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
451	土師器	坏	[13.0]	4.4	-	長石・黄母	褐色	普通	体部外面へラ割り, 内面へラナデ	東階下層	40%
452	土師器	坏	[13.4]	3.8	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ割り, 内面ナデ	東階下層	20%
453	土師器	坏	[12.4]	3.8	-	石英	にぶい橙	普通	体部外面へラ割り, 内面ナデ	北西部下層	40%, 内面研削
454	土師器	鉢	[16.6]	(6.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ, 体部外面へラ割り, 内面へラナデ	中央部下層・南西部下層	30%
TP25	須恵器	瓶	-	-	-	長石・石英・白色粒子	灰	普通	体部内・外面へラナデ	覆土中	

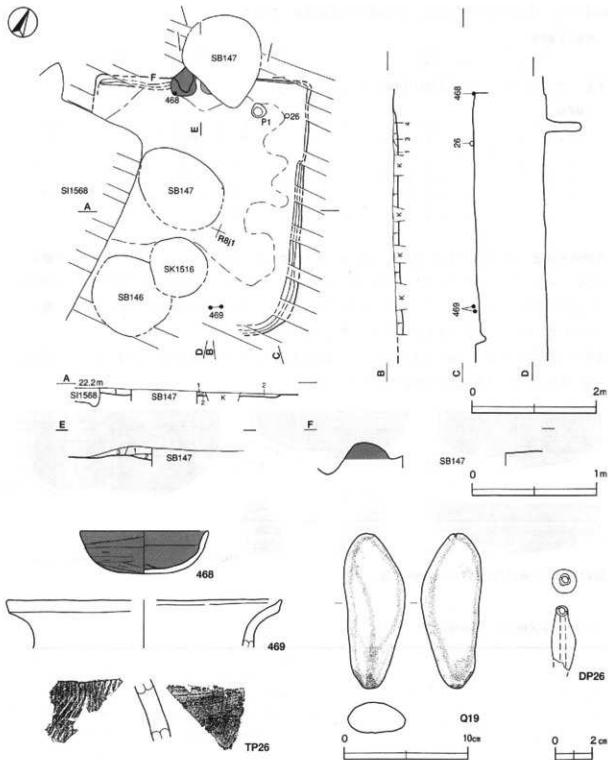
第1585号住居跡 (第72図)

位置 調査区中央部のR70区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1568号住居と第146・147号掘立柱建物及び第1516号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が不明であるが、北東-南西軸3.4m、北西-南東軸4.1mが確認されていることから、主軸方向をN-23°-Wとする長方形と推定される。壁高は2~10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、各壁際を除き踏み固められている。壁溝は部分的に北壁と東壁で巡っている。



第72図 第1585号住居跡・出土遺物実測図

電 掘乱されているが、袖部の一部と火床部が確認されている。北壁中央部に付設されており、袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。また、火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は板状で赤変硬化している。煙道部の様相は、不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量・焼土粒子・炭化粒子少量
 2 黒褐色 ローム粒子中量・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
 3 暗褐色 焼土粒子中量・ロームブロック・砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量
 4 極暗褐色 ローム粒子少量

ピット 1か所。深さ56cmで、性格は不明である。位置的に支柱穴の可能性も考えられる。

覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 2 極暗褐色 ローム粒子少量
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 4 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片189点(坏23, 甕166), 須恵器片1点(甕), 土製品1点(管状土鍾), 石器1点(砥石)が出土している。468は竈内の覆土と袖部付近の床面から出土した破片が接合したものである。469は南東部の覆土下層, TP26・Q19は南部の覆土中から出土している。

所見 南東側の壁の立ち上がりが不明であるが、確認された壁から長軸4.1m, 短軸3.4mの長方形をした小形の住居である。時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

第1585号住居跡出土遺物観察表(第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	下地の特徴	出土位置	備考
468	土師器	坏	10.2	3.4	-	灰石・赤色粒子	にぶい・黄褐色	普通	1) 器部外周縁極みぬ。内部ヘラナテ接合	竈内・床面	90%, PL49
469	土師器	甕	22.0	(3.0)	-	灰石・石質・当粉	にぶい・橙	普通	1) 縁部縁ナテ	南東部下層	
TP26	須恵器	大甕	-	-	-	石英	黄灰	良好	体部外面研位の平形印き, 内面ヘラナテ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
TP26	管状土鍾	1.34	1.13	-	(3.94)	灰石・當粉	ナテ, 孔径0.3cm	北東部床面	PL74
Q19	砥石	12.4	4.8	2.4	212.0	凝灰岩	下部に焼熱を受けた使用痕	覆土中	

第1586号住居跡(第73図)

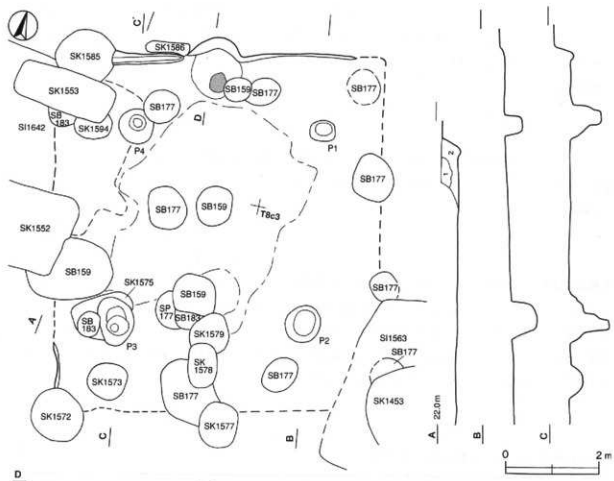
位置 調査区中央部のT8b2区に位置し、南に向かって緩やかに傾斜した斜面部に立地している。

重複関係 第1563・1590・1642号住居, 第159・177・183号掘立柱建物, 第1453・1552・1553・1572・1573・1575・1576~1579・1585・1586・1594号土坑に掘り込まれている。

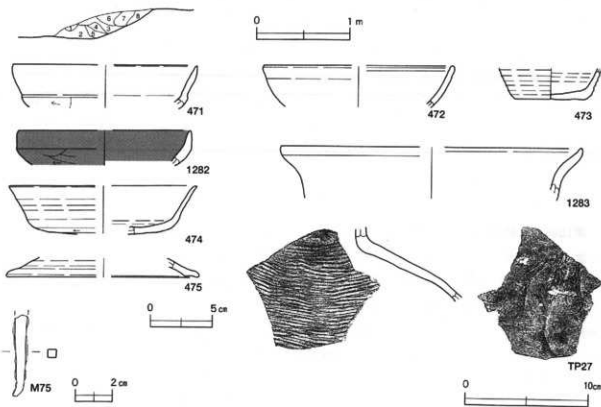
規模と形状 南壁と東壁の立ち上がりが確認されていないため、柱穴の配置と床面の広がりから判断して、長軸7.7m, 短軸7.7mほどの方形と推定される。主軸方向はN-10°-Wで、北壁の高さは45cmほどあり、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。また、壕溝は北壁の西側部分で確認されている。

竈 北壁中央部に付設されている。天井部や袖部は遺存しておらず、確認されたのは火床面と煙道部だけであ



D



第73図 第1586号住居跡・出土遺物実測図

る。火床面は浅い皿状を呈し、被熱によって赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がり、壁外へ40cmほど延びている。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中層、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中層、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中層、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | | |
| 5 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量 | | |

ピット 4か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは40～82cmである。

覆土 2層からなり、いずれの層もロームブロックを含んでおり、人為堆積の可能性が高い。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 |
|-------|----------------------|-------|----------------------|

遺物出土状況 土師器片16点(坏11, 甕5)、鉄製品2点(釘、釘カ)、鉄滓1点、炭化種子1点(桃)が出土している。遺物は遺構の遺存状態を反映して、北壁際からの出土が多い。出土土器には時期差があるが、掘立柱建物に掘り込まれていることから流れ込んだ可能性が高い。J282は北側中央部の覆土下層で出土している。

所見 桃は当遺跡から多く出土している可食種子であり、植物資源の一つとして広く利用されていたと考えられる。廃絶時期は、J282・J283が出土していることから7世紀前葉と考えられる。

第1586号住居跡出土遺物観察表(第73図)

番号	種類	形状	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
471	土師器	杯	148	34	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部線ナデ	北東部中層	
472	土師器	杯	150	33	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面へラ削り、口縁部比線1条	南部下層	
473	須恵器	杯	-	25	5.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部多方向へのラ削り	北東部床面・P1	30%
474	須恵器	杯	130	3.9	11.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部四角へのラ削り、口縁部比線1条	北・南壁際床面	40%
475	須恵器	甕	132	1.5	-	長石・雲母	黄灰	普通	口縁部クロコナデ	P2覆土中	
J282	土師器	杯	138	2.0	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面へのラ削り、内面ナデ	北部下層	
J283	土師器	甕	24.0	4.2	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐	普通	口縁部線ナデ	覆土上	
TP27	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐	普通	体部外面換位の平行明き、内面出て具底	北西部下層	

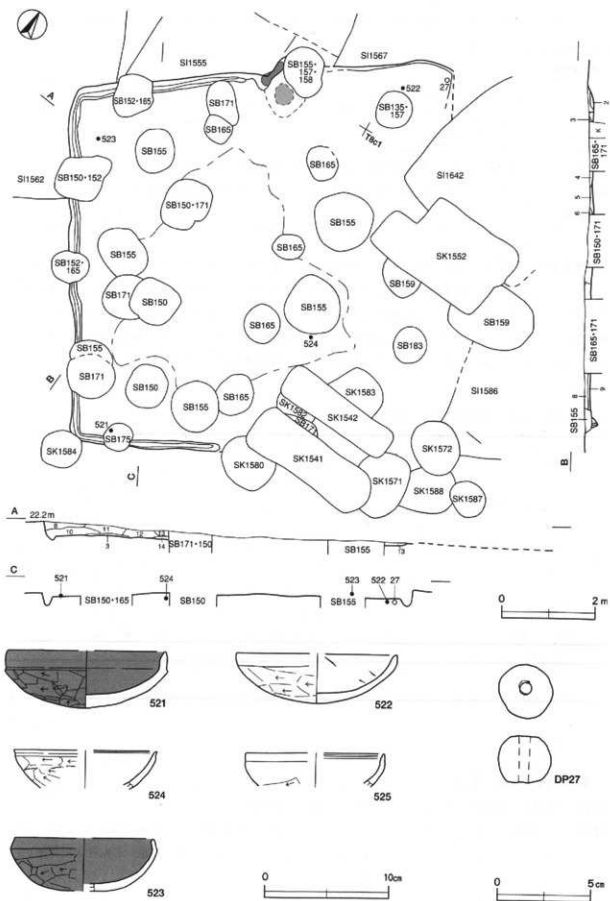
番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質・粘土	特徴	出土位置	備考
M75	釘カ	4.3	0.7	0.4	3.60	鉄	断面長方形、頭部緩衝	北東部床面	P1, J1

第1590号住居跡(第74図)

位置 調査区中央部のT7c0区に位置し、台地上の緩やかな斜面に立地している。

重複関係 第1562・1567・1586号住居跡を掘り込み、第1555・1642号住居と第150・152・155・157～159・165・171・175・183号掘立柱建物及び第1541・1542・1552・1571・1572・1580・1582～1584号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東に傾斜しているため、南西壁7.9m、北西壁は7.6mだけが確認された。竈と塼から主軸方向



第74图 第1590号住居跡・出土遺物実測图

をN-31°-Wとする方形と推定される。壁高は18cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部よりやや西側が踏み固められており、壁溝は確認された範囲で巡っている。

竈 北壁中央部に、被熱が赤変化した火床面と袖部の構築材である砂質粘土が一部で検出されただけである。

ピット 遺構の重複が激しく不明である。

覆土 14層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1	オリブ褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2	暗褐色	焼土粒子・砂粒少量	9	褐色	ロームブロック少量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	11	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量・炭化物微量
5	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量	12	暗褐色	焼土ブロック少量・ローム粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック少量	13	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
7	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	14	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片408点（坏77，碗1，甕330）、須恵器片4点（坏2，甕2）、土製品1点（土土）が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。521は南西部、522は北東部、521は南東部の床面からそれぞれ出土している。また、DP27が北部の覆土中から出土している。

所見 南東側の壁の立ち上がりが確認できず全体の形状を把握することはできないが、床面積が60㎡を越す大形の住居である。廃絶時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。

第1590号住居跡出土遺物観察表（第74図）

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
521	土師器	坏	12.6	4.6	-	長石・石英	にぶい黄	普通	体部外縁へラ削り、内面ナデ	南西部床面	30%
522	土師器	坏	12.8	3.9	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外縁へラ削り、内面へラナデナデ	北東部床面	30%
523	土師器	坏	11.0	4.2	-	長石	にぶい黄褐色	普通	体部外縁へラ削り、内面ナデ	北西部下層	30%
521	土師器	坏	11.4	3.0	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外縁へラ削り、内面ナデ	南東部床面	10%
525	土師器	坏	11.0	2.7	-	長石・赤色粒子	灰褐色	普通	体部内・外縁ナデ、外縁へラ削り痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP27	土甕	-	275	290	1890	長石・石英・炭粒	ナデ、孔径0.65cm	覆土中	PL73

第1594号住居跡（第75図）

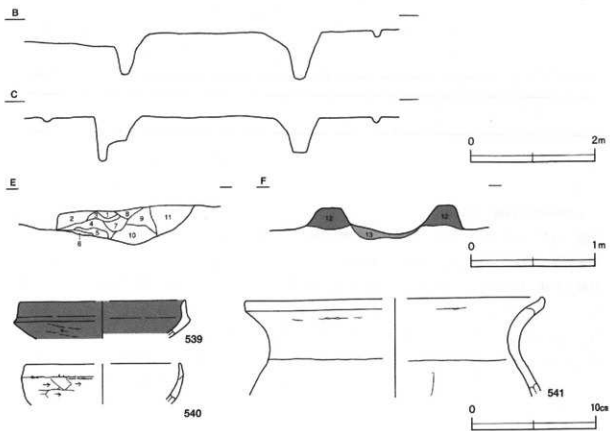
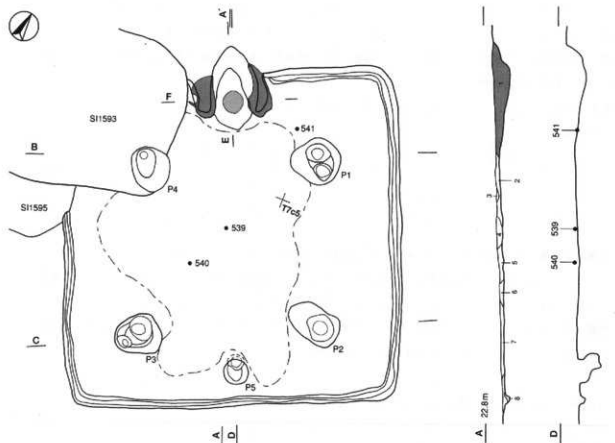
位置 調査区中央部のT7c4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1593・1595号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.4m、短軸3.3mほどの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は14cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が固回している。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで124cm、袖部幅136cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変している。煙道部は壁外に46cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。



第75图 第1594号住居跡・出土遺物実測図

礎土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 黒 褐 色 焼土ブロック少量 | 8 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗 赤 褐色 焼土ブロック・炭化物・砂粒少量 | 9 暗 褐 色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 3 暗 赤 褐色 焼土ブロック・砂粒少量 | 10 暗 赤 褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 4 灰 白 色 焼土ブロック少量 | 11 暗 赤 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 5 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 12 黒 褐色 砂粒中量、ロームブロック微量 |
| 6 暗 灰 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 暗 褐 赤褐色 焼土粒子少量 |
| 7 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、砂粒微量 | |

ピット 5か所。支柱穴はP1～P4が相当し、深さは56～71cmである。P1とP3には柱のあたりが2か所ずつ確認されている。P5は深さ38cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 8層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗 赤 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 5 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 黒 褐色 ロームブロック・砂粒少量、焼土粒子微量 | 6 暗 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒 褐色 ロームブロック少量 | 7 黒 褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗 褐 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 8 褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片120点(坏23, 高台付坏1, 甕96), 須恵器片2点(甕), 土製品1点(支脚)が出土している。539は中央部, 541は北東部の床面からそれぞれ出土している。土製支脚は竈手前の覆土下層から横位の状態で出土している。

所見 P1とP3には柱のあたりが2か所ずつあり、建て替えが行われた可能性がある。時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

第1594号住居跡出土遺物観察表 (第75図)

番号	種別	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
539	土師器	坏	[132]	(30)	-	赤褐色	にぶい灰褐色	普通	外部外面ヘタ削り、内面ナデ	中央部北庭	10%
540	土師器	坏	[123]	(32)	-	赤褐色	黒褐色	普通	外部外面ヘタ削り、内面ナデ	中央部下層	
541	土師器	甕	[218]	(79)	-	灰石・石炭・灰母・赤褐色	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ、外部外面ナデ、内面ヘラナデ	北東部床面	

第1596号住居跡 (第76～80図)

位置 調査区中央部のS6C0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

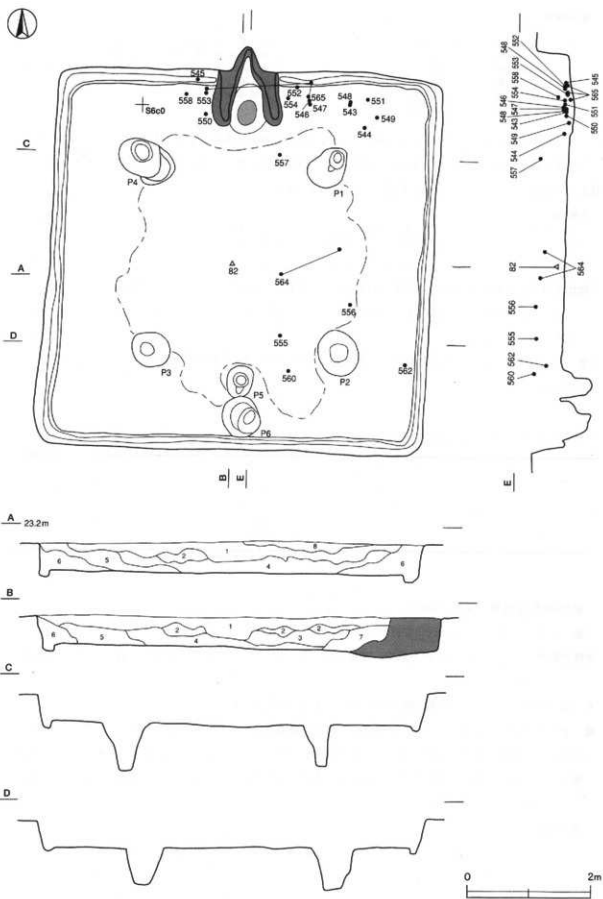
規模と形状 一边が6.1mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は33～51cmで、竈は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

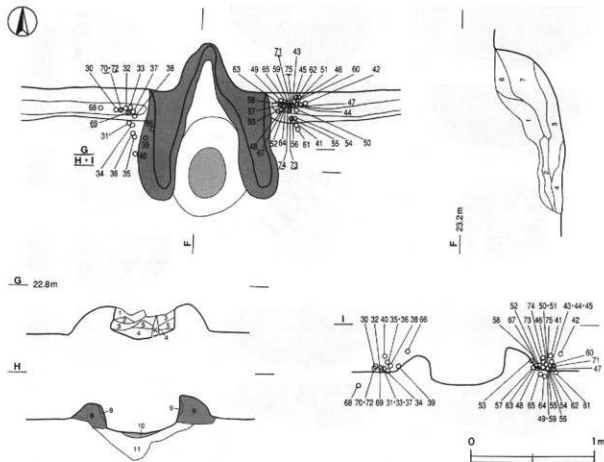
竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで138cm、袖部幅112cmほどである。火床部は床面を35cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム上を埋め戻して作っている。袖部は埋め戻したローム土上に砂質粘土で構築されている。袖部の内側と火床面は被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に36cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

礎土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂粒少量 | 7 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化物微量 |
| 2 暗 赤 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 8 灰 黄 褐色 粘土粒子・砂粒多量 |
| 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗 赤 褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒中量 |
| 4 灰 黄 褐色 灰多量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 暗 赤 褐色 焼土ブロック多量、灰少量 |
| 5 灰 褐色 焼土ブロック・灰少量 | 11 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 |
| 6 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | |



第76图 第1596号住居跡实测图(1)



第77図 第1596号住居跡平面図(2)

ピット 6か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは60～82cmである。P5・P6は深さ50cm・53cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

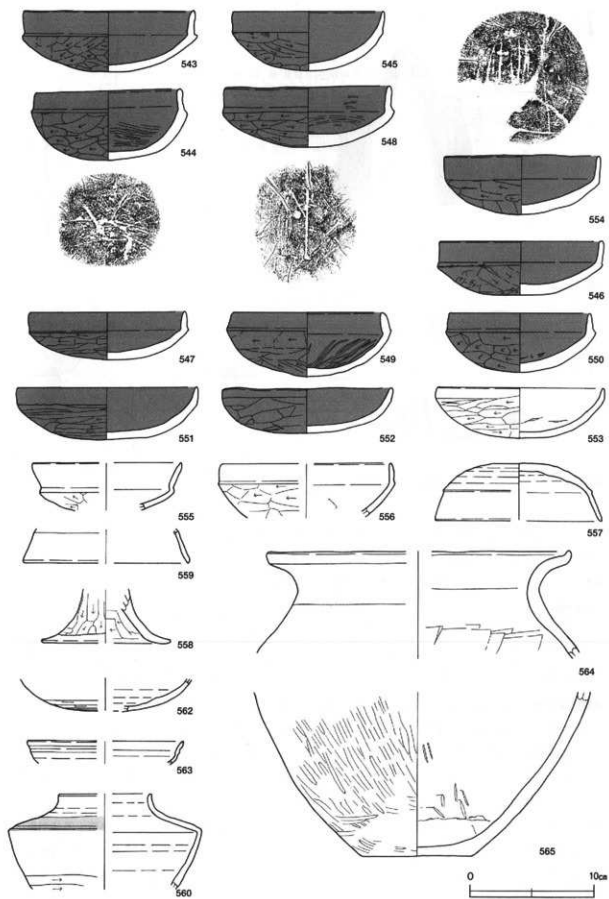
覆土 8層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

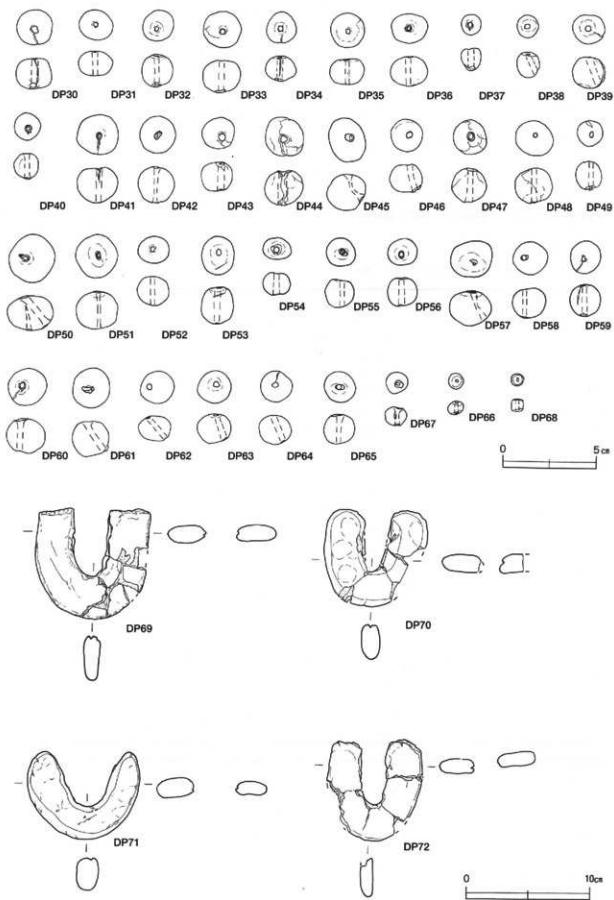
- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム中・小ブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂粒少量 | 7 極暗褐色 | 焼土ブロック・焼土粒子・砂粒中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土器片964点(坏317, 高坏1, 甕643, 甕3), 須恵器片9点(蓋5, 高坏カ1, 壺1, 平瓶カ1, 甕1), 土製品48点(白玉2, 土玉39, 鋤先形土製品7), 鉄製品2点(不明)が出土している。543～554は北部竈付近の覆土下層から床面にかけて出土している。544・549は逆位の状態で出土しているが、それ以外は正位の状態で、543と548, 546と547はそれぞれ重なった状態で出土している。また、白玉や土玉, 鋤先形土製品などが竈付近の覆土下層から床面にかけて集中して出土している。

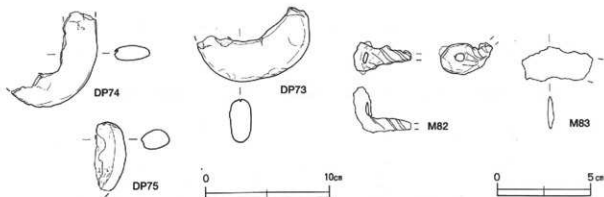
所見 時期は、出土した土器から7世紀前葉と考えられる。竈付近からは多くの土玉や鋤先形土製品が集中して出土しており、祭祀的な行為が行われたことがうかがえる。竈内から出土したのはD P66だけで被熱痕も見られないことから、竈の脇上部に置かれていたものと考えられる。なお、土玉は極めて雑な作りであり、大きさも不揃いである。孔が中心から外れているものや、ヒビが入っている土玉もあることから、球状にした粘土を串状の棒で刺して作った状況がうかがえる。



第78图 第1596号住居跡出土遺物実測図(1)



第79图 第1596号住居跡出土遺物実測图(2)



第80図 第1596号住居跡出土遺物実測図(3)

第1596号住居跡出土遺物観察表 (第78~80図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
543	土師器	坏	13.6	4.9	-	長石・石英・雲母	赭灰	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	北東部下層	100%、PL49
544	土師器	坏	11.7	5.6	-	長石・雲母	にぶい黄粉	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き	北東部下層	95%、PL49
545	土師器	坏	12.0	4.8	-	長石・雲母・小礫	にぶい黄粉	普通	体部外面ヘラ削り・輪轆み痕、内面ナデ	北東部床面	95%、PL49
546	土師器	坏	12.9	4.3	-	長石・石英・雲母	にぶい黄粉	普通	体部外面輪轆み痕、内面ヘラナデ後ナデ	北東部下層	70%
547	土師器	坏	12.4	3.8	-	長石・雲母・赤色砂子	にぶい黄	普通	体部外面ヘラ削り・輪轆み痕、内面ナデ	北東部下層	100%、PL49
548	土師器	坏	13.0	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい黄粉	普通	体部内面ナデ後ヘラ磨き、底部外面木炭痕	北東部床面	95%、PL50
549	土師器	坏	12.0	5.1	-	長石・石英・小礫	にぶい黄	普通	体部内面ナデ後ヘラ磨き	北東部床面	85%
550	土師器	坏	11.2	4.7	-	長石・石英・雲母	浅黄粉	普通	体部内面ヘラナデ後ナデ	籠手前床面	95%、PL50
551	土師器	坏	14.4	4.1	-	長石・雲母	にぶい黄	普通	体部外面輪轆み痕、内面ナデ	北東部床面	95%、PL50
552	土師器	坏	13.5	3.6	-	雲母・赤色砂子	にぶい黄	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	北東部下層	95%、PL50
553	土師器	坏	13.2	4.1	-	長石・雲母・赤色砂子	にぶい黄	普通	体部外面輪轆み痕、内面ヘラナデ後ナデ	籠手前下層	95%、PL50
554	土師器	坏	12.3	4.7	-	長石・石英	にぶい黄粉	普通	体部外面輪轆み痕、内面ナデ	籠手前下層	内面砥石痕、75%、PL51
555	土師器	坏	[10.9]	(3.8)	-	長石・雲母	黄	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ	南東部中層	15%
556	土師器	坏	[13.6]	(4.3)	-	長石・雲母・赤色砂子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ後ナデ	南東部中層	15%
557	須恵器	蓋	[13.2]	4.6	-	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	籠手前中層	80%、PL52
558	土師器	高坏	-	(4.3)	[10.0]	長石・雲母	にぶい黄粉	普通	胴部内・外面ヘラ削り、底部ナデ	北西部下層	10%
559	須恵器	高坏	(13.2)	(2.7)	-	長石	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ	北西部覆土	
560	須恵器	皿	[7.4]	(2.6)	-	長石	灰	良好	体部外面下端回転ヘラ削り、ロクロナデ	南東部上層	10%
562	須恵器	平皿	-	(2.6)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り、ロクロナデ	東壁部中層	
563	須恵器	皿	[12.5]	(1.8)	-	長石	黄灰	良好	ロクロナデ	南西部覆土	
564	土師器	甕	[24.0]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部棟ナデ、体部内面ヘラナデ	南東部中層	10%
565	土師器	甕	-	(13.1)	8.8	長石・石英・雲母	にぶい黄粉	普通	体部内面輪轆み痕、底部外面ヘラ磨き痕	北東部床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP20	土玉	-	1.92	1.65	5.60	長石・石英	ナデ、片面穿孔。孔径0.42cm	籠付近下層	PL73
DP31	土玉	-	1.85	1.36	3.80	長石・雲母	ナデ、片面穿孔。孔径0.26cm	籠付近下層	PL73
DP32	土玉	-	1.66	1.65	4.60	長石・石英・雲母	ナデ、孔径0.27cm	籠付近下層	PL73
DP33	土玉	-	2.02	1.60	6.40	長石・雲母・赤色砂子	ナデ、孔径0.24cm	籠付近下層	PL73
DP34	土玉	-	1.66	1.34	3.20	長石・石英・雲母	ナデ、片面穿孔。孔径0.28cm	籠付近下層	PL73
DP35	土玉	-	1.88	1.33	4.50	長石・赤色砂子	ナデ、孔径0.24cm	籠付近下層	PL73
DP36	土玉	-	1.61	1.62	5.10	石英・雲母・赤色砂子	ナデ、片面穿孔。孔径0.31cm	籠付近下層	PL73
DP37	土玉	-	1.10	1.16	1.20	長石・雲母・赤色砂子	ナデ、片面穿孔。孔径0.30cm	籠付近下層	PL73

番号	基 礎	長さ	幅	厚さ	基礎	材質・形状	寸 法	出土位置	備 考
DP28	土瓦	-	1.23	1.33	1.70	長石・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.31cm	甕付近下層	PL73
DP29	土瓦	-	1.55	1.69	4.30	長石	ナテ、片割穿孔、孔径0.37cm	甕付近上層	PL73
DP40	土瓦	-	1.49	1.32	2.30	長石・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.33cm	甕付近下層	PL73
DP41	土瓦	-	2.13	1.87	2.80	長石・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.26cm	甕付近中層	PL73
DP42	土瓦	-	2.03	1.58	7.25	雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.33cm	甕付近中層	PL73
DP43	土瓦	-	1.63	1.48	4.16	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.37cm	甕付近中層	PL73
DP44	土瓦	-	2.12	1.88	7.05	長石・雲母	ナテ、孔径0.53cm	甕付近中層	PL73
DP45	土瓦	-	2.35	1.65	8.65	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.51cm	甕付近中層	PL73
DP46	土瓦	-	1.73	1.48	4.12	石英	ナテ、片割穿孔、孔径0.31cm	甕付近中層	PL73
DP47	土瓦	-	1.86	1.80	5.40	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.38cm	甕付近下層	PL73
DP48	土瓦	-	1.90	1.79	6.45	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、孔径0.29cm	甕付近下層	PL73
DP49	土瓦	-	1.80	1.47	12.66	長石・石英	ナテ、片割穿孔、孔径0.16cm	甕付近下層	PL73
DP50	土瓦	-	2.61	1.84	10.30	石英・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.43cm	甕付近下層	PL73
DP51	土瓦	-	2.29	1.91	8.90	長石・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.24cm	甕付近下層	PL73
DP52	土瓦	-	1.46	1.51	3.40	長石・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.26cm	甕付近下層	PL73
DP53	土瓦	-	2.04	1.90	6.70	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.31cm	甕付近下層	PL73
DP54	土瓦	-	1.14	1.20	1.40	長石・石英・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.24cm	甕付近下層	PL73
DP55	土瓦	-	1.49	1.46	3.30	長石・石英・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.26cm	甕付近下層	PL73
DP56	土瓦	-	1.41	1.30	3.20	長石・雲母	ナテ、孔径0.30cm	甕付近下層	PL73
DP57	土瓦	-	1.94	1.88	7.90	長石・雲母	ナテ、孔径0.39cm	甕付近下層	PL73
DP58	土瓦	-	1.78	1.60	4.70	長石・石英	ナテ、孔径0.39cm	甕付近下層	PL73
DP59	土瓦	-	1.67	1.61	7.30	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.30cm	甕付近下層	PL73
DP60	土瓦	-	1.89	1.84	10.60	長石・石英・雲母	ナテ、孔径0.49cm	甕付近下層	PL73
DP61	土瓦	-	2.16	1.88	7.60	雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.22cm	甕付近下層	PL73
DP62	土瓦	-	1.71	1.35	4.10	長石・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.26cm	甕付近下層	PL73
DP63	土瓦	-	1.71	1.57	1.40	雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.30cm	甕付近下層	PL73
DP64	土瓦	-	1.67	1.55	3.90	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、孔径0.30cm	甕付近下層	PL73
DP65	土瓦	-	1.67	1.50	4.10	長石・雲母	ナテ、片割穿孔、孔径0.26cm	甕付近下層	PL73
DP66	白土	-	6.8	0.63	0.43	雲母	ナテ、側面凹溝状、孔径0.15cm	甕付近中層	PL73
DP67	土瓦	-	1.15	0.98	1.02	雲母・赤色粒子	ナテ、片割穿孔、孔径0.18cm	甕付近下層	PL73
DP68	白土	-	0.63	0.63	0.30	雲母・赤色粒子	ナテ、側面凹溝状、孔径0.18cm	甕付近中層	PL73
DP69	敷石	9.0	9.2	1.5	91.90	長石・石英・雲母	ナテ、内側面に棒状工具による溝1条	甕付近下層	PL72
DP70	敷石	7.9	8.3	1.8	76.30	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、内側面に棒状工具による溝1条	甕付近下層	PL72
DP71	敷石	6.85	6.0	1.90	73.30	長石・雲母	ナテ、内側面に棒状工具による溝1条、穿孔状	甕付近下層	PL72
DP72	敷石	8.2	7.7	1.87	138.80	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、内側面に棒状工具による溝1条	甕付近下層	PL72
DP73	敷石	13.00	10.0	1.80	73.90	長石・石英・雲母	ナテ、内側面に棒状工具による溝1条	甕付近下層	PL72
DP74	敷石	17.60	16.0	1.20	121.80	長石・雲母・赤色粒子	ナテ、内側面に棒状工具による溝1条	甕付近中層	PL72
DP75	敷石	11.45	12.50	1.30	128.80	長石・雲母・赤色粒子	ナテ	甕付近下層	PL72
M82	引下り	(1.45)	(2.7)	(0.65)	(7.75)	鉄	中央部で断面、先端リソ状に成形、両り張り	中央部下層	PL83
M83	不明	(3.8)	1.8	0.3	(3.63)	鉄	板状、刀子鋒の刃部	甕付中層	

第1598号住居跡 (第81・82図)

位置 調査区中央部のR7街区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1612号住居跡を掘り込み、第1592号住居と第1506号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.4m、短軸4.3mほどの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は40~48cmで、壁は外

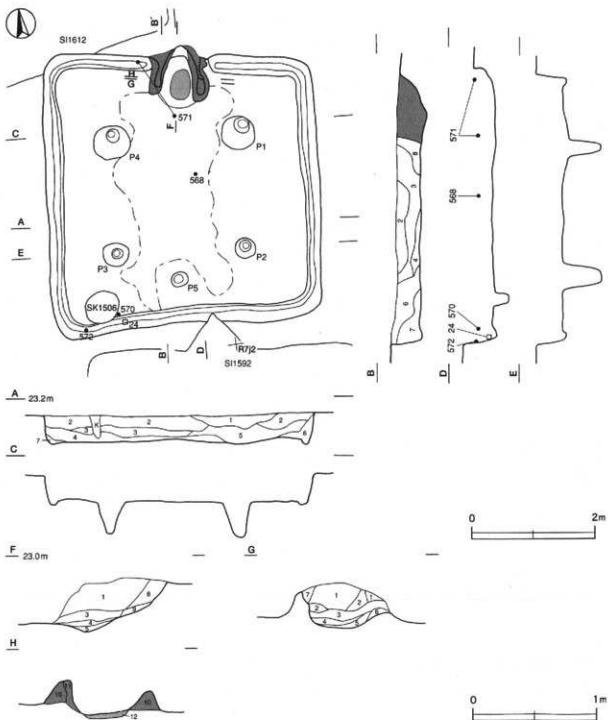
傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅95cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変している。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は被熱で赤変硬化している。また、煙道は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|----------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ | 2 暗 赤 褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| | 砂粒少量 | 3 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・灰少量 |



第81図 第1598号住居跡実測図

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 4 灰 褐色 灰多量、焼土粒子少量 | 9 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・灰少量 |
| 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量 | 10 灰 黄褐色 砂粒・粘土粒子多量、ロームブロック少量 |
| 6 灰 黄褐色 砂粒・粘土粒子多量、焼土粒子少量 | 11 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒・粘土粒子中量 |
| 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量、砂粒・粘土粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土ブロック多量、灰少量、炭化粒子微量 |
| 8 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化物中量、ロームブロック少量 | |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは56～64cmである。P5は深さ31cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

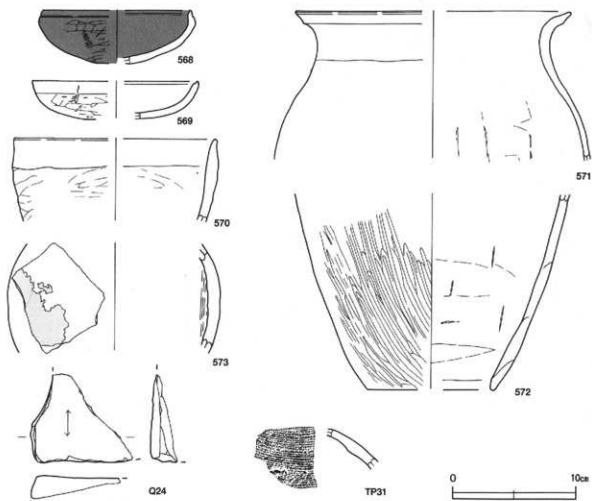
覆土 8層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|--|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック少量 | 8 にぶい黄褐色 ロームブロック・砂粒・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | |
| 5 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片423点(坏87, 鉢1, 甕334, 瓶1), 須恵器片1点(フラスコ形甌), 石器1点(砥石)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。571は北壁際と竈手前の覆土中層から出土した破片が接合したものである。568は中央部の覆土中層から正位の状態、570は南西部の覆土中層から出土している。

所見 土器片はほとんどが細片で、覆土の上層から床面にわたって分布していることから判断して、住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第82図 第1598号住居跡出土遺物実測図

第1598号住居跡出土遺物観察表 (第82図)

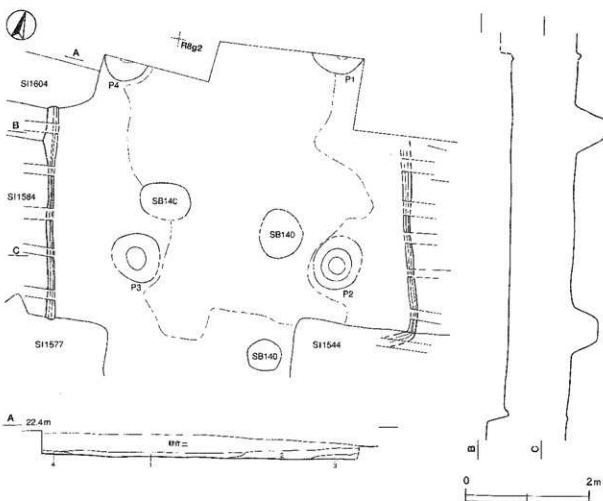
番号	種類	図案	口径	器高	底径	胎土	色相	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
566	土師器	杯	118	(42)	-	長石・赤色粒子	にじみ焼	普通	器外面ヘラナデ・ヘラ磨き痕	中次2号中層	10%
569	土師器	片	133	(20)	-	長石・赤色粒子	にじみ焼	普通	器外面有段・体部外面輪痕み痕	覆土中	10%
570	土師器	鉢	160	(6.6)	-	長石・石英・雲母	にじみ焼	普通	体部内・外面有段によるナデ	南西部中層	10%
571	土師器	甕	220	(11.9)	-	長石・石英・雲母	明焼	普通	口縁部磨ナデ・体部内面ヘラナデ	北壁際・臺子 南中層	10%
572	土師器	鉢	-	(13.6)	10.21	長石・石英・雲母	にじみ焼	普通	内面ヘラナデ・輪痕み痕	南西居跡上	20%
573	埴土器	部破	-	(8.6)	-	長石・石英	明焼	普通	体部内・外面クロナデ	覆土中	
TP31	埴土器	取	-	-	-	長石・石英	灰	良好	体部外面ヘラナデ・内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・成分	特徴	出土位置	備考
Q24	埴石	(7.1)	(8.1)	(2.3)	(74.1)	カオリン・石英	灰濁・2面	南部中層	P1.76

第1601号住居跡 (第83・84図)

位置 調査区中央部のR 8 g2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1514・1577・1584・1588・1604号住居と第140号掘立柱建物に囲まれていた。



第83図 第1601号住居跡尖測図

規模と形状 東西軸5.8m, 南北軸は4.7mだけが確認された。主軸方向はN-11°-Wで, 方形または長方形と推定される。壁高は27cmほどで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, ビットの内側が踏み固められており, 壁溝は確認された範囲で巡っている。

ビット 4か所。P1~P4は主柱穴で, 深さは33~52cmである。

覆土 4層からなり, レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片36点(環16, 皿1, 甕18, 瓶1), 須恵器1点(甕)が出土している。出土した土器はほとんどが細片である。585・586・588・TP32は北西部の覆土中からの出土である。

所見 廃絶時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第84図 第1601号住居跡出土遺物実測図

第1601号住居跡出土遺物観察表(第84図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
585	土師器	環	140	230	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り・輪組み痕	北西部覆土中	
586	土師器	皿	-	200	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ後ヘラ磨き	北西部覆土中	10%
587	土師器	小形甕	120	151	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ後下位ヘラ磨き	覆土中	20%
588	土師器	小形甕	130	130	-	石英・雲母	灰青褐色	普通	口縁部積ナデ	北西部覆土中	
TP32	須恵器	不明	-	-	-	長石・雲母	灰	普通	体部外面平行叩き・波状文, 内面ヘラナデ	覆土中	

第1602号住居跡(第85・86図)

位置 調査区中央部のR7g3区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

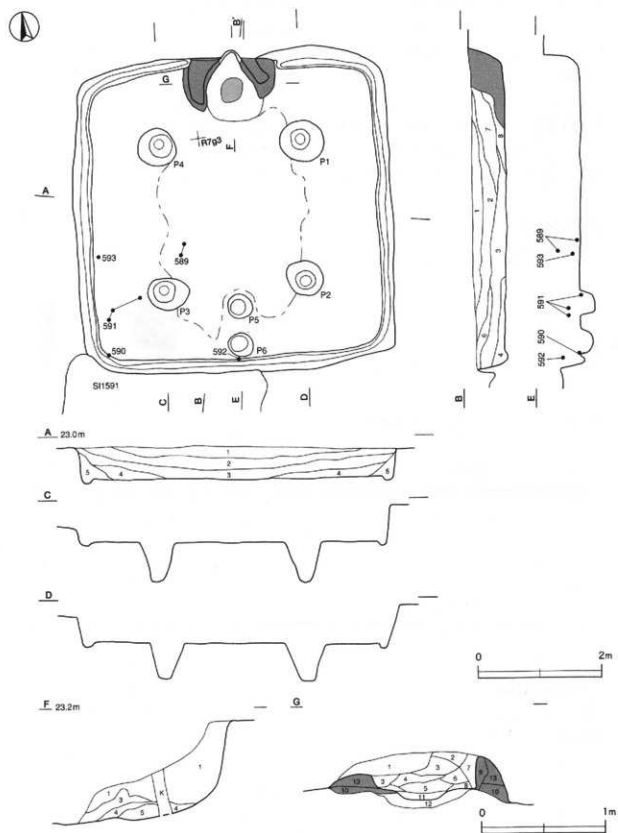
重複関係 第1591号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.1m, 短軸5.0mほどの方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁高は26~61cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, ビットの内側が踏み固められており, 壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで113cm, 袖部幅142cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており, 被熱で赤変硬化している。火床部は地山面をそのまま使用し

ており、火床面が被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に10cmほど掘り込み、やや外傾して立ち上がっている。



第85図 第1602号住居跡出土遺物実測図

覆土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------------|------------|----------------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 8 暗 赤 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗 褐 色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量 | 9 におい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック少量 |
| 3 におい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック・炭化物少量 | 10 におい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量 |
| 4 灰 褐 色 | 焼土ブロック・灰少量 | 11 暗 赤 褐 色 | ロームブロック多量 |
| 5 灰 褐 色 | 灰多量、焼土ブロック・炭化物微量 | 12 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 6 におい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、炭化物微量 | 13 灰 黄 褐 色 | 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子・炭化物粒子微量 |
| 7 灰 黄 褐 色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 | | |

ピット 6か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは58～65cmである。P5・P6は深さ30cm・25cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

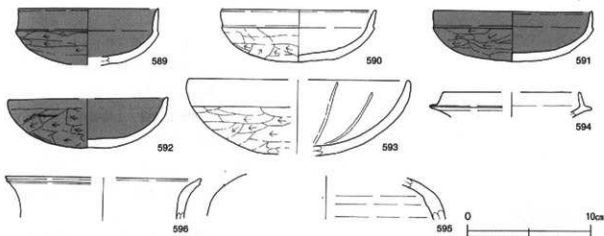
覆土 8層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 黒 褐 色 | 焼土粒子・炭化物粒子少量、ロームブロック微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 黒 褐 色 | 炭化物・粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 極 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 8 極 暗 褐 色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量 |
| 4 極 暗 褐 色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 | | |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片1794点(坏419, 高台付坏2, 高坏2, 甕1370, 瓶1), 須恵器片2点(坏1, 瓶1)が出土している。また、北西部で出土している磁器片1点(青磁)は後世の混入である。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。591は南西部の覆土中層から床面にかけて出土した破片を接合したものである。590は南西コーナー部の覆土下層, 594は北東部, 595は北西部の覆土上層から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から7世紀中葉と考えられる。同時期の住居跡には主軸方向や規模にばらつきがみられる。当遺跡において, 規模が最大である第1525号住居は主軸方向が北西を指し, 最小である第1667号住居の主軸方向は北東を指している。本跡は面積が25㎡で中間的な規模であり, 主軸方向がほぼ真北を指している。



第86図 第1602号住居跡出土遺物実測図

第1602号住居跡出土遺物観察表 (第86図)

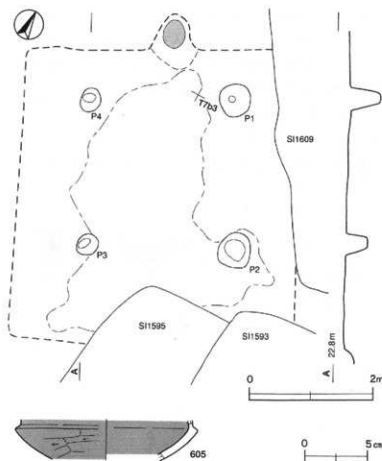
番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
589	土師器	坏	11.0	(4.5)	-	長石・赤色粒子	におい橙	普通	体部外面へラ削り, 内面ナデ	中央部・下層	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
590	土師器	坏	12.3	4.2	-	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面へラ削り・輪積み直、内面ナデ	山西コーナー部 下層	80%、内・外面 黒色地埋肌、PL51
591	土師器	坏	12.6	3.9	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り、内面ヘラナデ後ナデ	南西部中～床 面	80%、PL51
592	土師器	坏	[12.5]	[4.0]	-	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面へラ削り・輪積み直、内面ナデ	山腰階上層	30%
593	土師器	坏	[17.4]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へラ削り、内面ナデ後へラ削き	西壁階下層	20%
594	須恵器	坏	[10.9]	(2.0)	-	長石	灰	良好	ロクロナデ	北東部上層	
595	須恵器	瓶	-	(3.4)	-	長石	灰黄	普通	ロクロナデ	北西部上層	
596	土師器	甕	[15.5]	(2.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	南東部中層	

第1605号住居跡（第87図）

位置 調査区中央部のT7b3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1593・1595・1609号住居に掘り込まれている。



第87図 第1605号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 竈と硬化面の範囲及び柱穴の配列から、一辺が4.7mほどの方形と推定される。主軸方向はN-28°-Wである。

床 はほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められている。

竈 残存状態が悪く、火床部を残すだけである。火床部は地山面をそのまま使用している。3cmほど皿状にくぼんでおり、火床面は被熱で赤変硬化している。

ピット 4か所。P1～P4は主柱穴で、深さは38～91cmである。

覆土 検出されていない。

遺物出土状況 土師器片8点(坏2、甕6)が出土している。土器片は竈とピットから出土しており、すべてが細片である。605はP1の覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第1605号住居跡出土遺物観察表（第87図）

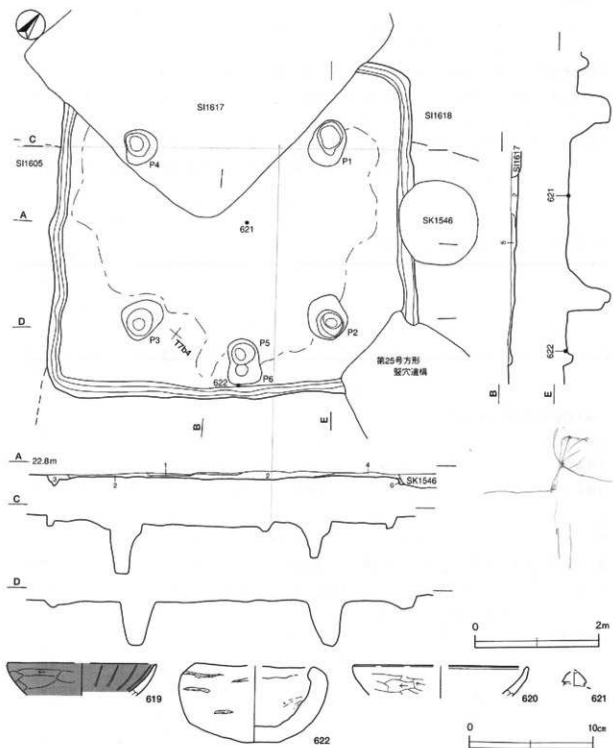
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
605	土師器	坏	-	(3.2)	-	長石	にぶい黄褐	普通	体部外面へラ削り、内面ナデ	覆土中	

第1609号住居跡 (第88図)

位置 調査区中央部のT7a3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1605・1618号住居跡を掘り込み、第1617号住居と第25号方形竪穴遺構、第1546号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.8m、短軸5.5mほどの方形で、主軸方向はN-38°-Wである。壁高は3~10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。



第88図 第1609号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北東壁の中央部付近の床面で、竈の構築材と考えられる砂質粘土粒子と焼土粒子が検出されていることから、北東壁中央部に付設されていたと推測される。

ピット 6か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは61～91cmである。P5・P6は深さ46cm・26cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片93点(坏10, 甕81, 手捏土器1), 須恵器片1点(蓋)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。G22は南東壁際の床面から正位の状態で出土している。G21は中央部の覆上下層から出土している。

所見 G22が出土した位置には出入り口施設が付設されており、出土状況から見て、意図して置かれた可能性が高い。住居廃絶に伴う祭祀的な行いとも考えられ、興味もたれる。時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。

第1609号住居跡出土遺物観察表(第88図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
619	土師器	鉢	11.8	9.6	-	灰石・赤褐色胎土	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り、内面ナデへラ削り	覆土中	10%
620	土師器	坏	13.8	2.4	-	灰石・赤褐色胎土	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り、内面ナデ	北東部上層	
621	須恵器	蓋	-	11.1	-	長石・赤褐色	灰白	普通	口クラナデ	中央部下層	
622	土師器	手捏土器	9.6	6.2	-	灰石・赤褐色	灰白	不良	体部内外面へラ削り・輪組み表	南東壁際床面	70%, PL71

第1610号住居跡(第89図)

位置 調査区中央部のS7e1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1614号住居跡を掘り込み、第149・153号掘立柱建物と第92号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.0m, 短軸6.9mほどの方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は6～29cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は袖部幅150cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が赤変している。火床部は、床面を20cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を詰め戻して作っており、火床面は被熱で赤変硬化している。

土層解説

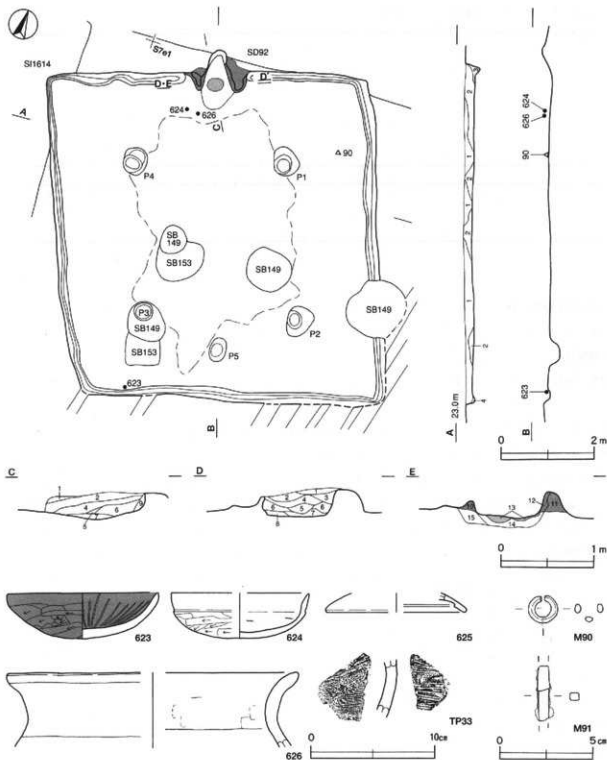
- | | | | |
|----------|--------------------------|------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 10 にぶい・灰褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 12 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量 | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 | | |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは65～73cmである。P5は深さ21cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、黄土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |



第89図 第1610号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片754点(坏152, 高台付坏3, 甕599), 須恵器片9点(坏2, 蓋1, 瓶3, 甕3), 土製品1点(支脚), 金属製品2点(耳環1, 不明1)が出土している。623は南壁際の覆土下層, 624・626は竈手前の覆土中層からそれぞれ出土している。また, M90は北東部の床面, M91は壁溝の覆土中から出土している。

所見 廃絶時期は, 出土土器から7世紀中葉と考えられる。

第1610号住居跡出土遺物観察表(第89図)

番号	種別	図種	寸法	器高	底径	胎土	色調	焼成	主な特徴	出土位置	備考
624	土師器	坏	220	36	-	灰白・赤褐色粘土	黄	共通	体部外面ヘラ削り, 内面ナテ長ヘラ磨き	南壁際下層	85%
624	土師器	坏	1110	137	-	灰白・赤褐色粘土	黄灰	共通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナテ後ナテ	竈手前中層	50%
625	須恵器	蓋	1110	163	-	粘石	黄灰	共通	コクロナテ, 端部折返し	覆土中	
626	土師器	甕	250	160	-	灰白・赤褐色	黄	共通	口縁部粘土テ, 頸部内面ヘラナテ後	竈手前中層	
TP33	須恵器	甕	-	-	-	灰白・石灰	灰	良好	体部外面ヘラナテ・切ぎ直, 内面ヘラナテ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M80	耳環	1.45	1.70	0.3	2.16	銅	環状で開口部有り	北東部床面	PLR2
M91	甕	(29)	(0.55)	(0.4)	(26)	鉄	断面方形, 底部から施装部, 開口有り	壁溝	

第1611号住居跡(第90図)

位置 調査区中央部のS7d3区に位置し, 平川な台地上に立地している。

重複関係 第92~94号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.6m, 短軸3.9mほどの長方形で, 主軸方向はN-82°Eである。壁高は11~24cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平川で, ビットの内側が踏み固められており, 壁溝が固回している。

竈 東壁中央部よりやや南側に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで112cm, 袖部幅107cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を27cmほど凹状に掘りくぼめ, ローム上を埋め戻して作られており, 火床面が被熱で赤変硬化している。また, 煙道部は壁外に28cmほど掘り込み, 外傾して緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 灰少量
- 4 暗赤褐色 粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック少量
- 5 にぶい赤褐色 砂粒多量, 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量
- 7 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 9 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 10 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒中量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量
- 12 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ビット 3か所。主柱穴はP1・P2が相当し, 深さは68cm・66cmである。P3は深さ30cmで南壁際の中央にあり, 硬化面の広がり状況から出入り口施設に伴うビットと考えられる。

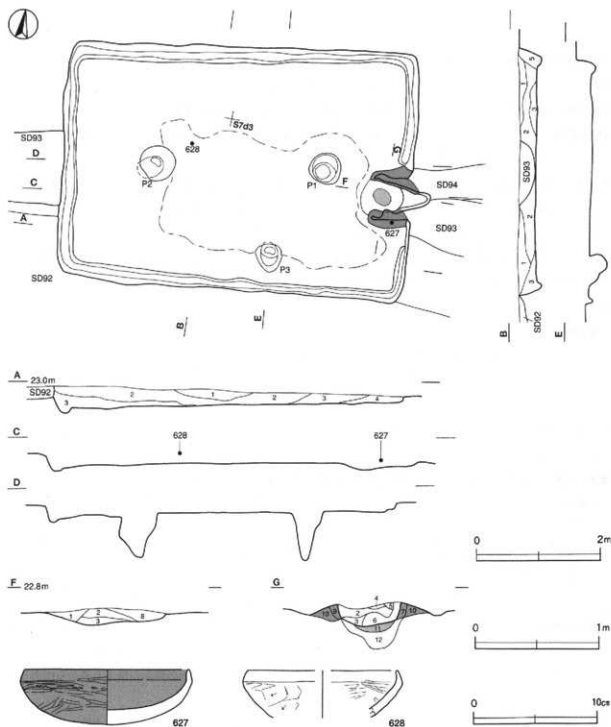
覆土 5層からなり, ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
 2 暗褐色 ローム中ブロック中量
 3 暗褐色 ローム小ブロック中量

- 4 暗褐色 ローム中ブロック少量
 5 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物出土状況 土師器片105点(坏37, 寛68), 須恵器片2点(甕)が出土している。遺物の出土量が少なく、ほとんどが細片である。627は甕の袖部から、ほぼ完形のまま正位の状態出土している。628は中央部の覆土中層から出土している。



第90図 第1611号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。竈が東壁に付設されており、当遺跡におけるこの時期の住居構造としては類例が少ない。主柱穴が2か所で上屋構造にも特徴がある。

第1611号住居跡出土遺物観察表 (第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地産	手法の特徴	出土位置	備考
627	土師器	杯	13.0	4.4	-	灰白・雲母	にぶい赤	普通	外壁外面へうろつき・輪積み肌	竈上部	96%, PL51
628	土師器	杯	11.9	3.8	-	長石・雲母	にぶい赤	普通	外壁外面へうろつき・内面へうろつき	中央部中層	10%

第1612号住居跡 (第91・92図)

位置 調査区中央部のR7h1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1523号土坑を掘り込み、第1589A・1589B・1598号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.2m、短軸5.0mほどの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は42~50cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められており、壁溝が固回している。また、間仕切り溝が2条確認されている。東壁の間仕切り溝は長さ80cm、幅20cm、深さ4cm。西壁の間仕切り溝は長さ120cm、幅24cm、深さ4cmほどで、どちらも中央に向かって延びている。

竈 北壁中央部に付設されている。左の袖部と火床部が残っているだけである。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を4cmほど皿状にくぼめており、火床面が被熱で赤変硬化している。

甌土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 灰黄色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 4 灰褐色 | 灰多量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |

ピット 6か所。主柱穴はP1~P4が相当し、深さは52~78cmである。P5は深さ33cmで竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ21cmで、間仕切り溝に伴うピットである。

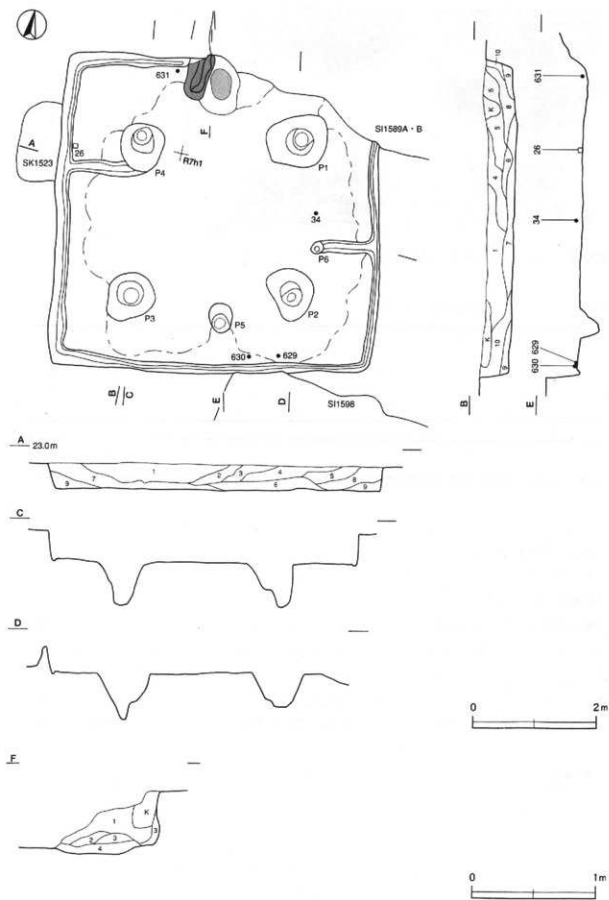
覆土 10層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

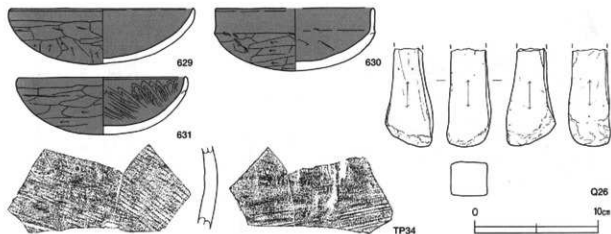
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック多量 | | |
| 6 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片278点(坏47、甕231)、須恵器片1点(甕)、石器1点(砥石)が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。629・630は南壁際の床面から正位の状態、631は北壁際の床面からそれぞれ出土している。また、Q26が西壁際の床面、T P34が東部の覆土下層から出土している。

所見 当遺跡では類例が少ない間仕切り溝が、東壁と西壁で確認されている。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第91图 第1612号住居跡实测图



第92図 第1612号住居跡出土遺物実測図

第1612号住居跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
629	土師器	杯	14.7	4.4	-	長石	にぶい黄褐色	普通	外部外面ヘラ削り・輪積み直, 内面ナデ	南壁際床面	98%, PL51
630	土師器	杯	[12.6]	5.2	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外部外面ヘラ削り・輪積み直, 内面ナデ	南壁際床面	60%
631	土師器	杯	13.4	4.6	-	石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	内部内面ヘラ削り後ナデ・ヘラ磨き	北壁際床面	20%
TP34	灰芯器	甕	-	-	-	長石・石英	黒灰	良好	外部外面斜位の平行引き, 内面ヘラナデ	東部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q26	瓦石	(7.8)	3.5	3.9	(14.1)	凝灰岩	断面方形, 断面4面	西壁際床面	PL77

第1613号住居跡 (第93図)

位置 調査区中央部のS 6 d7区に位置し, 平坦な台地上に立地している。

重複関係 第96号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に伸びているため, 北東軸5.1m, 東西軸は3.9mだけが確認された。形状は方形または長方形で, 主軸方向はN-5°-Wである。壁高は8~11cmほどで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で, ビットの内側が踏み固められており, 壁溝は確認された範囲で巡っている。

竈 北壁に付設されているが残存状態が悪く, 火床部から煙道部に至る掘り込みが残っているだけである。規模は焚き口から煙道部まで104cmで, 火床部は床面を19cmほど皿状に掘りくぼめている。煙道部は壁外に42cmほど掘り込み, 外傾して立ち上がっている。

遺土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

ビット 6か所。主柱穴はP 1~P 4が相当し, 深さは61~74cmである。P 5・P 6は深さ45cm・49cmで, 竈と向かい合う位置にあり, 出入り口施設に伴うビットである。

覆土 4層からなり, レンズ状に堆積した自然堆積である。

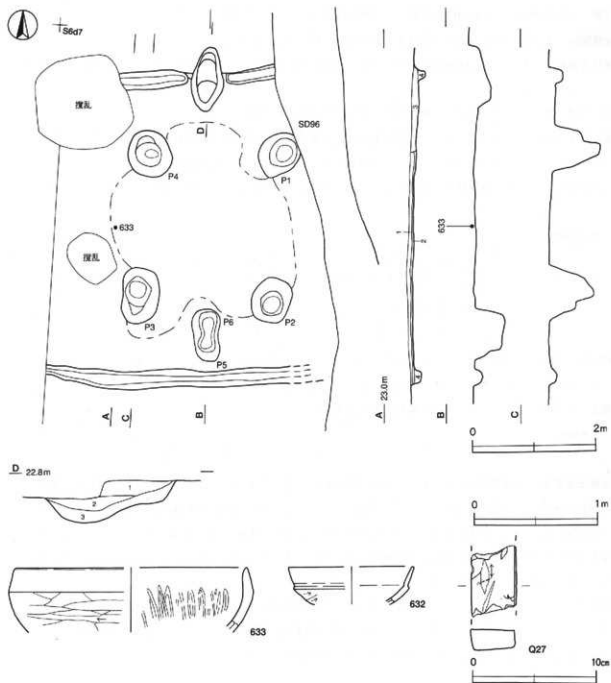
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量
4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片65点（坏19，鉢1，甕44，瓶1），土製品1点（支脚），石器1点（砥石）が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。632は北西部の覆土上層，633は西部の覆土下層から出土している。Q27は北西部の覆土中からの出土である。

所見 廃絶時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。本跡の東に位置する同時期の住居は，主軸方向を北西に向けているが，隣接する第1596・1614号住居は，主軸方向を本跡とほぼ同じ北に向けている。集落内における小集団形成を見る上で，主軸方向は有力な手がかりになるものと考えられる。



第93図 第1613号住居跡・出土遺物実測図

第1613号住居跡出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	形状	口径	器高	底径	胎土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
632	土師器	杯	[9.8]	(3.0)	-	灰石・石灰・小礫	明赤褐色	普通	外部外曲ヘラ削り、内部ナデ	北西部上層	
633	土師器	鉢	[18.4]	(5.2)	-	灰石も及ぶ赤褐色胎土	にない赤褐色	普通	外部外曲ヘラ削り、内面ナデ後ヘラ磨き	西部下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q27	硬石	(3.7)	3.6	1.9	(90.4)	安山岩	断面長方形、縦面3面	覆土中	製法不明

第1614号住居跡 (第94・95図)

位置 調査区中央部のS 6 e9区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1610号住居と第11号道路及び第1529号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.2m、短軸6.0mほどの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は4~20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで139cm、袖幅103cmほどである。火床部は床面を10cmほど肌状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して作られており、火床面が被熱で赤変硬化している。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。煙道部は壁外に35cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

埋土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 5 暗赤褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 9 にない黄褐色 | 砂粒中量 |
| | | 10 暗褐色 | 焼土粒子・砂粒中量 |

ピット 5か所。主柱穴はP 1~P 4が相当し、深さは55~76cmである。P 5は、一部が攪乱され深さが不明であるが、竈と向き合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

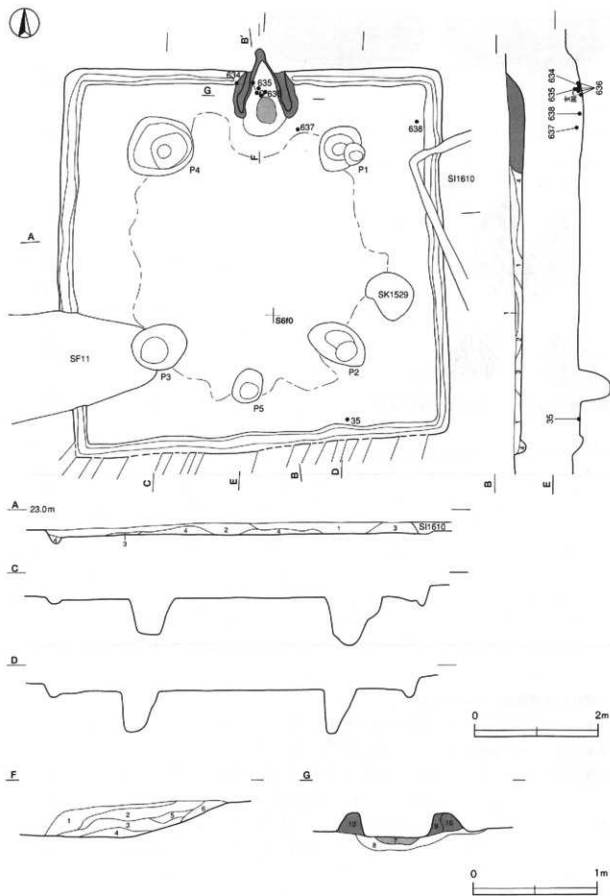
覆土 4層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

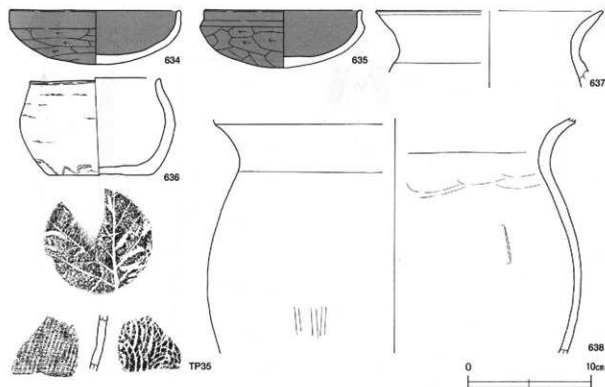
- | | | | |
|-------|------------|-------|------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片284点(坏91, 壺1, 甕192), 須恵器片1点(甕), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(不明), 種子1点(桃)が出土している。遺物のほとんどが破片である。636は竈内の覆土下層から出土した破片が接合している。634はほぼ完形のまま逆位の状態で竈脇の床面から、635は逆位で竈内、637は童子前の覆土下層, T P 35は南壁際の床面、桃の種子はP 1付近の覆土下層からそれぞれ出土している。また、支脚が竈の火床部に招えられた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。同時期と考えられる第1596号住居が隣接しており、主軸方向もほぼ同じで真北を指していることから、集落内小集団の住居と考えられる。第1596号住居では祭祀的行為が行われていたことがうかがわれ、関連性に興味を持たれる。



第94图 第1614号住居跡実測図



第95図 第1614号住居跡出土遺物実測図

第1614号住居跡出土遺物観察表 (第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
634	土師器	杯	13.5	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	竈脇床面	100%, PL51
635	土師器	杯	12.4	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	竈内中層	85%, PL52
636	土師器	壺	10.1	7.8	8.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ・輪積み痕、底部木葉痕	竈内下層	75%, PL52
637	土師器	甕	18.0	(6.1)	-	長石・石英・小礫	橙	普通	口縁部横ナデ	竈手前下層	
638	土師器	甕	-	(18.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ後ヘラ削り、内面ヘラナデ	東壁際下層	10%
TP35	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英	灰	良好	体部外面縦位の平行彫り、内面同心円状の当て具痕	南壁際床面	

第1618号住居跡 (第96・97図)

位置 調査区中央部のS7j4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1600・1608・1609・1617号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東壁は3.0m、南壁は3.8mだけが確認された。確認された壁とピットの位置から、主軸方向をN-16°-Wとする方形または長方形と推定される。壁高は14~30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝は確認された範囲で巡っている。

ピット 5か所。主柱穴はP1~P4が相当し、深さは64~74cmである。P5は深さ29cmで、南壁際の中央にあり、出入り口施設に伴うピットである。

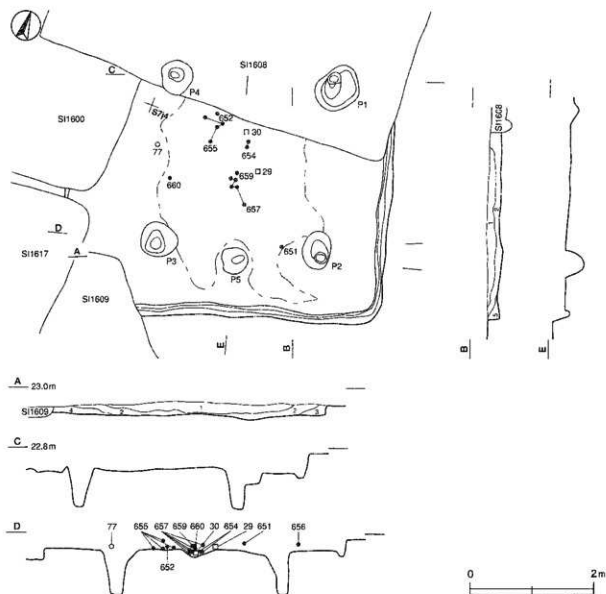
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積しているが、焼土や炭化物とともに遺物も集中して出土していることから、人為堆積である。

土層解説

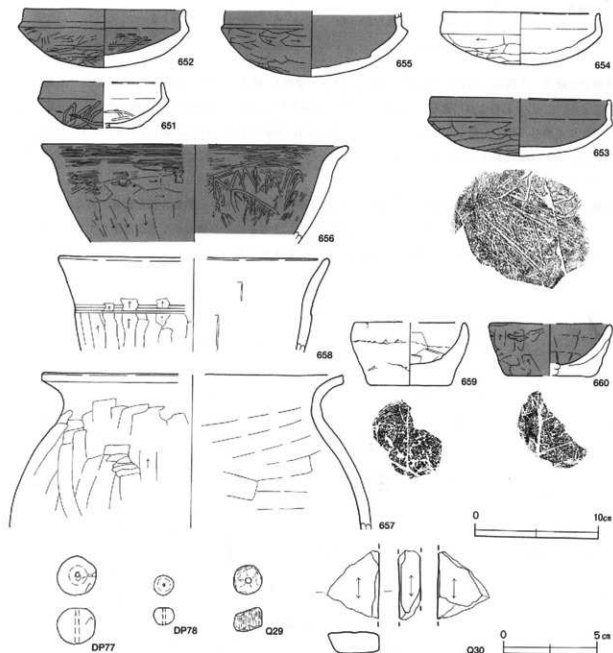
1 暗赤褐色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	3 褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
		5 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片444点(坏187, 高坏2, 鉢1, 甕251, 瓶1, 手捏土器2), 土製品2点(土玉), 石製品2点(白土), 石器1点(砥石), 種子12点(桃)が出土している。土層断面の第1層にあたる中央部では, 上器片や土製品, 種子が集中して出土している。652・654・655は床面, Q29は覆土下層からそれぞれ出土しており, 659・660は覆土上層から2点まとまって出土している。また, 657は覆土中層に散在していた破片が接合したものである。

所見 土層断面の第1層からは焼土や炭化物・炭化粒子が検出されており, 燃やされた痕跡がある。その層中から坏や甕などの上器片と種子(桃)12点, 手捏土器2点, 土玉2点, 石製白土1点が出土しており, 祭祀的な意味合いの強い遺物である。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第96図 第1618号住居跡実測図



第97図 第1618号住居跡出土遺物実測図

第1618号住居跡出土遺物観察表 (第97図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
651	土師器	坏	[9.6]	3.7	[4.8]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい・黄緑	普通	体部内・外面ヘラ磨き。底部外面ヘラ磨り	南東部上層	60%
652	土師器	坏	12.7	4.7	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい・黄緑	普通	口縁部横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き	北部床面	85%、PL52
653	土師器	坏	[14.4]	4.4	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨り。内面ナデ	覆土中	60%、砥石敷地
654	土師器	坏	12.6	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	灰黒	普通	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ磨り	北部床面	90%、内面磨
655	土師器	坏	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい・黄緑	普通	体部外面ヘラ磨り。内面ナデ	北部1層~灰面	50%
656	土師器	鉢	[24.4]	(7.8)	-	長石・雲母・小礫	にぶい・黄緑	普通	体部外面ヘラ磨り接ヘラ磨き	東部上層	15%
657	土師器	甕	[24.0]	(12.3)	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	体部外面ヘラ磨り。内面ヘラナデ	中央部中層	10%
658	土師器	瓶	[21.6]	(7.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨り。内面ヘラナデ	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
659	土師器	手取土器	18.8	5.0	6.5	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	外部外面ナテ、内面ヘラナテ、裏面木炭	中央部上層	50%, PL7
660	土師器	手取土器	9.5	4.2	6.8	石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外部外面ヘラナテ、裏面木炭	中央部上層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP77	土瓦	-	2.0	1.9	6.20	長石	ナテ	西部上層	PL73
DP78	土瓦	-	1.1	0.9	0.98	長石	ナテ	南東部上層	PL73
Q29	「紅土」	-	1.4	1.3	3.82	滑石	側面円筒状、片面穿孔、孔径0.2cm	中央部下層	PL78
Q30	硬石	3.7	12.8	1.2	122.1	凝灰岩	砥面3面	覆土中	

第1619号住居跡（第98図）

位置 調査区北部のQ7c3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 調査区域外に延びているため、北壁5.8m、東壁は1.1mだけが確認された。竈部を含む北側が確認されていることから、主軸方向をN-1°-Wとする方形または長方形と推定される。壁高は8～16cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、竈手前から中央部に向かって踏み固められており、壁溝は確認された範囲で巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅120cmほどである。袖部は床面よりやや高く地山を掘り残して基部とし、その上に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面が被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に20cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・灰少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 7 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・灰少量 | 8 暗暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、砂粒微量 |

貯蔵穴 北東部に位置している。長径70cm、短径48cmの不整楕円形で、深さ21cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|--------|----------------------|-------|-----------|

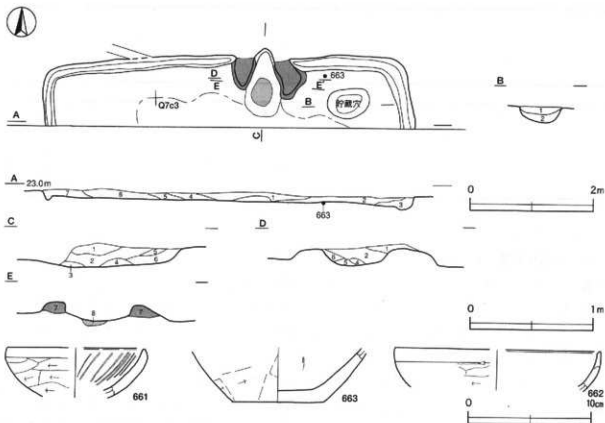
覆土 7層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックや焼土ブロックを多く含む不自然な堆積層であることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|------------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化材微量 |
| | ロームブロック少量 | 7 暗暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片39点（坏4、甕36）が出土している。663は北東部の床面からまともに出土している。661と662は覆土中からの出土である。

所見 北部が確認されただけで出土遺物の数も少なく、時期の特定は難しいが、山土土器から6世紀後半から7世紀前半と考えられる。



第98図 第1619号住居跡・出土遺物実測図

第1619号住居跡出土遺物観察表 (第98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
661	土師器	坏	[110]	(39)	-	長石・石英・雲母	明赤色	普通	内面ナデ後放射状のへら磨き	覆土中	10%
662	土師器	坏	[166]	(36)	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面輪指み直、内面ヘラナデ後ナデ	覆土中	
663	土師器	釜	-	(43)	[74]	長石・石英・雲母	明赤色	普通	体部内面ヘラナデ、底部ヘラ削り	北東部床面	

第1620号住居跡 (第99・100図)

位置 調査区北部のQ7c4区に位置し、平坦な台地上に立地している。

規模と形状 調査区域外に延びているため、北西壁5.9m、北東壁は3.3mだけが確認された。竈と北西・北東コーナー部が確認されていることから、主軸方向をN-26°-Wとする方形または長方形と推定される。壁高は13~20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈手前から中央部にかけて踏み固められており、煙溝は確認された範囲で通っている。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで128cm、袖部幅80cmほどである。火床部は床面を24cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して作っている。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。火床面と袖部の内側は被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に28cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂粒少量

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|----------------------|
| 3 暗赤褐色 | 灰中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 濃い赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、砂粒少量 | 9 濃い黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 極赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化材少量 |
| 7 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子少量 | | |

ピット 1か所。P1の深さは49cmで、位置的に主柱穴と推定される。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、長軸80cm、短軸70cmほどの隅丸方形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。また、貯蔵穴周囲の床面に深さ4cmほどの掘り込みが認められる。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量 | 3 暗褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 | | |

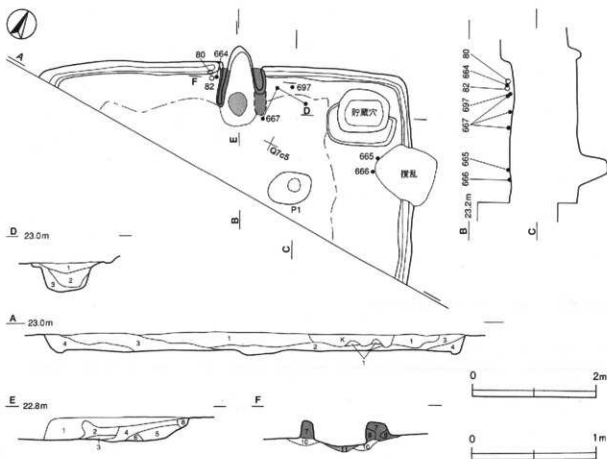
覆土 4層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックを多く含む堆積層であることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

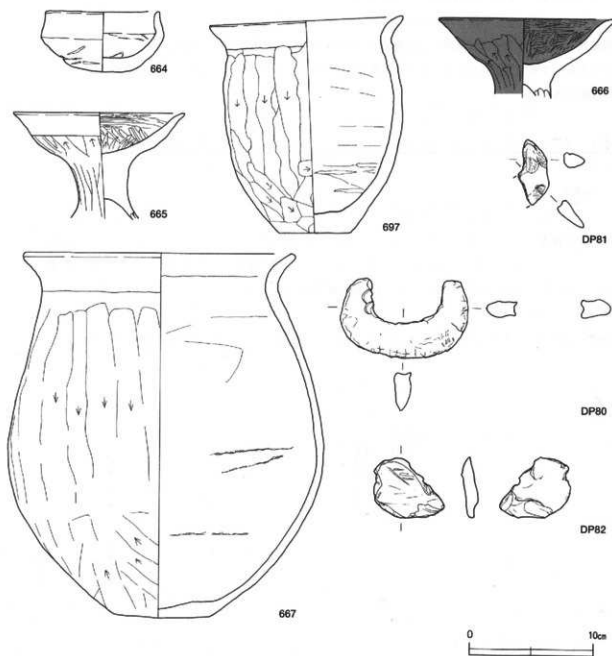
遺物出土状況 土師器片89点(坏21, 高坏2, 甕66), 土製品4点(支脚1, 鋤先形模造品2, 不明1)が出土している。665・666は北東部の床面から出土している。667は竈付近の覆土下層から、つぶれた状態でまともに出上したものである。また、D P81は竈の覆土中、664・D P80・D P82は竈付近の覆土下層から出土しており、664は正位の状態出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。竈周辺から土製鋤先形模造品が2点出土しており、竈



第99図 第1620号住居跡実測図

で、祭祀的な行為が行われた可能性が考えられる。類例として、7世紀前葉と考えられる第1596号住居でも庭付近から土製品46点（鎌先形模造品7，土玉36，白玉3）が出土している。



第100図 第1620号住居跡出土遺物実測図

第1620号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
664	土師器	杯	8.9	4.9	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面から底部にかけてヘラ磨き肌、内面ヘラ磨き。内・外面輪積み肌	庭付近下層	100%, PL52
665	土師器	高杯	13.6	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部外面ヘラナデ、杯部内面ヘラ磨き	北東部床面	80%, PL53
666	土師器	高杯	13.8	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	杯部外面ヘラナデ、内面ヘラ磨き	北東部床面	50%, PL53
667	土師器	甕	21.0	25.3	8.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨り、内面ヘラナデ	庭付近下層	98%, 9割程度, PL54

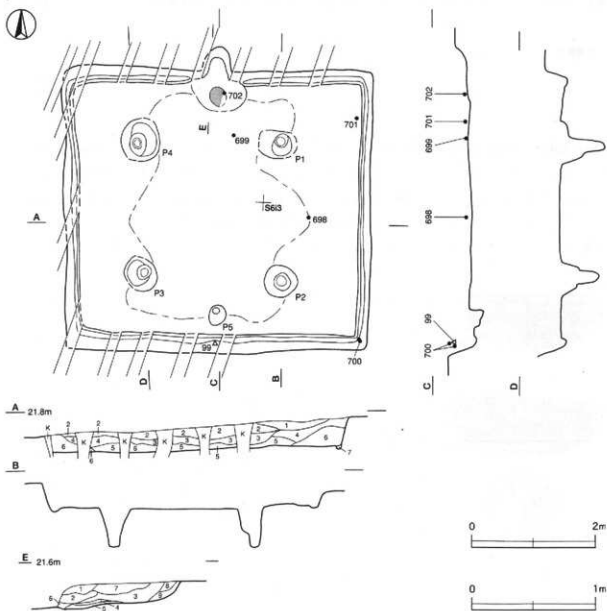
番号	検別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
697	土師器	甕	15.1	17.3	5.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へラナテ・輪積み痕、底部外面 一方向のヘラ落り	甕付近下層	80%、塚付着 PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP80	黒色砂織土	6.3	10.3	1.5	66.1	長石・雲母・赤色鉄子	ナテ、内側面に指痕	甕付近下層	PL72
DP81	黒色砂織土 (5.25)	(2.5)	(2.5)	1.1	10.7	長石・石英・雲母	ナテ、内側面に指痕	甕内埋土中	PL72
DP82	不明	5.7	4.8	1.4	27.1	長石・雲母・赤色鉄子	ナテ	甕付近下層	

第1625号住居跡 (第101・102図)

位置 調査区西部のS 6h2区に位置し、緩斜面に立地している。

規模と形状 長軸4.9m、短軸4.5mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は21~50cmで、壁は外



第101図 第1625号住居跡実測図

傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで104cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面が被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に36cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | 6 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 8 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 4 灰 赤 褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量 | 9 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 5 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 | | |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは62～68cmで、それぞれ径5～8cmのあたりが確認されている。P5は深さ22cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

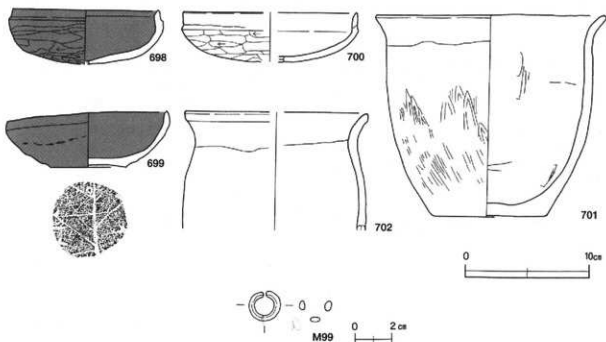
覆土 7層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックを多く含む堆積層であることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|--------------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 5 暗 褐 色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 | 6 暗 褐 色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 | 7 褐 色 | ロームブロック中量、ローム粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片230点(坏76, 高坏5, 甕148, 手捏土器1), 土製品1点(支脚), 金属製品1点(耳環)と混入した縄文土器片24点が出土している。698は東部の覆土下層から逆位の状態で、699は竈手前の床面からつぶれた状態で出土している。700は南東コーナー部の覆土上層、701は北東部の覆土下層、702は竈内からそれぞれまとまって出土している。また、M99は 南壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第102図 第1625号住居跡出土遺物実測図

第1625号住居跡出土遺物観察表 (第102回)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
698	土師器	杯	11.5	4.4	-	雲母白色胎子	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデナデ	東部下層	80%, PL32
699	土師器	杯	12.8	4.4	6.2	石灰白色胎子	にぶい赤褐色	普通	体部内・外面ナデ、底部外面木目痕	墓手前南側	80%, PL53
700	土師器	杯	13.8	4.0	-	長石石灰白色胎子	橙	普通	口縁部横ナデ・外面輪積み痕、体部外面ヘラ削り、内面ナデ	南東コーナー上層	80%
701	土師器	甕	18.1	16.4	4.7	長石石灰白色胎子	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	北東部下層	65%
702	土師器	甕	14.1	(9.4)	-	長石石灰白色胎子	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ、体部内・外面ナデ	奥内	10%

番号	器種	長さ	皿	厚さ	口径	材質・形状	特徴	出土位置	番号
3099	片断	1.55	1.55	0.5	0.35	葉	京試、用口部有り、鎌倉期有り	南壁際中層	PL82

第1630号住居跡 (第103・104回)

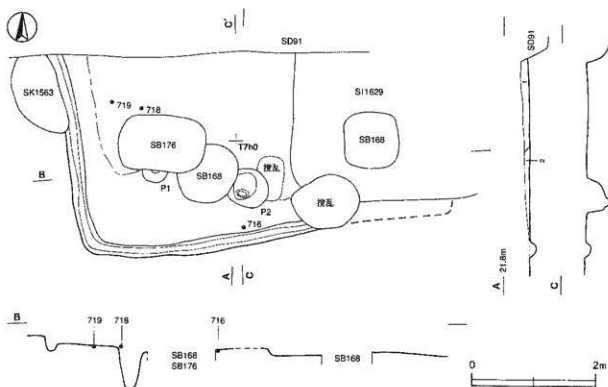
位置 調査区中央部のT7h9区に位置し、台地縁辺の緩斜面に立地している。

重複関係 第1634・1629号住居と第168・176号掘立柱建物及び第91号堀、第1563号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第91号堀に掘り込まれており、南東に傾斜しているため、西壁は3.0m、南壁は2.6mだけが確認された。確認された壁と出入り口施設に伴うピットから、主軸方向はN-7°-Wと推定される。壁高は11cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットから中央部にかけて踏み固められており、壁溝は確認された範囲で巡っている。

ピット 2か所。P1は深さ70cmで、位置から主柱穴と推定される。P2は深さ42cmで、南壁際の中央部に位



第103図 第1630号住居跡実測図

置していると考えられることから、出入り口施設に伴うピットと推定される。

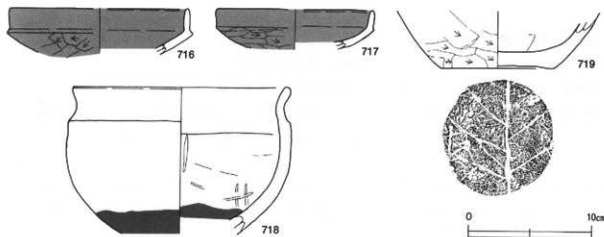
覆土 2層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックを多く含む堆積層であることから人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム中ブロック中量

2 暗褐色 ローム小ブロック中量

遺物出土状況 土師器片100点(坏38, 高坏1, 鉢1, 甕60), 須恵器片20点(坏14, 甕6)が出土している。716は南壁際の床面, 717はP2内の覆土中, 718・719は西部中央の床面からまともってそれぞれ出土している。
所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第104図 第1630号住居跡出土遺物実測図

第1630号住居跡出土遺物観察表 (第104図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	裏	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
716	土師器	坏	[142]	(3.6)	-	長石・雲母	淡緑	普通	普通	体部外面へラ削り, 内面ナデ	南壁際床面	
717	土師器	坏	[124]	(3.1)	-	長石・雲母・赤色砂子	灰黒	普通	普通	体部外面へラ削り・輪積み前, 内面ナデ	P2内	15%
718	土師器	鉢	17.0	(12.6)	-	長石・石英・雲母	赤	普通	普通	体部外面ナデ, 内面へラナデ	西部中央床面	60%, 内・外白 炭化物付着
719	土師器	甕	-	(4.5)	9.0	長石・石英・雲母	橙	普通	普通	体部内面へラナデ, 底部本葉前, 輪積み前	西部中央床面	

第1635号住居跡 (第105図)

位置 調査区南部のU8e3区に位置し, 台地裾部の斜面に立地している。

重複関係 第1646号住居と第181号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.3m, 短軸4.1mほどの方形で, 主軸方向はN-0°である。壁高は14cmほどで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で, ピットの内側が踏み固められており, 壁溝は南壁の一部を除き, 周回している。

竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで111cm, 袖幅98cmほどである。袖部は床面

と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面が被熱で赤変硬化している。また、煙道部は壁外に34cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは29～39cmである。P5は深さ50cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸70cm、短軸60cmの隅丸長方形で、深さ48cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

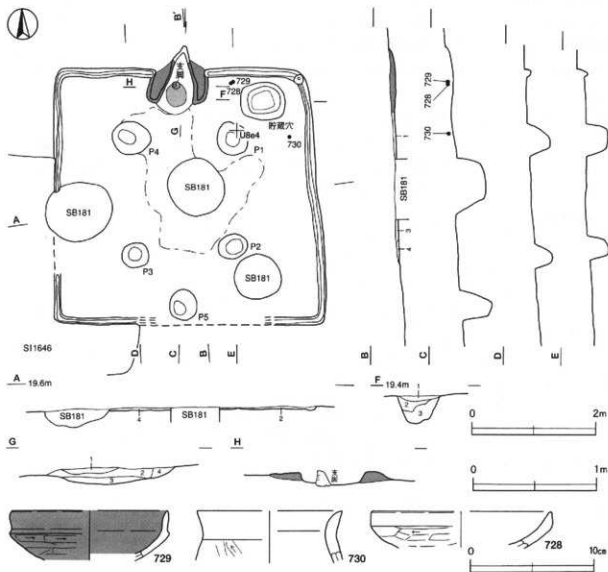
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

覆土 4層からなる。ロームブロックを多く含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |



第105図 第1635号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片69点(環28、甕41)、須恵器片2点(甕)、土製品1点(支脚)が出土している。728・729は遠東側の覆土中層、730は北東部の覆土中層から出土している。また、支脚が甕の火床部に据えられた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。同時期と考えられる住居は、主軸方向が北西を指す傾向にあるが、本跡は真北を指している。立地条件などが原因すると考えられる。

第1635号住居跡出土遺物観察表(第105図)

番号	種別	形状	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
728	土師器	杯	14.4	7.9	-	灰青・白色粒子	にぶい黄緑	普通	外部外面ヘラ削り、内面ナデ	北壁際中層	20%
729	土師器	杯	12.4	4.0	-	灰青・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ	北壁際中層	10%
730	土師器	蓋	11.6	4.2	-	灰青・石灰・雲母	黄	普通	外部外面ヘラ削り後、内面ヘラナデ	北壁際中層	10%

第1645号住居跡(第106・107図)

位置 調査区南部のV516区に位置し、台地裾部の斜面に立地している。

重複関係 第1652・1655号住居と第1558号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.8m、短軸6.6mほどの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は60cmほどで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで178cm、袖部幅1.5cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面が被熱で赤変硬化している。煙道部は壁外に95cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

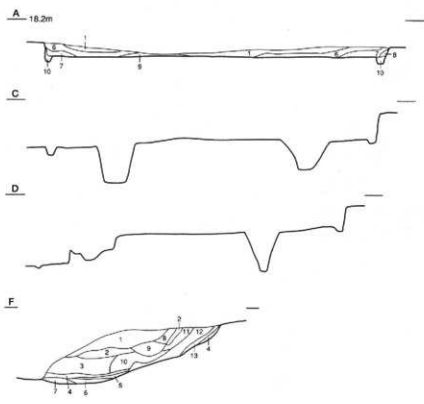
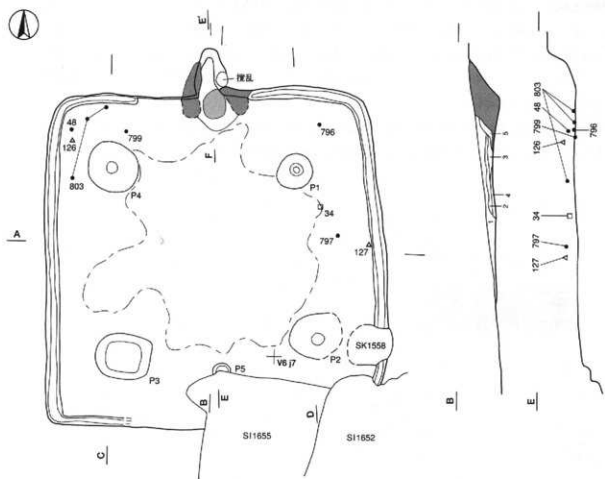
- | | | | |
|----------|--------------------------------------|---------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量、
ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・砂粒少量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、
焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | 粘土ブロック・砂粒ブロック・焼土粒子少量、
ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・
粘土粒子・砂粒少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・
粘土粒子・砂粒少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量、
焼土ブロック・炭化物微量 | 11 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、
粘土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物多量、焼土ブロック微量 | 12 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、炭化物中量、
焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、
炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、焼土ブロック・
ローム粒子・炭化物微量 |
| 7 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・
砂粒少量 | | |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは46～85cmである。P5は竈と向かい合う位置にあり、出入口口施設に伴うピットである。深さは第1635号住居に掘り込まれているため不明である。

覆土 10層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、
炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・
焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・
焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |



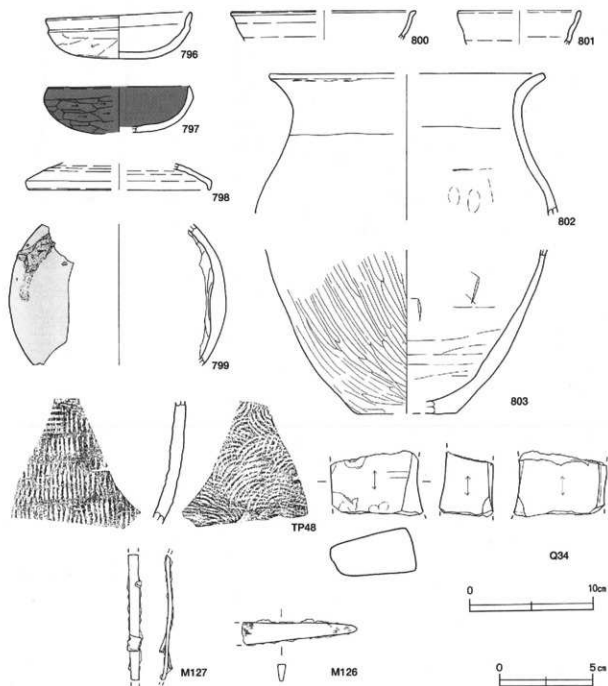
0 2 m

0 1 m

第106图 第1645号住居跡実測图

遺物出土状況 土器器片615点(坏125, 高坏1, 寛488, 瓶1), 須恵器片5点(蓋1, 碗1, フラスコ形瓶1, 甌1, 甕1), 土製品1点(支脚), 鉄製品2点(刀子, 鎌か), 石器1点(砥石)が出土している。796は北東部床面から正位の状態で, 799は北西部の床面からそれぞれ出土している。803は北西部の覆土下層と床面から出土した破片が接合したものである。また, Q34は東部の覆土下層, M127は東部の覆土中層, M126は北西部の覆土中層から出土している。

所見 床面積が44㎡を超える大形の住居で, 東海産の須恵器も出土していることから, 有力者の住居であったことがうかがえる。時期は, 出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第107図 第1645号住居跡出土遺物実測図

第1645号住居跡出土遺物観察表 (第107図)

番号	類別	形種	口径	底径	高さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
796	土埴器	杯	11.3	3.8	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄	不良	体部外面へウケ削り痕ナシ、内面ナシ	北東部床面	75%, PL33
797	土埴器	杯	11.3	3.6	-	-	長石・赤色粒子	に灰・黄	普通	体部外面へウケ削り、内面ナシ	東部下層	30%
798	須恵器	碗	14.6	1.21	-	-	長石・石英	黄灰	粗造	ロクロ整形	覆土中	10%, 調査済
799	須恵器	フナコシ鉢	-	11.2	-	-	石英・赤色粒子	黄灰	粗造	ロクロ整形	北西部床面	
800	須恵器	皿	14.6	1.23	-	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	
801	須恵器	皿	14.8	1.27	-	-	長石・石英	黄灰	普通	ロクロ整形	覆土中	調査済
802	土埴器	羹	22.0	11.4	-	-	長石・石英・雲母	に灰・黄	普通	1線部横ナシ、体部内面磨面済	室内	
803	土埴器	羹	-	13.1	18.0	-	長石・石英・雲母	黄	普通	体部外面へウケ削り、内面へウケナシ	北西部下層・床面	10%
TP48	須恵器	羹	-	-	-	-	長石・石英	灰	良好	体部外面縦位の平行明ミ、内面同心円状のワケ具痕	北西部下層	

番号	形種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q31	砥石	5.2	7.4	4.3	194.2	砂岩	断面長方形、肌面3面	東部下層	PL77
M136	刀子	6.1	1.2	0.4	7.90	鉄	刀身部欠損、本質付着	北西部中層	PL79
M127	鎌	6.6	0.5	0.2	3.86	鉄	断面長方形、平張	東部中層	PL80

第1650号住居跡 (第108・109図)

位置 調査区南部のV7a9区に位置し、台地裾部の斜面に立地している。

重複関係 第1651号住居と第37号井戸、第1611号土坑、第104A号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東側を第104A号溝に掘り込まれており、南に傾斜しているため、北西壁は4.5m、北東壁は1.7mだけが確認された。確認された壁とピット位置から、主軸方向をN-33°-Eとする方形または長方形と推定される。壁高は61cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側が踏み固められており、確認された範囲で壁溝が巡っている。

ピット 3か所。P1・P2は深さが71cm・73cmで、配列から主柱穴と考えられる。P3は深さ54cmで、南西壁の中央に位置するものと推定され、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

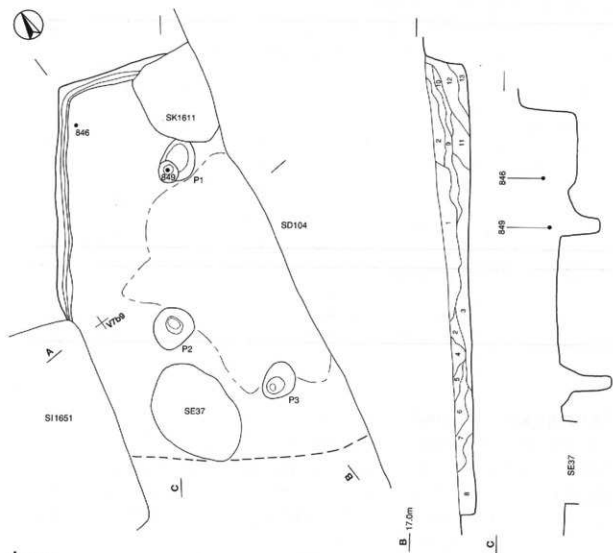
覆土 13層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

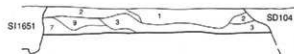
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 8 紫褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 6 紫褐色 | ロームブロック少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片601点(埴93、高台付杯1、羹505、瓶2)、石器1点(砥石)、鉄製品2点(不明)が出土している。遺物は北部にまとまっており、覆土上層から床面まで幅広く出土している。846・849・M144は北部の覆土中層から下層、845・847・848・Q36・M145は北部の覆土中から出土している。

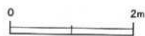
所見 細片が多い状況から、住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から7世紀後半とされる。



A 16.8m



B 17.0m



845



848



846



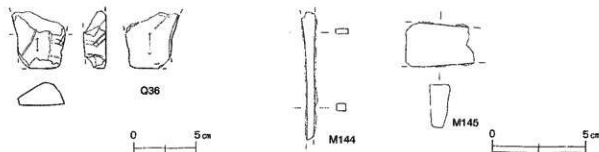
849



847



第108图 第1650号住居跡・出土遺物実測図



第109図 第1650号住居跡出土遺物実測図

第1650号住居跡出土遺物観察表 (第108・109図)

番号	器名	器種	口径	器高	底径	胎土	色	文様	手法の特徴	出土位置	備考
845	土師器	杯	112.1	3.3	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部磨ナデ、体部外面へツ磨り、内面ナデ	北部覆土中	40%、棕色粘質土、下具裏
846	土師器	杯	112.1	4.3	-	長石・石英・雲母	黒	普通	体部外面へツ磨り、内面ナデ	北部覆土中層	43%
847	土師器	杯	10.8	3.7	-	長石・石英・雲母	灰赤	普通	体部外面へツ磨り、内面ナデ	北部覆土中	60%
848	土師器	杯	15.0	3.8	-	長石・雲母	明赤黒	普通	口縁部外面へツ磨り、内面磨文状の磨き	北部覆土中	畿内系
849	土師器	盃	130.2	6.3	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部磨ナデ、外面磨文状	北部覆土中層	

番号	器名	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q36	磁石	(4.5)	1.85	(3.2)		凝灰岩	縦溝3回、扇状の磨磨痕	覆土中	
M144	麻	(6.9)	0.8	0.4	(4.62)	紙	紙身一部欠損、片方型式	北部中層	
M145	不明	(3.7)	2.3	1.1	(37.1)	漆	柱状、片筒形	覆土中	PLA3

第1654号住居跡 (第110～112図)

位置 調査区中央部のT 8c2区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第175号掘立柱建物と第1567・1568・1569・1570号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.6m、短軸3.6mほどの長方形で、主軸方向はN-31°-Wである。壁高は56cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除き踏み固められており、壁溝は北東壁を除き通っている。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで98cmほどで、袖部は残っていない。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面が被熱で赤変硬化している。また、煙道部は壁外に35cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|----------|-----------------------|
| 1 オリーブ褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 オリーブ褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| | | 7 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 |

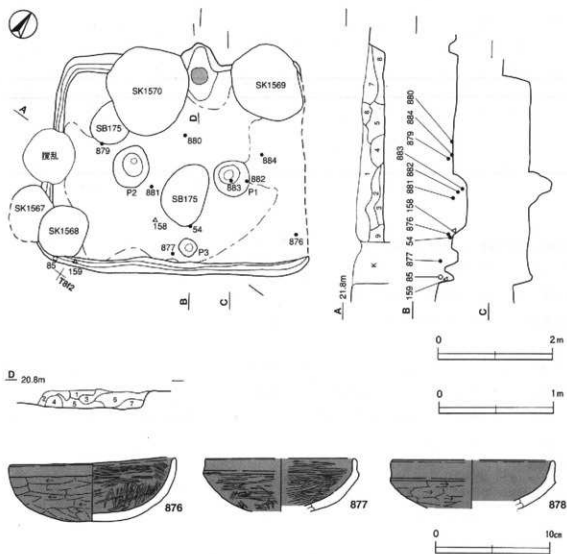
ピット 3か所。主柱穴はP 1・P 2が相当し、深さは39cm・26cmである。P 3は深さ14cmで、竈と向かい合う位置にあり、川入り口施設に伴うピットである。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

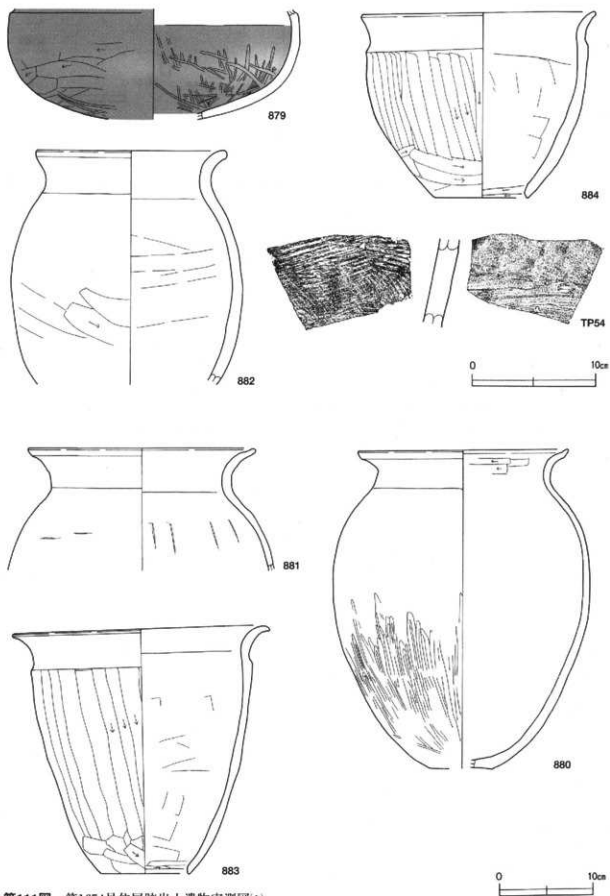
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | | |

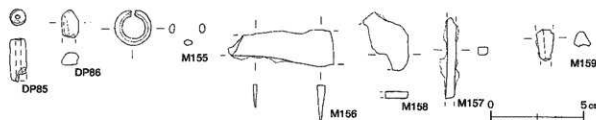
遺物出土状況 土師器片314点(坏63, 鉢1, 小形甕1, 甕247, 瓶2), 須恵器片1点(甕), 土製品2点(管玉, 不明), 金属製品5点(耳環1, 刀子1, 不明3)が出土している。880~884は, 中央部の床面から土圧によってつぶされた状態で出土している。また, 南コーナー部からD P 85が覆土上層, D P 86が覆土下層, M 159が壁溝内, 東部では876が覆土下層から正位の状態, 北部ではM155とM156が覆土上層から出土している。
所見 時期は, 出土土器から6世紀後半と考えられる。本跡の北西側20mほどの位置に, 支柱穴を2か所持つ同じ形態の第1552号住居が位置する。その中間地点には, 床面積が54㎡を越す大形住居があり, 相互の関連が推測される。



第110図 第1654号住居跡・出土遺物実測図



第111图 第1654号住居跡出土遺物実測図(1)



第112図 第1654号住居跡出土遺物実測図(2)

第1654号住居跡出土遺物観察表 (第110~112図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
876	土師器	杯	14.2	5.5	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り・輪積み痕	東部下層	95%, PL53
877	土師器	杯	12.8	4.6	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	南東部中層	50%
878	土師器	杯	11.89	4.2	-	長石・石英・赤色鉄子	橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナテ	東部中層	15%
879	土師器	杯	-	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部ヘラ削りナテ、内・外面ヘラ磨き	西部下層	20%
880	土師器	甕	22.6	34.1	0.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナテ後ヘラ磨き、内面ナテ	中央部表面	60%, PL33
881	土師器	甕	34.0	53.0	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部輪ナテ、体部内・外面ヘラナテ	中央部表面	30%
882	土師器	小彩甕	15.0	18.5	-	長石・石英・赤子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナテ	P1内	80%
883	土師器	甕	27.4	26.5	8.6	長石・石英・赤色鉄子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナテ、口縁ヘラ削り	P1内	95%, PL54
884	土師器	甕	18.6	14.9	8.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナテ	中央部表面	80%, PL54
T154	灰土器	大甕	-	-	-	長石・石英・小砂	灰	良好	体部外面削位による二方向の平行磨き、内面ヘラナテ	東部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP83	管玉	(2.22)	0.84	-	(1.70)	長石・雲母	ナテ、孔径0.25cm	東部下層	PL72
DP86	不明	(1.44)	0.93	0.61	(1.08)	長石・赤色鉄子	ナテ	東部下層	
M155	耳環	1.8	1.9	0.33	5.15	鉄	環状、開口部有り、裏面銀有り	北部上層	PL82
M156	刀子	5.6	2.2	0.4	0.35	鉄	断面三角形、基部欠損	北部上層	PL79
M157	鏡	(4.3)	(0.46)	0.39	(3.38)	鉄	断面四角形、基部欠	東部中層	
M158	不明	(3.1)	(2.4)	0.5	(3.90)	鉄	鎌の刀身の一部	南部中層	
M159	不明	(1.7)	(0.9)	0.8	(1.66)	鉄	断面三角形	南部中層	

第1667号住居跡 (第113図)

位置 調査区南部のJ74区に位置し、台地裾部の斜面に立地している。

重複関係 第1663号住居に掘り込まれている。

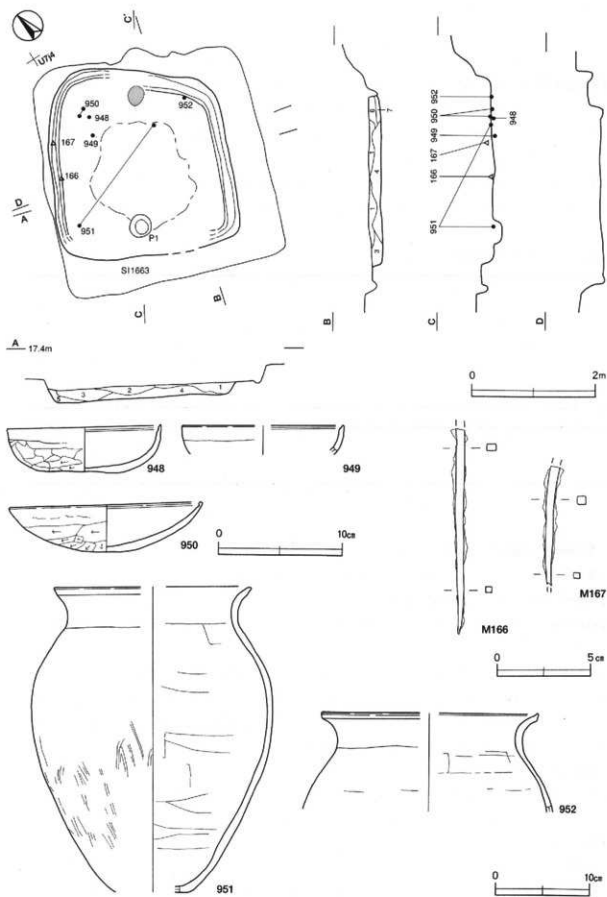
規模と形状 長軸3.4m、短軸2.8mほどの不整長方形で、主軸方向はN-20°-Eである。壁高は16~20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝は南壁の一部を除き、周囲している。

竈 北壁中央部に付設されている。火床面だけが残っており、被熱で赤変硬化している。

ピット 1か所。P1の深さは15cmほどで、硬化面の状況と南壁の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 7層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。



第113图 第1667号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、
焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量、
焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物少量、ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片172点(環28、甕144)、須恵器片2点(甕)、土製品1点(支脚)、鉄製品2点(鐵、鐵カ)が出土している。北部の床面からは948・949が正位の状態でも出土しており、北西部では鉄製品のM166とM167が床面と覆上下層から出土している。951・952は東部の床面からつづれた状態でも出土しており、951は西部の覆土下層から出土した破片と接合している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。床面積が10㎡未満の小形住居で、当遺跡では同時期と考えられる類似の住居は少なからず認められる。

第1667号住居跡出土遺物観察表(第113図)

番号	種別	製種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
948	土師器	杯	12.1	3.8	-	長石・石英・雲母	黄	普通	1) 縁部内面沈堀1条、底面未削り	北部床面	98%, PL33
949	土師器	杯	12.8	(2.3)	-	長石・石英・雲母	黄	普通	1) 縁部内面沈堀1条、底面未削り	北部床面	
950	土師器	杯	15.2	4.1	-	長石・石英・雲母	明赤	普通	1) 縁部内面沈堀1条、外面磨き面	北西部層	65%, PL34
951	土師器	甕	20.7	32.47	[8.0]	長石・石英・雲母	黄	普通	1) 縁部横ナデ、体部外面へラナデ、内面ヘラナデ	東部床面・ 西部下層	60%, PL35
952	土師器	甕	22.8	(10.5)	-	長石・石英・雲母	黄	普通	1) 縁部横ナデ、体部内・外面ヘラナデ	東部床面	10%

番号	部科	長さ	幅	厚さ	重量	材質	胎土	特徴	出土位置	備考
M166	鐵	(10.9)	1.5	0.4	(9.30)	鉄	黄褐色	断面方形、縁部から断面部欠損	西部床面	PL30
M167	鐵	(6.1)	0.5	0.1	(3.86)	鉄	黄褐色	断面方形、断面部	西部下層	

第1669号住居跡(第114図)

位置 調査区南部のU719区に位置し、台地南部の斜面に立地している。

重複関係 第1668号住居と第104号堀に掘り込まれている。

規模と形状 1辺が2.5mほどの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁高は38~56cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平床で、中央部が踏み固められており、壁際は北東の一部を除き、周回している。

竈 北壁中央部よりやや東側に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで111cmほどである。竈口は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面が焼熟で赤変硬化している。煙道部は壁外に23cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

土層解説 土層解説参照(第7~11層に相当する)。

ピット 1か所。P1の深さは18cmで、南壁の中央に位置している。竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 12層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

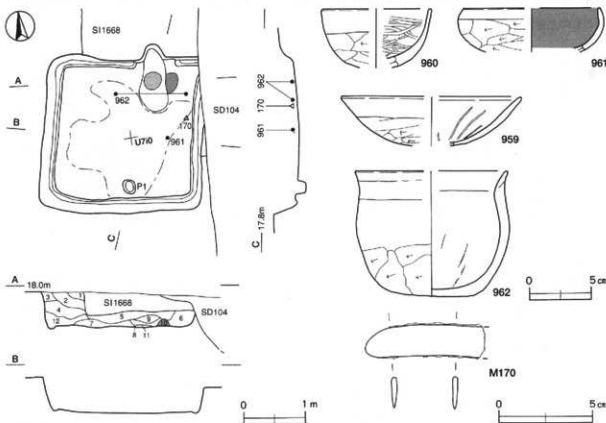
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、
焼土粒子・炭化粒子・
砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | 砂粒中量、炭化粒子少量、
焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | | |

- 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量,炭化物・砂粒少量,
ローム粒子微量
9 暗褐色 砂粒中量,ロームブロック・焼土ブロック少量

- 10 暗褐色 砂粒中量,粘土粒子少量
11 灰褐色 灰多量,焼土ブロック中量,炭化粒子微量
12 黒褐色 ローム粒子少量,焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片89点(坏29, 甕59, 瓶1), 鉄製品1点(鎌)が出土している。962は北東部と北西部の覆土下層から出土した破片が, 959は北東部と竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。961は東部の覆土下層, M170は東壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後半と考えられる。床面積が6.5㎡の小形住居で, 主柱穴が見られない。第1667号住居は本跡と同形態の住居で, 南東約20mに位置し, 主軸方向もほぼ同じであることから, 同集団を形成していた可能性が考えられる。



第114図 第1669号住居跡・出土遺物実測図

第1669号住居跡出土遺物観察表 (第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
959	土師器	坏	[144]	(4.0)	-	長石・石英・雲母 にふい粉	普通	普通	体部外面へう割り, 内面ナデ後へう割り	北東部・産覆土中	10%
960	土師器	坏	[86]	(4.7)	-	長石・石英 にふい粉	普通	普通	体部外面へう割り, 内面へう割り	覆土中	20%
961	土師器	坏	[108]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	明赤焼	普通	体部外面へう割り, 内面ナデ	東部下層	20%
962	土師器	小形甕	[121]	10.1	7.7	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ・輪積み肌, 体部外面へう割り, 内面ヘラナデ, 底部へう割り	北東・北西部 下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・粘土	特徴	出土位置	備考
M170	鎌	(6.4)	1.7	0.3	(8.20)	鉄	断面三角形, 刃身先端部が平湾曲	東壁際下層	PL81

第1672号住居跡 (第115図)

位置 調査区南部のU7h3区に位置し、台地から低地へ下りる斜面に立地している。

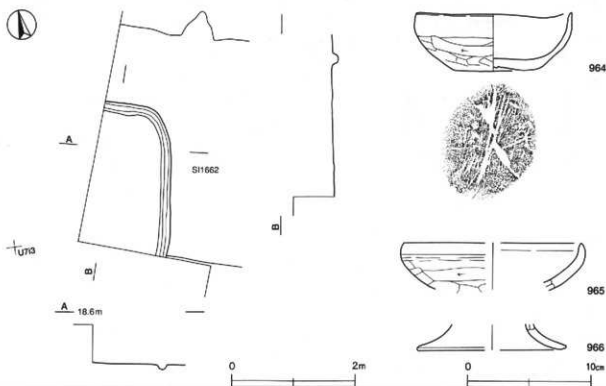
重複関係 第1662号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第1662号住居に掘り込まれており、南西側が調査区域外に延びているため、壁溝だけが確認された。東側の壁溝は2.3m、北側の壁溝は1.1mだけが確認され、主軸方向はN-15°~20°-Eと推測される。

覆土 検出されていない。

遺物出土状況 第1662号住居の覆土に、古墳時代の土師器片16点(坏9, 高坏1, 甕6)が混入して出土している。964・965は第1662号住居北部の覆土下層から出土している。

所見 第1662号住居に掘り込まれており、覆土から古墳時代の土器片が出土している。出土土器は本跡に属するものと推測され、時期は後期と考えられる。



第115図 第1672号住居跡・出土遺物実測図

第1672号住居跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
964	土師器	坏	124	46	60	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	外部外面へう割り、内面ナデ	SI-1662覆土	90% 底径&高径比
965	土師器	坏	(142)	(38)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外面へう割り、内面ナデ	SI-1662覆土	10%
966	土師器	高坏	(20)	[120]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	瓶部内・外面横ナデ	SI-1662覆土	

第1673号住居跡 (第116・117図)

位置 調査区南部のU8b5区に位置し、台地裾部の斜面に立地している。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため、北西壁4.6m、南西壁は3.0mだけが確認された。確認された壁と竈の位置から、主軸方向はN-31°-Wである。壁高は39cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈部から中央にかけて踏み固められており、壁溝は確認された範囲で通っている。

竈 北西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで112cm、袖部幅112cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面が被熱で赤変硬化している。また、煙道部は壁外に20cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、灰少量、炭化物微量 |
| 2 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | | |

ピット 1か所。P1の深さは51cmである。位置と硬化面の状況から主柱穴と推定される。

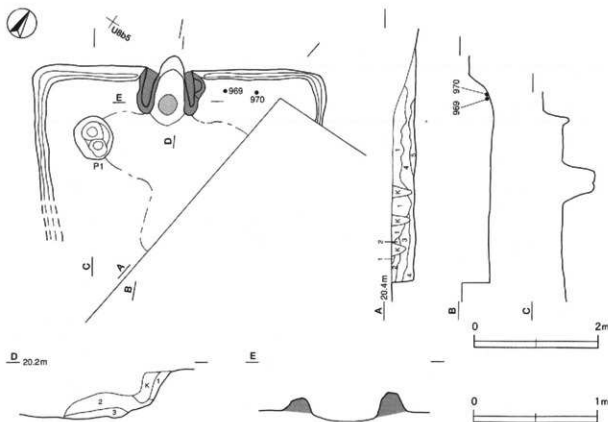
覆土 5層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックを多く含む堆積層であることから人為堆積である。

土層解説

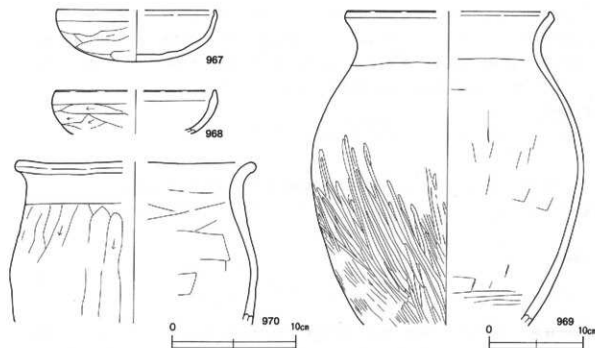
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量 | | |

遺物出土状況 土師器片67点(坏19, 甕48)、須恵器片3点(甕)が出土している。土器片は北西壁際にままとまっている。969・970は北東壁際の床面から、つぶれた状態で出土している。967・968は北部の覆土中から出土している。また、968は南部の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 甕は壁際の床面から、坏は968に見られるように南北に飛散しており、住居廃絶時に投棄したことがうかがえる。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第116図 第1673号住居跡実測図



第117図 第1673号住居跡出土遺物実測図

第1673号住居跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
967	土師器	坏	[12.8]	4.1	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	口縁部横ナデ、内面ナデ	北部敷土中	30%
968	土師器	坏	[12.7]	(3.5)	-	長石・雲母	にぶい焼	普通	体部外面ヘラナデ振り、内面ナデ	覆土中	10%
969	土師器	甕	[22.0]	(25.5)	-	長石・石灰・雲母	焼	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ置き	北東壁際床面	20%
970	土師器	甕	[18.6]	(12.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	体部外面ヘラナデ振り、内面ヘラナデ	北東壁際床面	

表2 古墳時代の住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	幅横 長横×短横 (m)	壁高 (cm)	底面	内部施設					土質	主な出土遺物	備考 (時期)
							土柱	礎石	竪石	土間	人口蓋			
1500	P 7 e7	N-21°-W	[長・方形]	6.1 × (3.6)	4	平坦	全周	2	-	-	1	人瓦	土師器(土師器(不明))	6世紀後半
1501	P 7 i6	N-74°-E	方形	3.6 × 3.5	9~16	平坦	一部	1	-	14	-	瓦	土師器	6世紀後半
1502	Q 7 a2	N-12°-E	[長・方形]	4.3 × (3.1)	8~10	平坦	全周	2	-	-	1	瓦	土師器(土師器(不明))	7世紀前半
1503	P 7 j7	N-16°-W	方形	4.4 × 4.3	20~43	平坦	全周	4	-	-	1	瓦	土師器(土師器(不明))、土師器(不明)	6世紀後半
1504	P 7 i3	N-10°-E	方形	4.5 × 4.4	12~30	平坦	全周	4	-	-	1	瓦	土師器(土師器(不明))、土師器(不明)	7世紀中央
1505	P 7 g7	N-34°-W	方形	3.5 × 3.4	5~16	平坦	全周	4	-	2	1	瓦	土師器(土師器(不明))、土師器(不明)	7世紀後半
1509	Q 8 a2	N-30°-W	方形	3.4 × 3.3	10~28	平坦	全周	4	1	2	1	瓦	土師器(土師器(不明))、土師器(不明)	7世紀後半
1511	S 8 b8	N-80°-E	方形	3.0 × 4.7	8~25	平坦	-	3	-	-	-	瓦	土師器(土師器(不明))、土師器(不明)	7世紀後半
1516	S 8 a9	N-41°-W	[長・方形]	(3.8)	10	平坦	一部	-	-	1	-	瓦	土師器(土師器(不明))	7世紀前半
1517	R 8 i8	N-23°-W	[長・方形]	4.5 × (1.5)	-	平坦	全周	3	-	-	-	瓦	土師器(土師器(不明))	6世紀後半
1519	R 8 h7	N-23°-W	[長・方形]	3.3 × (2.5)	6~12	平坦	一部	4	-	-	1	瓦	土師器(土師器(不明))	6世紀後半
1520	R 8 g8	N-18°-W	[長・方形]	(3.4) × (1.4)	16	平坦	一部	1	-	-	1	瓦	土師器(土師器(不明))	7世紀後半
1523	S 8 e4	N-44°-W	方形	7.5 × 7.3	30~90	平坦	全周	4	1	-	2	瓦	土師器(土師器(不明))、土師器(不明)	7世紀後半
1526	S 7 g8	N-33°-W	長方形	6.4 × 5.7	10	平坦	全周	4	-	-	1	瓦	土師器(土師器(不明))、土師器(不明)	7世紀中央
1528	R 8 g9	N-36°-W	[長・方形]	(2.8) × (1.9)	-	平坦	一部	3	-	-	-	瓦	土師器	7世紀前半
1535	R 8 i5	N-42°-W	方形	6.2 × 5.8	8	平坦	全周	4	-	-	1	瓦	土師器(土師器(不明))	7世紀前半

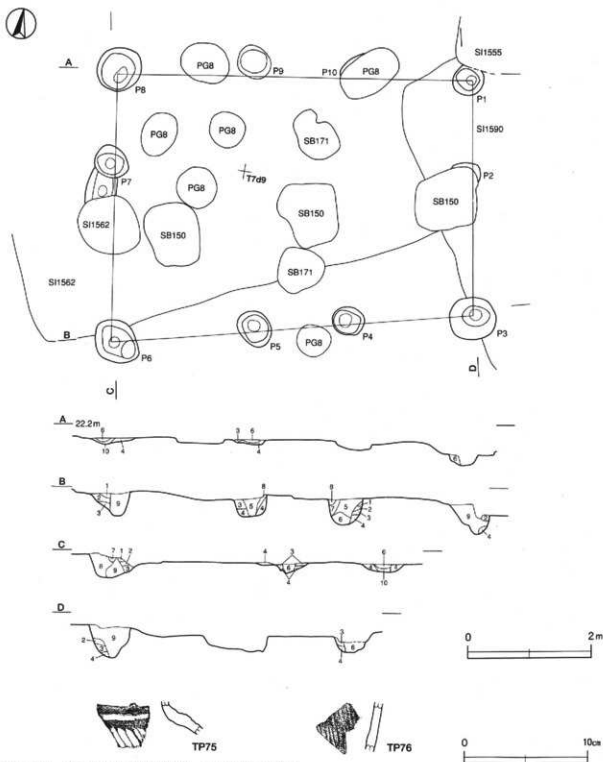
番号	位置	上地方向	平面形	規模 長×幅 (m)	高さ (cm)	後面	内 容 物 名				備 考	主な出土遺物	備考 (時期)	
							用途	用途	用途	用途				
1338	S 6c2	N47°E	[方形]	4.5 × (3.1)	4~11	平掘	一部	4	-	1	竈	自然	1枚	6世紀後半
1340	S 7c0	N7°W	方形	5.1 × 4.9	24	平掘	全掘	4	-	1	竈	自然	1000年代後半の土器	7世紀後半
1341	S 8a1	N51°W	[長方形]	5.7 × 16	平掘	一部	3	-	1	竈	人為	135号	7世紀中葉	
1346	S 7b0	N35°W	方形	5.7 × 5.6	31	平掘	全掘	4	-	1	竈	自然	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀前半
1347	S 7b9	N24°W	[長方形]	5.7 × (4.2)	30	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀前半
1352	S 7j0	N17°W	長方形	5.2 × 3.3	18~32	平掘	全掘	2	-	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀前半
1356	S 7h5	N17°W	方形	5.6 × (5.4)	6~11	平掘	全掘	4	-	2	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	6世紀後半
1358	S 7f4	N28°W	方形	5.8 × 3.6	12~28	平掘	全掘	4	-	2	竈	自然	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀後半
1362	T 7c8	N22°W	方形	7.5 × 7.4	4~30	平掘	全掘	4	-	2	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	6世紀後半
1364	R 8j02	N14°W	方形	5.5 × (5.3)	4~18	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀前半
1367	T 8b1	N9°W	[長方形]	3.6 × (2.9)	11~22	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	6世紀後半
1372	S 7e0	N42°W	方形	6.9	4~29	平掘	全掘	4	-	2	竈	人為	1000年代後半	6世紀後半
1373	R 7f4	N6°W	方形	5.4 × 5.3	20~28	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀前半
1374	S 7d5	N16°W	方形	5.9 × 5.8	16~46	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	6世紀後半
1375	S 8e1	N54°W	方形	4.8	5~20	平掘	全掘	4	-	2	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀前半
1377	R 8h1	N4°E	方形	3.4 × (3.3)	5~20	平掘	全掘	4	-	2	竈	人為	1000年代後半	7世紀前半
1379	R 7b8	N31°W	[長方形]	(5.7) × (4.5)	6	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀中葉
1380	S 7b8	N26°W	方形	5.6 × 5.4	36	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀中葉
1381	S 7f6	N34°W	方形	6.0 × 3.9	14~36	平掘	全掘	4	1	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀後半
1383	R 7f0	N23°W	[長方形]	(3.4) × (4.1)	2~30	平掘	一部	4	-	1	竈	自然	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀後半
1385	T 8b2	N10°W	[方形]	(7.7) × (7.7)	6	平掘	一部	4	-	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀前半
1390	T 7e0	N31°W	方形	(7.9) × (7.6)	15	平掘	一部	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀中葉
1394	T 7e4	N24°W	方形	5.4 × 5.3	24	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	6世紀後半
1396	S 6e0	N1°W	方形	6.1	10~51	平掘	全掘	4	-	2	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀後半
1398	R 7j1	N4°E	方形	4.4 × 4.3	40~48	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀中葉
1401	R 8g2	N11°W	方形	5.8 × (4.7)	27	平掘	全掘	4	-	1	竈	自然	1000年代後半	7世紀後半
1402	R 7d3	N4°E	方形	5.1 × 5.0	50~61	平掘	全掘	4	-	2	竈	自然	1000年代後半	7世紀中葉
1405	T 7b2	N28°W	方形	[4.7]	-	平掘	一部	4	-	1	竈	人為	1000年代後半	6世紀後半
1409	T 7a3	N38°W	方形	5.8 × 5.5	2~10	平掘	全掘	4	-	2	竈	自然	1000年代後半	7世紀中葉
1410	S 7e1	N26°W	方形	7.0 × 6.9	6~29	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀中葉
1411	S 7d2	N32°E	長方形	5.6 × 3.0	11~24	平掘	全掘	2	-	1	竈	人為	1000年代後半	6世紀後半
1412	R 7b1	N4°W	方形	5.2 × 5.0	45~50	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	6世紀後半
1413	S 6d7	N3°W	[長方形]	5.1 × (3.9)	11	平掘	全掘	4	-	2	竈	自然	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀中葉
1414	S 6e9	N1°W	方形	6.2 × 6.0	4~20	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀後半
1418	S 7j4	N16°W	[長方形]	(3.8) × (3.0)	11~30	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	6世紀後半
1419	Q 7e2	N1°W	[長方形]	5.8 × (4.1)	8~16	平掘	全掘	4	1	1	竈	人為	1000年代後半	6世紀後半
1420	Q 7e4	N26°W	[長方形]	5.9 × (3.3)	13~20	平掘	全掘	1	1	1	竈	人為	1000年代後半	6世紀後半
1425	S 6h2	N4°W	方形	4.9 × 4.5	21~30	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀後半
1430	T 7h0	N7°W	[長方形]	(3.0) × (2.6)	11	平掘	全掘	1	-	1	竈	人為	1000年代後半	6世紀後半
1435	U 8a3	N0°	方形	4.3 × 4.1	14	平掘	全掘	4	1	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀前半
1445	V 5f6	N2°W	方形	6.8 × 6.6	30	平掘	全掘	4	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀中葉
1450	V 7a9	N33°E	[長方形]	(4.5) × (1.7)	61	平掘	一部	2	-	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀後半
1454	T 8c2	N31°W	長方形	4.6 × 3.6	33	平掘	全掘	2	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	6世紀後半
1467	U 7f4	N20°E	不整形長方形	3.4 × 2.8	16~29	平掘	全掘	-	-	1	竈	人為	1000年代後半の土器(赤土)	7世紀後半
1469	U 7f9	N21°E	方形	3.5	18~36	平掘	全掘	-	-	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀後半
1472	U 7h3	N43°20'E	長方形	(2.3) × (1.1)	-	平掘	全掘	-	-	-	竈	人為	1000年代後半	6世紀後半
1473	U 8b5	N31°W	[長方形]	4.6 × (3.9)	39	平掘	全掘	1	-	1	竈	人為	1000年代後半	7世紀後半

(2) 掘立柱建物跡

第152号掘立柱建物跡 (第118図)

位置 調査区中央部のT7d9区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1562・1590号住居跡と第165号掘立柱建物跡を掘り込み、第1555号住居と第150・171号掘立柱建物、第8号ピット群に掘り込まれている。



第118図 第152号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行3間、梁間2間の開柱式建物跡で、桁行方向をN-80°-Eとする東西棟である。規模は桁行5.70m、梁間3.80~4.25mで、西側部分が広くっており、平面形は台形に近い長方形を呈している。柱間寸法は1.50~2.10mとばらつきが見られ、柱筋は通っているものの、規格性に欠けた構造である。

柱穴 平面形はいずれも円形を呈し、深さは10~40cmほどである。柱抜き取り痕は土層断面図中の第5・6・9・10層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、強く突き固められた痕跡は見られない。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐色	ロームブロック多量	7 黒褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片6点(坏2, 堿4), 須恵器片3点(坏1, 堿2)が出土している。TP75はP2の埋土、TP76はP5の埋土から出土している。

所見 時期は、出土器や重複関係から7世紀と考えられる。

第152号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第118図)

表号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP75	須恵器	堿	-	-	-	雲母・灰石・石英	灰	普通	底部クロナテ	P2埋土	
TP76	須恵器	堿	-	-	-	灰石・石英	褐色	普通	外面縦位の平行彫き、内面ナデ	P5埋土	

第155号掘立柱建物跡(第119・120図)

位置 調査区中央部のT7c0Kに位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1390号住居跡と第165号掘立柱建物跡を掘り込み、第1555号住居と第157・158・171号掘立柱建物、第1541・1582号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行・梁間ともに2間が確認され、周囲の掘立柱建物跡の縁相から桁行3間、梁間2間の開柱式建物跡の可能性が高い。桁行方向をN-17°-Wとする南北棟で、規模は桁行7.30m、梁間4.60mほどである。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.42m(8尺)を基調としている。

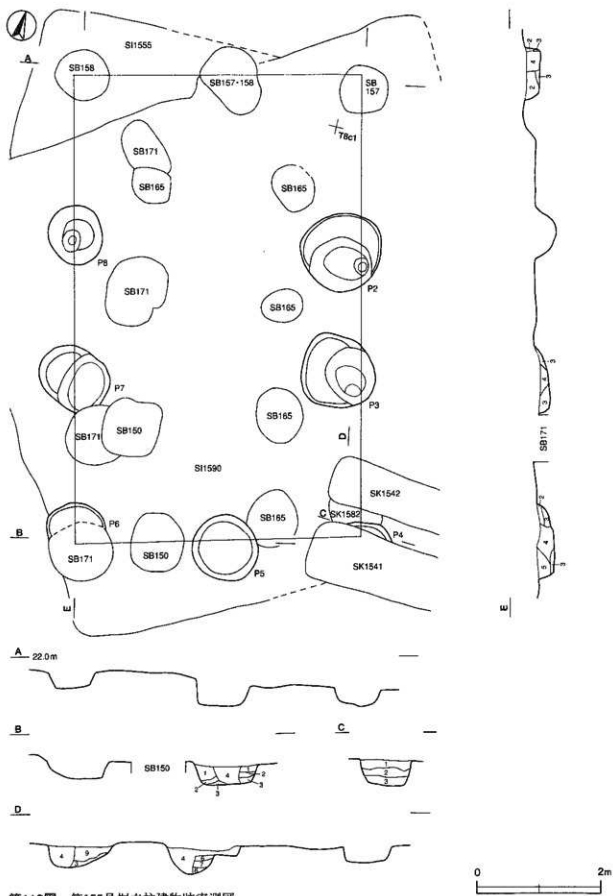
柱穴 平面形はいずれも円形を呈し、深さは25~40cmほどである。柱抜き取り痕は土層断面図中の第4・5・6・9層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められてはいない。

土層解説

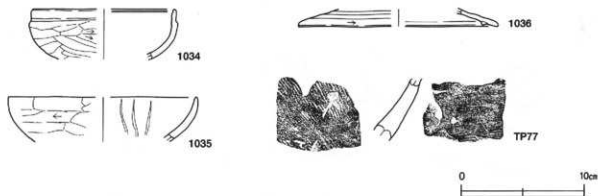
1 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
5 褐色	ロームブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片98点(坏24, 堿74), 須恵器片7点(坏2, 堿4, 版1)が出土している。1034はP5の埋土から、1035はP3の柱抜き取り痕から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第119图 第155号掘立柱建物跡実測图



第120図 第155号堀立柱建物跡出土遺物実測図

第155号堀立柱建物跡出土遺物観察表 (第120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1034	土師器	坏	[11.4]	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部内面ナデ、口縁端部沈線一条	P5層上	
1035	土師器	坏	[16.0]	(3.6)	-	長石・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部内面放射状の暗文	P3抜き取り痕	
1036	須恵器	蓋	-	(1.4)	-	長石	灰	普通	かえり接合後、ロクロナデ	P2抜き取り痕	
TP77	須恵器	大甕	-	-	-	雲母・長石・石英	灰	普通	外面平行印き、内面ロクロナデ	P2抜き取り痕	

第160号堀立柱建物跡 (第121・122図)

位置 調査区中央部のS 8 il区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1552号住居と第1463・1530・1563号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁間2間の側柱式建物跡で、桁行方向をN-15°-Wとする南北棟である。規模は桁行8.20m、梁間4.15mほどで、桁行の柱間寸法は北側に位置するP1・P2間とP8・P9間が2.12m(7尺)、その他は3.03m(10尺)で、梁間は2.12m(7尺)を基調としている。

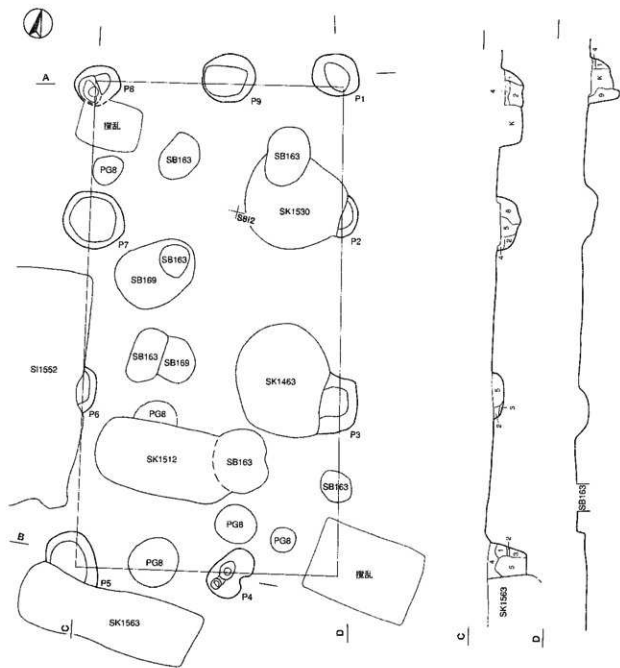
柱穴 平面形はP3・P6が隅丸方形または長方形、P5が不整楕円形で、その他は円形を呈しており、深さは15~50cmとばらつきがある。柱抜き取り痕は土層断面図中の第4~11層が相当し、しまりが弱い。第1~3層はローム土を主体とした埋土で、互層をなしているが、強く突き固められてはいない。

土層解説 (各柱穴共通)

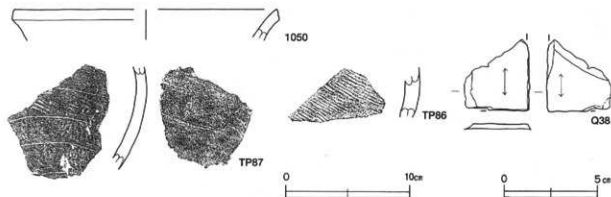
1	黒褐色	ロームブロック多量	7	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量	8	黒褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	10	黒褐色	ロームブロック微量
5	暗暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	11	黒色	ローム粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子微量			

遺物出土状況 土師器片25点(坏3, 甕・瓶22)、須恵器片6点(甕・瓶)、砥石1点が出土している。1050はP4の柱抜き取り痕から出土している。

所見 出土土器から時期を判断することは困難であるが、南へ8mの位置には第177号堀立柱建物が桁行方向を描いて位置していることから、両建物は同時期に機能していた可能性が高く、7世紀後葉に機能していたと考えられる。



第121图 第160号孤立柱建物跡実測図



第122図 第160号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第160号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1050	須恵器	甕	[21.0]	(2.4)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部クロコナテ	P4付抜き取り裏	
TP86	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英	灰	普通	外面平行印き、内面ナデ	P4埋土	
TP87	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英	灰	普通	外面平行印き後、木目による条痕文	P6埋土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	甕*	(3.9)	(3.5)	0.2	(4.8)	粘板岩	丁寧に磨かれた平坦面2面、襷瓦による嵌入*	P5埋土	

第165号掘立柱建物跡 (第123図)

位置 調査区中央部のT7d0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1590号住居跡を掘り込み、第150・152・155・171号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁間2間の側柱式建物跡で、桁行方向をN-10°-Wとする南北棟である。規模は桁行5.50m、梁間4.30mほどで、柱間寸法は桁行方向が1.81m(6尺)、梁間方向が2.12m(7尺)を基調としている。

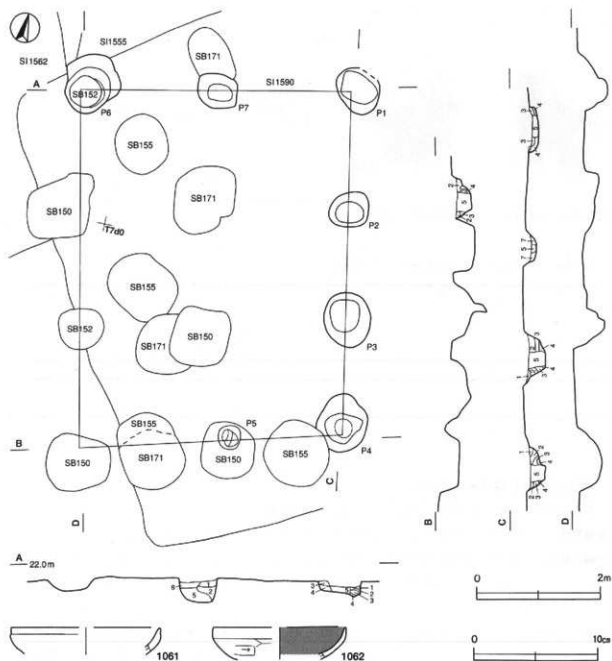
柱穴 平面形は円形ないし楕円形を呈し、深さは20~45cmほどである。柱抜き取り痕は土層断面図中の第5・6層が相当し、しまりが弱い。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土や暗褐色土で突き固められて、互層をなしている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | | | |
|---|--------|---------------------|---|-----|----------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 | 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 6 | 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 | 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 土師器片12点(坏2、甕・甔10)が出土している。1061はP10の埋土から、1062はP4の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から7世紀中葉ないし後葉と考えられる。



第123図 第165号堀立柱建物跡・出土遺物実測図

第165号堀立柱建物跡出土遺物観察表 (第123図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1061	土師器	坏	[11.8]	(21)	-	長石・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	口縁部傾ナデ、体部外面磨減	P10埋土	
1062	土師器	坏	[10.6]	(26)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部傾ナデ、体部外面磨減	P4埋土	

第169号堀立柱建物跡 (第124図)

位置 調査区中央部のS 8 12区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第163号堀立柱建物と第1530・1531・1532号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行・梁間ともに2間が確認され、周囲の掘立柱建物跡の様相から桁行3間、梁間2間の側柱式建物跡の可能性が高い。N-10°-Wを桁行方向とする南北棟で、規模は桁行5.40m、梁間3.60mほどである。柱間寸法は、桁行、梁間ともに1.81m(6尺)を基調としている。

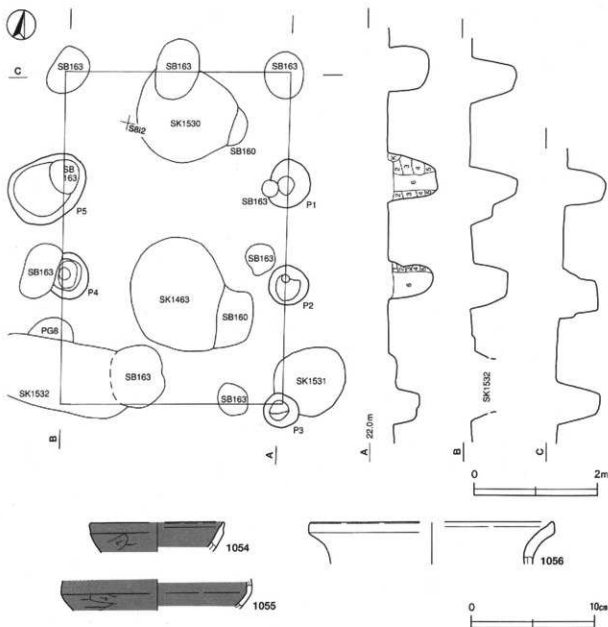
柱穴 平面形は円形ないし楕円形を呈し、深さは60-80cmである。柱抜き取り痕は土層断面図中の第6層が相当し、しまりが弱い。その他の層は埋土で、ローム土を主体とした褐色土や暗褐色土で突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |

遺物出土状況 土師器片36点(坏4、甕・甔32)が出土している。1054はP8の埋土、1056はP8の柱抜き取り痕から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第124図 第169号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

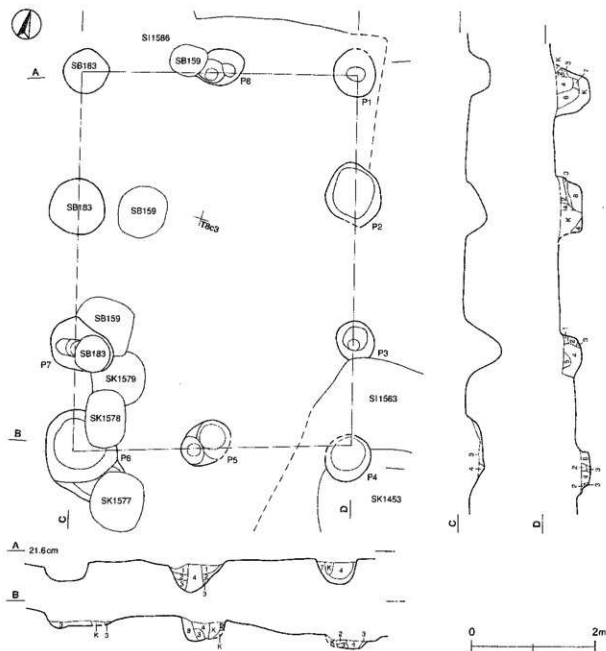
第169号掘立柱建物跡出土物観察表（第124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色高	産地	手足の符号	出土位置	備考
1051	土師器	杯	110.6	(2.4)	-	灰石・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部・体部内面縁ナデ	P8出土	
1055	土師器	杯	-	(2.4)	-	灰石・赤色粘土	明赤期	普通	口縁部・体部内面縁ナデ	P9出土	
1056	土師器	壺	119.4	(3.4)	-	灰石・石灰	にぶい黄橙	普通	口縁部縁ナデ	P8抜き取り物	

第177号掘立柱建物跡（第125・126図）

位置 調査区中央部のT8c3区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1586号住居跡を掘り込み、第1563号住居と第159・183号掘立柱建物、第1453・1577・1578号土坑に掘り込まれている。



第125図 第177号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間、梁間2間の欄柱式建物跡で、N-15°-Wを桁行方向とする南北棟である。規模は桁行が6.00m、梁間が4.35mほどで、柱間寸法は桁行が1.96m（6.5尺）、梁間が2.12m（7尺）を基調としている。
柱穴 平面形はいずれも円形を呈し、深さは35～40cmほどである。柱抜き取り痕は土層断面図中の第4～7層が相当し、しまりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土で、突き固められた痕跡はほとんど認められず、締まりが柱抜き取り痕と比べてわずかに強い程度である。

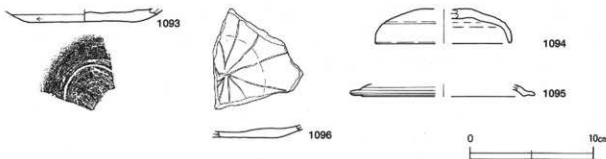
土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 黒暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片27点（坏2、皿1、壺・瓶24）、須恵器片4点（坏1、蓋2、甕1）が出土している。

1093・1096はP4の柱抜き取り痕から、1094はP5の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から7世紀末葉と考えられる。



第126図 第177号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第177号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1093	須恵器	坏	-	(1.0) [9.1]	-	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	P4抜き取り痕	
1094	須恵器	蓋	[10.8]	2.7	-	長石・黑色粒子	黄灰	良好	刃部回転ヘラ削り後、ナゲ	P5埋土	20%
1095	須恵器	蓋	[14.9]	(1.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部ロタロナゲ	P10抜き取り痕	
1096	土師器	蓋	-	(1.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	底部外面ヘラ削り、内面放射状の摺文	P4抜き取り痕	15%

表3 古墳時代の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	桁×梁 (間)	規模 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁間柱間 (m)	柱穴 (cm)			出土遺物	備考 (時期)	
								構造	柱穴	平面形			深さ
152	T 7 d9	N-80°E	3×2	5.70×3.80- 4.25	22.94	1.50-2.10	1.50-2.10	欄柱	10	円形	10-40	土師器片、須恵器片	7世紀
155	T 7 e0	N-17°W	3×2	7.30×4.60	33.58	2.42	2.42	欄柱	7	円形	25-40	土師器片、須恵器片	7世紀後半
160	S 8 i1	N-45°W	3×2	8.20×4.15	34.03	2.12, 3.03	2.12	欄柱	9	隅丸方形・隅丸 正方形・円形	15-50	土師器片、須恵器片	7世紀後半
165	T 7 d0	N-16°W	3×2	5.50×4.30	23.65	1.81	2.12	欄柱	7	円形・楕円形	20-45	土師器片	7世紀中～後半
169	S 8 i2	N-10°W	3×2	5.40×3.60	19.44	1.81	1.81	欄柱	5	円形・楕円形	60-80	土師器片	7世紀中葉
177	T 8 c3	N-15°W	3×2	6.00×4.35	26.10	1.96	2.12	欄柱	8	円形	35-40	土師器片、須恵器片	7世紀末葉

(3) 不明遺構

第13号不明遺構 (第127・128図)

位置 調査区南部のV7b6区に位置し、台地裾部の斜面に立地している。

重複関係 第1653号住居と第103号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側が第103号溝に掘り込まれているため、東西軸は7.6m、南北軸は5.5mだけ確認された。確認された壁から、南北軸の方向はN-2°-Eとする方形または長方形と考えられる。壁高は4~20cmで、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。

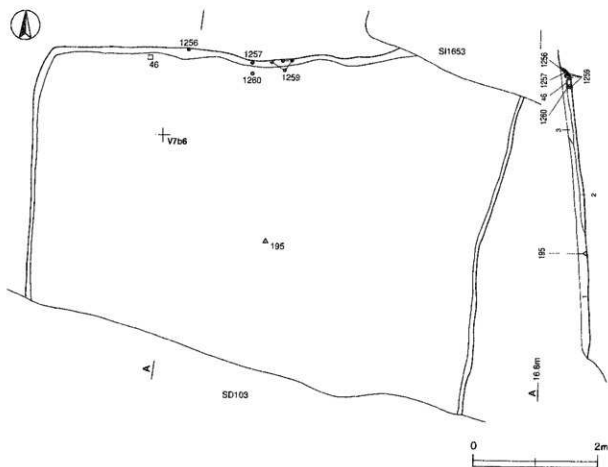
覆土 3層からなる。第1・3層はレンズ状を呈しており、第2層には遺物が含まれていることから、自然堆積したくぼ地に遺物が投棄されたものと考えられる。

土層解説

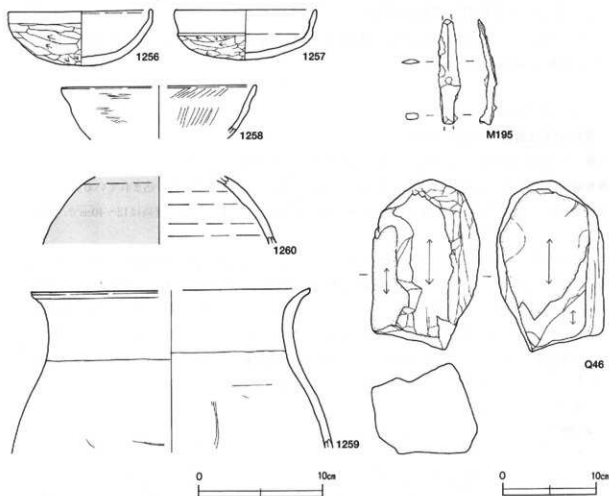
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒少量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒少量

遺物出土状況 土師器片560点(坏98、甕462)、須恵器12点(坏4、長頸瓶1、寛7)、鉄製品1点(鐵)、石器1点(砥石)が出土している。遺物は北部に多く分布しており、ほとんどが細片である。北壁際の覆土下層からは1256・1257・1259・1260・Q46が出土している。M195は中央部の床面から出土している。

所見 性格は不明である。遺物は北部に多く分布していることから、一括投棄されたものと考えられる。投棄された時期は出土土器から7世紀中葉から後葉と考えられる。



第127図 第13号不明遺構実測図



第128図 第13号不明遺構出土遺物実測図

第13号不明遺構出土遺物観察表 (第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1256	土師器	坏	11.4	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい蜀	普通	体部外面へラ削り・輪轆み痕、内面ナデ	北壁際下層	100%, PL54
1257	土師器	坏	11.2	4.0	-	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り、内面ナデ	北壁際下層	100%, PL54
1258	土師器	坏	[15.4]	(4.2)	-	雲母・白色粒子	橙	普通	体部外面へラ書き、内面放射状の暗文へラ書き	覆土中	畿内系
1259	土師器	甕	[22.2]	(12.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、体部内・外面へラナデ	北壁際下層	
1260	須恵器	長瀬瓶	-	(5.3)	-	緻密・黒色粒子	灰黄	良好	口ロナナデ整形	北壁際下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q46	砥石	18.1	11.5	9.6	2.680	砂岩	砥面4面、自然の形状を利用	北壁際下層	PL77
M195	物杵	(5.4)	(1.2)	1.0	4.9	鉄	刀身断面三角形、基部断面方形	中央部味面	PL80

2 奈良・平安時代の遺構と遺物

今回の調査で、堅穴住居跡112軒と掘立建物跡47棟、焼成遺構11基、柱穴跡5基、土坑12基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第1506号住居跡（第129～131図）

位置 調査区北部のQ 8a1区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地上に立地している。

重複関係 東半部分で第1509号住居跡を掘り込み、竈の上部を第1423号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.75m、短軸5.60mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は12～40cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、境際を除いてよく踏み固められている。また、壁際、北壁の東側部分を除いて巡っている。

竈 北壁のやや西寄りに付設されており、規模は焚口部から煙道部まで121cm、袖部幅219cmである。天井部は遺存せず、袖部は掘り残した地山を芯としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は20cmほど掘り込まれた部分に焼土やローム土、砂質粘土が充填されて浅い皿状を呈し、火床面が若干赤変しているものの焼け締まっていない。袖部の規模に対して火床面の被熱痕が少ないことから、頻繁に灰の掻き出し行為が行われたか、使用期間の短かったことが想定される。また、煙道の立ち上がりの様子は、土坑との重複のため不明である。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・砂粒微量	7	暗褐色	粘土粒・砂粒多量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化物・炭灰量	8	暗褐色	粘土粒・砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
3	暗赤褐色	焼土粒子多量、灰少量、ローム粒子・炭化物・砂粒微量	9	ふい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒・砂粒微量
4	ふい赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・粘土粒・砂粒・炭灰量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
5	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒・砂粒微量	11	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・粘土粒・砂粒微量
6	暗褐色	粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック微量	12	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量

ピット 8か所。主柱穴はP 1～P 4、P 6～P 8が相当し、深さは52～86cmである。土層断面から判断すると、P 6からP 1へ、P 2からP 7への作り替えが想定され、また、P 3・P 4からも深い掘り込みが2か所ずつ確認されるなど、建て替えが行われた様子がうかがえる。P 5は深さ43cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

ピット土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	6	褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	7	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量	8	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・砂粒微量
4	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・砂粒微量	9	暗褐色	ローム粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物粒子微量

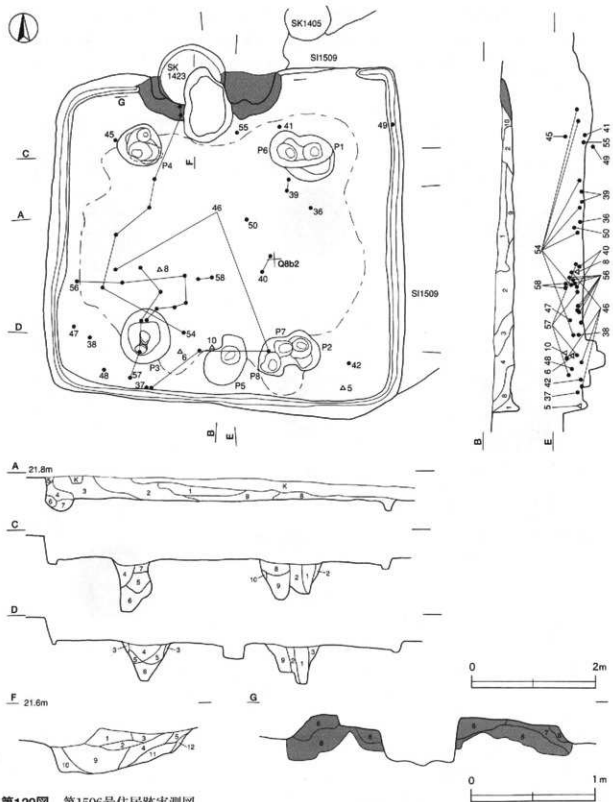
覆土 10層からなり、各層ともロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	6	黒褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	7	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量	9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
5	褐色	ロームブロック多量	10	暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片1113点、須恵器片693点（坏類421、壺14、甃18、甕・瓶類240）、灰釉陶器片2点（長

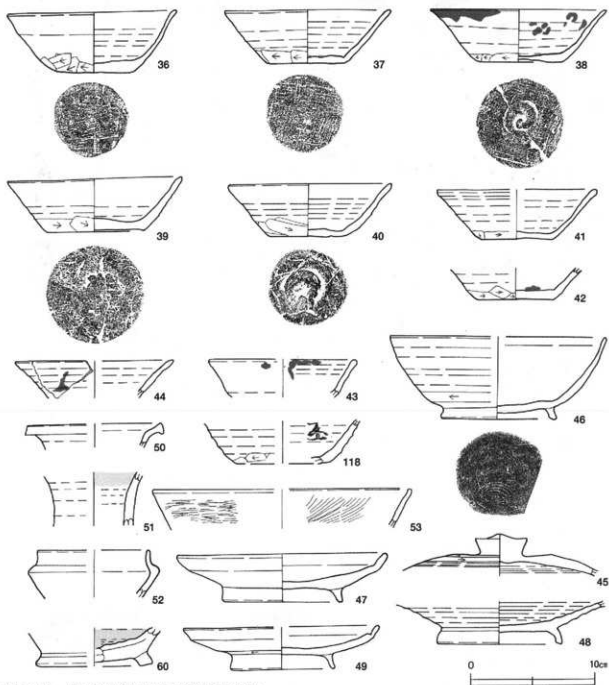
頭版)、鉄鎌1点、鉄鎌1点、不明鉄製品4点(釘カ1、不明3)、砥石1点、小礫1点(火打石カ)が出土している。遺物は覆土下層を中心にほぼ全域から出土しており、破断面の磨耗が少ないことや残存率のよいものが目立つことから見て、本住居廃絶時、あるいは廃絶からそれほど時間を経ないで投棄された可能性が高い。床面直上から出土したものとしては、38・39・41・42・55があり、特に55は竈手前の床面から土圧でつぶれた



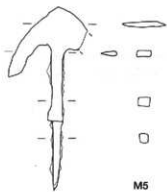
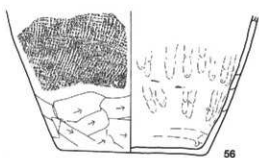
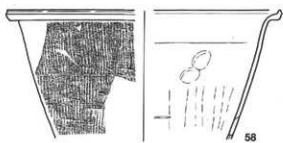
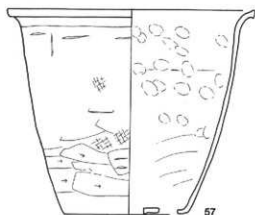
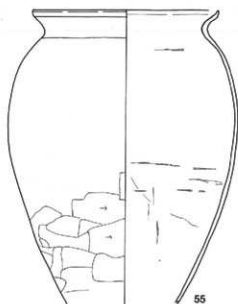
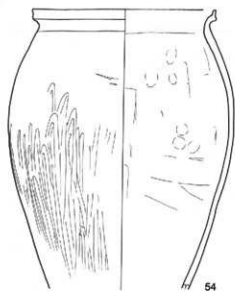
第129図 第1506号住居跡実測図

状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、畿内産と考えられる53、猿投産と考えられる46・60は覆土下層から上層にかけて出土したものであり、他地域との交流を知る好資料といえる。南西部の覆土下層から出土した小礫は石英質で、重量は3.7gである。石英は火打石として使用される石材であり、使用痕こそ認められないが、同様の使用が想定される。

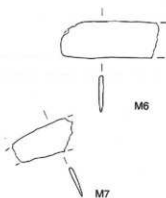
所見 本跡の覆土下層からは、多量の須恵器供膳具が出土している。これらは一括廃棄された可能性が高く、本住居、あるいは本住居付近にこれらの食器を管理する施設が存在していたことが推測される。また、住居規模と比べて大きすぎる竈の存在、及び灰軸陶器も保持していたと仮定するならば、本住居が邸家的な機能を有していた可能性もある。廃絶時期は、供膳具に土師器が見られないことや出土土器から、9世紀中葉と考えられる。



第130図 第1506号住居跡出土遺物実測図(1)



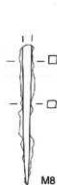
M5



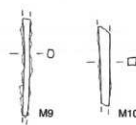
M6



M7



M8



M9

M10



第131图 第1506号住居跡出土遺物実測図(2)

第1506号住居跡出土遺物観察表 (第130・131頁)

番号	種類	器種	寸法	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
33	土師器	杯	20.4	3.1	-	石炭	褐色陶	普通	体部外面ヘラ磨き、内面放射状の筋文	南東部下層	溝内所
36	須恵器	杯	13.4	5.0	3.2	雲母・石英	黄灰	普通	体部外面の凹凸ロクロ目、底面 方向のヘラ削り	中央部下層	95%、PL53
37	須恵器	杯	13.1	4.5	5.0	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底面2方向のヘラ削り	南東部下層	80%、PL55
38	須恵器	杯	13.0	4.2	6.9	雲母・長石・石英	にぶい黄灰	普通	体部外面の凹凸ロクロ目、底面回転ヘラ削り後、井行状のヘラ削り	南西部床面	器身・体部内径 器身径70%、PL55
39	須恵器	杯	13.8	4.3	7.8	長石・石英	灰	普通	底面回転ヘラ削り後、一方のヘラ削り	中央部床面	75%、PL55
40	須恵器	杯	12.9	4.4	6.0	雲母・長石	灰	普通	底面回転ヘラ削り後、方向のヘラ削り	中央部下層	70%、PL55
41	須恵器	杯	12.6	3.9	6.0	雲母・長石	灰黄	普通	底面回転ヘラ削り後、ヘラナデ	北東部床面	40%
42	須恵器	杯	-	2.0	6.1	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底面 方向のヘラ削り	南東部床面	底面内径が器 身径の約60%
43	須恵器	杯	11.6	3.0	-	雲母・長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	P2遺上中	1層加強付付、 40%
44	須恵器	杯	12.6	3.0	-	雲母・長石・石英	灰黄陶	普通	体部ロクロナデ	南西部上層	体部外面油塗 付付
118	須恵器	杯	-	3.4	7.5	雲母・長石・石英、 赤色釉	にぶい陶	普通	体部下端手持ちヘラ削り	遺上1層	体部内径が器 身径の約20% 5%、20%、PL70
45	須恵器	盃	-	3.3	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北西部上層	特定火傷痕、60%
46	須恵器	盃	17.2	6.5	9.1	長石・石英	灰黄・ にぶい赤陶	良好	底面回転後、回転ヘラ削り	市原上層一 下層	均等30号形式、 40%、PL26
47	須恵器	盃	16.6	3.8	9.2	雲母・長石・石英	灰黄陶	普通	底面回転ヘラ削り後、高台取り付	南西部上層	65%、PL55
48	須恵器	盃	-	3.4	9.9	雲母・長石・石英	にぶい陶	普通	底面回転ヘラ削り後、高台取り付	南西部上層	50%
49	須恵器	盃	15.7	3.5	8.4	雲母・長石・石英	黄灰	普通	回転ヘラ削り後、高台取り付	北東部中層	転用痕、55%
50	灰輪陶器	長頸瓶	10.6	1.9	-	長石	にぶい陶・ 黒陶	良好	ロクロナデ	中央部中層	片付28号形式
51	灰輪陶器	長頸瓶	-	4.3	-	長石・黒色砂子	灰黄・黒陶	良好	ロクロナデ	北西部下層	袋状痕
60	灰輪陶器	長頸瓶	-	3.1	9.4	長石	灰・ 黒オリーブ	良好	高台取り付後、ロクロナデ	北東部上層一 床面	灰黄・底面内面 黄灰に自然付
52	須恵器	短頸壺	8.8	3.8	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	北西部上層	
34	土師器	壺	19.3	10.0	-	雲母・長石・石英	にぶい黄陶	普通	体部外面上ナデ、下ナデヘラ磨き、内面 ヘラナデ・指痕	西部一 下層	45%
35	土師器	壺	20.0	11.5	-	雲母・長石・石英	にぶい赤陶	普通	体部外面上ナデ、下ナデ削り	南西部床面	70%、PL56
56	須恵器	壺	-	13.1	16.1	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部外面平行引き、体部前面指痕・輪 指み痕	南西部下層 床面	45%
57	須恵器	壺	26.3	22.0	13.0	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部外面上位平行引き後、ヘラナデ	南西部上層一 床面	40%、PL36
38	須恵器	瓶	29.0	13.8	-	赤砂・長石	灰	普通	体部内面ヘラナデ	中央部上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	胎土	特徴	出土位置	備考
M5	鋸	9.8	4.3	0.5	17.2	鉄		舟状、片鉄製欠損	南東部下層	PL20
M6	手鐲	5.3	2.0	0.3	8.3	鉄		片筒欠損	南西部中層	
M7	鎌	3.2	1.7	0.2	3.8	鉄		刃部の破片、角刃鎌	北東部下層	
M8	釘	7.4	0.6	0.5	8.1	鉄		断面方形の棒状、頭部欠損の角釘	中央部中層	PL21
M9	不明	5.3	0.3	0.4	3.9	鉄		断面方形の棒状、端がわずかに鈍る	遺土中	
M10	不明	4.3	0.7	0.4	2.9	鉄		断面方形の棒状、端がわずかに鈍る	南西部上層	

第1507号住居跡 (第132・133図)

位置 調査区北部のQ7a0区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地上に立地している。

重複関係 第1513号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.30m、短軸3.15mほどの方形で、主軸方向はN-17°-Eである。壁の立ち上がりは北東部を除いて確認でき、壁高は5~8cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められており、壁溝がほぼ周回している。

竈 遺存状態が悪く、火床部と焚口部が確認されただけである。付近の床面には粘土粒子や砂粒が散在しており、砂質粘土で構築されていたと推測される。また、火床部は北壁ライン上に位置し、皿状に掘りくぼめられており、被熱して赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 極 暗 褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 3 暗 赤 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量 | 4 黒 褐色 焼土ブロック・砂粒・粘土粒子少量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1~P4が相当し、深さは13~24cmである。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さは28cmである。

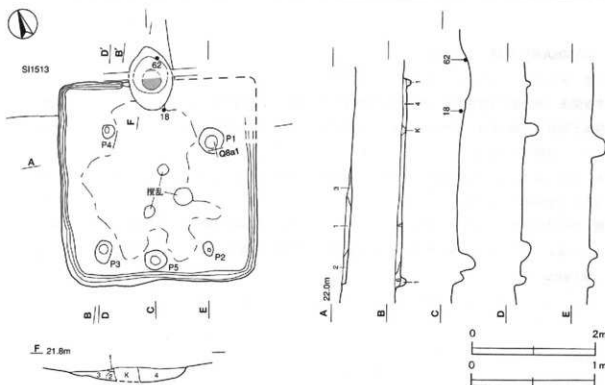
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

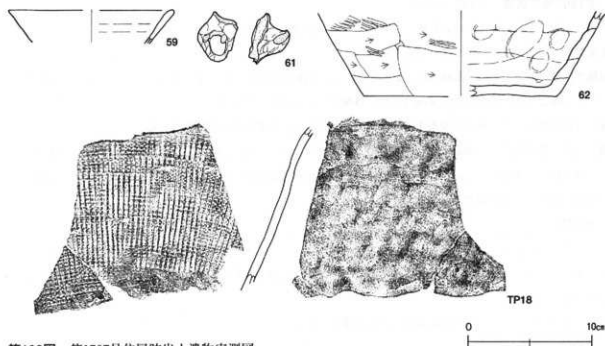
- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 4 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 5 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片59点(坏14, 甕・瓶45), 須恵器片25点(坏13, 甕12), 鍛冶炉壁片1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。そのうち図示できたものは3点で、59・62は竈内の覆土下層から出土している。

所見 時期は、竈内出土の土器から9世紀中葉と考えられる。



第132図 第1507号住居跡実測図



第133図 第1507号住居跡出土遺物実測図

第1507号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
50	須恵器	坏	[13.2]	(3.7)	-	雲母・長石	陶灰	普通	体部ロクロナデ	甕塚土中	
61	土師器	瓶	-	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	ナデ	北西部覆土中	
62	須恵器	壺	-	(6.8)	[15.6]	雲母・長石	陶灰	普通	体部内面ナデ	甕塚土下層	10%
TP18	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	に濃い黒	不良	外面格子明き、内面指張板	北部下層	

第1508A号住居跡（第134図）

位置 調査区北部のQ7b0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1508B号住居跡の床面全体に貼床をして、本住居が構築されている。

規模と形状 長軸3.30m、短軸2.60mほどの東西に長い長方形で、主軸方向はN-87°-Eである。壁高は5～10cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 壁際を除き、よく踏み固められており、西側部分と南東コーナー部がわずかに高くなっている。壁溝は、南壁際と北壁際の一部を除いて巡っている。

竈 遺存状態が悪く、火床部が確認されただけである。付近の床面には粘土粒子や砂粒が散在しており、砂質粘土で構築されていたと推測される。火床面は東壁ライン上に位置し、被熱して赤変硬化している。

甕土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・砂粒・粘土ブロック少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、砂粒・粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量 | | |

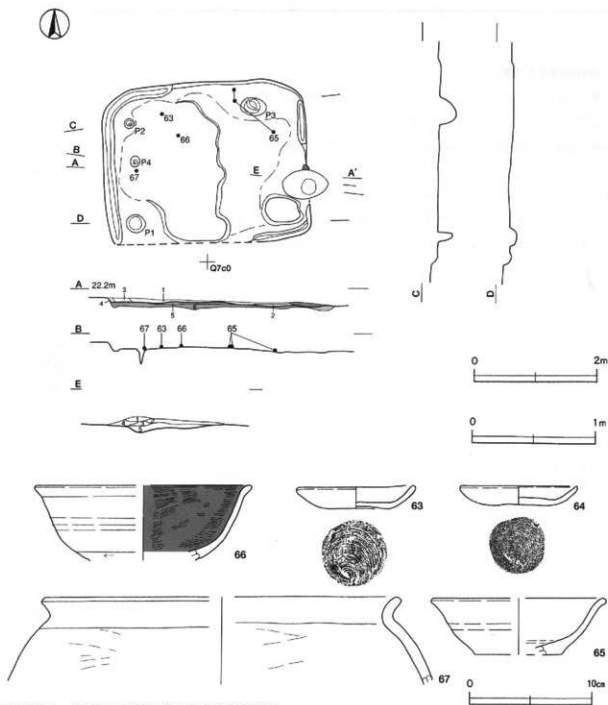
ピット 4か所。P1～P3は深さがそれぞれ12cm、25cm、29cmで、位置と形状から柱穴の可能性があるが、南東コーナー部からは対応するピットが確認されていない。P4は深さ24cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなる。第1～4層がレンズ状の堆積状況を示した自然堆積の部分で、第5・6層が貼床部分の土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片56点（小皿2，碗35，甕19）が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。そのうち図示できたものは5点で、63は北西部の覆土下層からほぼ完形のまま出土している。また、65は北東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。



第134図 第1508A号住居跡・出土遺物実測図

所見 第1508B号住居跡の床面と本住居の貼床部の間には堆積土が含まれておらず、第1508B住居跡から本住居への建て替えが行われたと判断できる。時期は、出土土器から10世紀後半以降と考えられる。

第1508A号住居跡出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
63	土師器	小皿	9.1	1.9	5.3	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	北西部下層	100%、P1.56
64	土師器	小皿	[9.2]	1.6	4.4	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	50%
65	土師器	杯	[13.6]	4.5	[7.0]	赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	北東部下層	20%
66	土師器	椀	[17.2]	(6.0)	-	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	体部下層回転糸切り	中央部下層	20%
67	土師器	壺	[28.2]	(7.1)	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ	西部下層	

第1508B号住居跡（第135図）

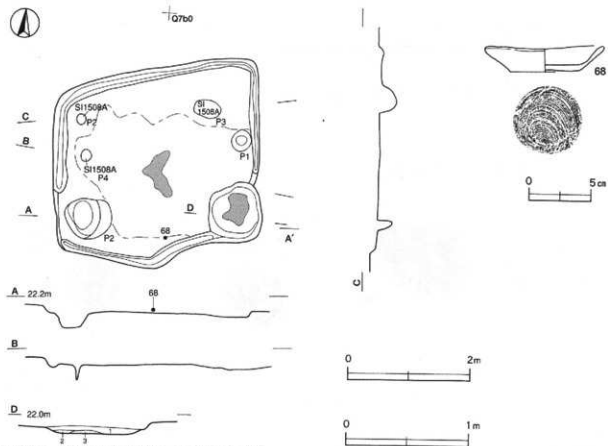
位置 調査区北部のQ7b0区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 本住居の床面全体に貼床をして、第1508A号住居が構築されている。

規模と形状 長軸3.30m、短軸3.20mほどの南壁が外方に張り出す五角形に近い形状で、主軸方向はN-87°-Eである。壁高は5~12cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、竈の手前から西壁際にかけてよく踏み固められており、壁溝が南西部の一部を除いて巡っている。また、中央部から赤変硬化した部分が確認されており、炉の可能性もある。

竈 第1508A号住居跡の床下から検出されたために遺存状態が悪く、火床部が確認されただけである。付近の



第135図 第1508B号住居跡・出土遺物実測図

床面には意材の流出が見られ、粘土粒子や砂粒が散在している。火床部は5cmほど掘りくぼめられて皿状を呈し、火床面が被熱して赤変している。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|--------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物・砂粒・粘土粒子微量 | 2 黒褐色 | 炭化粒中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化物微量 |

ピット 2か所。P1・P2は深さがそれぞれ14cmと28cmで、性格は不明である。

覆土 第1508A号住居が本住居の床面上に貼床をして構築されているため、堆積土は認められない。

遺物出土状況 土師器片8点（小皿1，坏3，甕4）が出土している。68は南壁際の覆上下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は出土土器から10世紀後半以降と考えられ、第1508A号住居との時期差は見出せず、短期間のうちに建て替えが行われたものと想定される。

第1508B号住居跡出土遺物観察表（第135図）

番号	発掘層	容積	口径	器高	底径	出土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
68	土師器	小皿	9.2	2.0	5.5	雲母・灰石・赤色粘土	橙	普通	底部回転糸切り	南壁際下層	100%, PL56

第1510号住居跡（第136図）

位置 調査区北部のP7J9区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1512・1513号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.55mほどの東西に若干長い方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は31~36cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められており、壁溝が北壁際を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されており、規模は焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅90cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面上にロームブロック混じりの砂質粘土を用いて構築されており、火床部は若干掘りくぼめられて皿状を呈し、わずかに赤変している。また、煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子微量 | 9 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・砂粒・粘土粒子微量 |

ピット 1か所。P1は深さ14cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 9層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

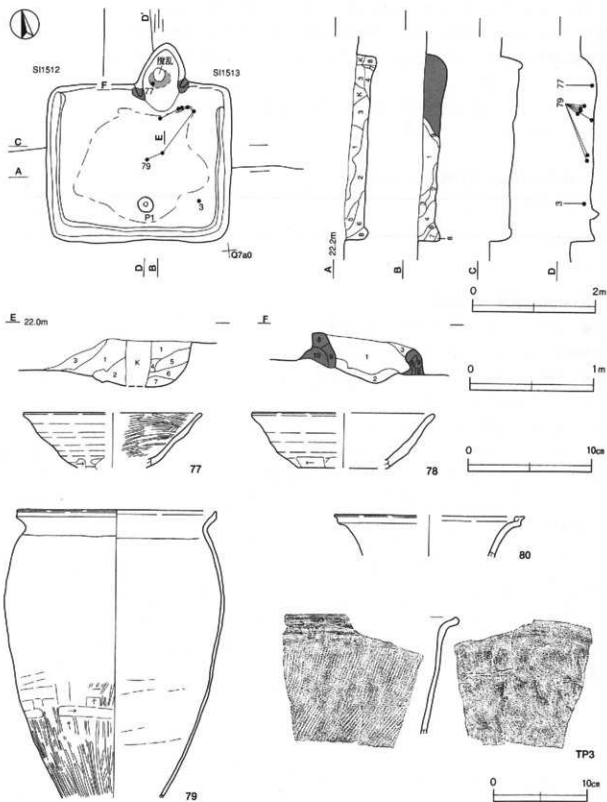
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・砂粒・粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片107点（坏13，甕94），須器器片11点（坏3，蓋3，甕5）が、ほぼ全域から散在して出土している。79は中央部の覆土下層や竈手前の床面から覆土上層にかけて出土した破片が接合したものであ

り、体部外面には被熱痕や粘土粒子の付着が見られることから、煮炊きに使っていたことが推測される。また、77も竈内から出土しているが、体部に被熱痕はなく、廃絶時に投棄された可能性がある。

所見 廃絶時期は須恵器の出土量が少ないことや出土土器の形状から9世紀後葉と判断でき、当該期における最も小形の住居である。



第136図 第1510号住居跡・出土遺物実測図

第1510号住居跡出土遺物観察表 (第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
77	土師器	環	[142]	[4.4]	-	長石・石英	橙	普通	体部ロクロナデ、内面ヘラ磨き	甕覆土中	10%
78	須恵器	環	[144]	4.4	[7.2]	雲母・長石・赤色粒子	灰黒	普通	体部下端手持ちヘラ磨り	甕土中	20%
79	土師器	甕	21.2	(30.7)	-	長石・石英	明赤黒	普通	体部上半ナデ、下半ヘラ磨き後一部ヘラナデ、内面ヘラナデ	中央部下層・甕 手直上層-床面	50%
80	須恵器	甕	[202]	[4.4]	-	雲母・石英	橙	不良	口縁薄部内面に折り返し	甕付近覆土中	
TP3	須恵器	甕	-	-	-	雲母・長石・石英	灰黒	普通	内面無文の当て具板、滑油痕	南東部下層	

第1511号住居跡 (第137図)

位置 調査区北部のP8j1区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1400号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大部分が調査区域外に延びているために、確認できたのは南西コーナー部の東西軸1.30m、南北軸0.90mだけである。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向は北を想定するとN-24°-Eと考えられる。壁高は30cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁溝は確認された壁際を巡っている。

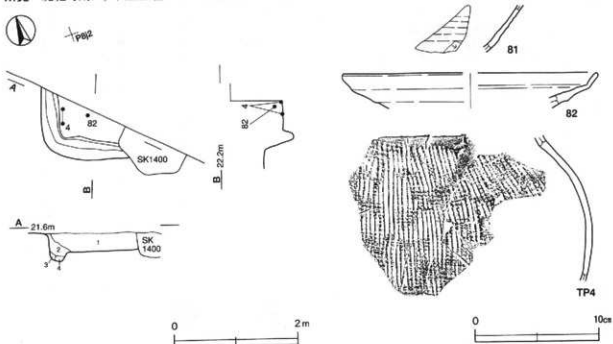
覆土 4層からなる。堆積土の主体である第1・2層がロームブロックや焼土ブロック・炭化物を含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片20点(坏2, 甕18), 須恵器片17点(坏3, 甕13)が出土している。82は南西コーナー部の覆土下層から、TP4は南西部の床面からそれぞれ出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉ないし後葉と考えられる。



第137図 第1511号住居跡・出土遺物実測図

第1511号住居跡出土遺物観察表 (第137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
81	須壺器	罎	-	(3.7)	-	雲母・長石・赤色粒子	明赤褐色	不良	底部下両子持ちへう削り	覆土中	
82	須壺器	甗	[200]	(2.8)	-	雲母・長石・石英	明赤褐色	不良	底部ロクロナデ	南西部下層	10%
TP4	須壺器	甗	-	-	-	雲母・長石・石英	灰褐色	普通	内部内面ナデ・指痕あり	南西部床面	

第1512号住居跡 (第138・139図)

位置 調査区北部のP79区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1510号住居と第132号掘立柱建物に掘り込まれている。

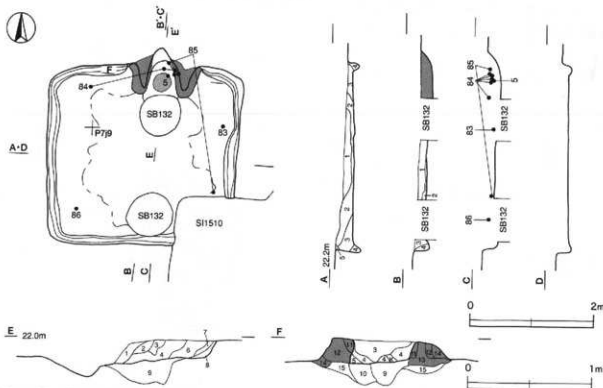
規模と形状 長軸3.05m、短軸2.90mほどの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は12~20cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除きよく踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁際に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅120cmほどである。袖部は10~15cmほど掘りくぼめた部分にローム土を用いて床面と同じ高さまで埋め戻し、その上に砂質粘土を用いて構築されている。火床部は30~35cmほど掘りくぼめた部分に焼土混じりのローム土を充填した平坦面を使用しており、わずかに赤変している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

遺土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・砂粒・粘土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土ブロック微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒・粘土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・炭化物微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・砂粒微量 |



第138図 第1512号住居跡実測図

- | | | | |
|-----------|------------------------------------|--------|--------------------------|
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物・砂粒微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化物・砂粒微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒・粘土ブロック中量 | 15 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 12 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |

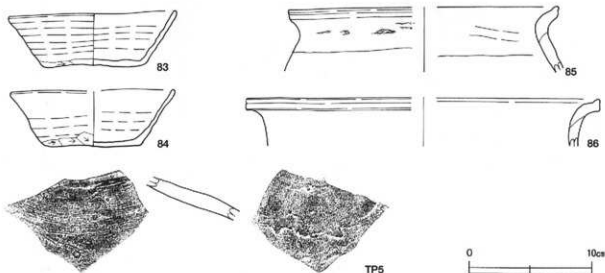
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片35点(坏1, 甕・瓶類34), 須恵器片20点(坏15, 甕・瓶類5)が, 土層断面図中の第3層に相当する壁際の自然堆積層を中心に出土している。また, 竈内からも土師器片がまとまって出土しており, 84・85はいずれも竈内から破砕された状態で出土し, それぞれ北西部の覆土下層, 南東部の覆土下層から出土した破片と接合している。83はほぼ完形で, 東壁際の床面から若干浮いた状態で出土している。

所見 竈内から出土した土器はいずれも破片で, 重なり合って出土しており, 被熱痕や電材の付着も見られないことから, 一括投棄されたか, あるいは意図して遺棄されたものが竈の崩壊と共に破損したものと判断できる。焼絶時期は, 竈内の出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第139図 第1512号住居跡出土遺物実測図

第1512号住居跡出土遺物観察表(第139図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
83	須恵器	坏	13.4	4.3	8.0	雲母・長石・石英	褐色	普通	底部回転ヘラ切り後, 多方向のヘラ削り	東壁際床面	100%, PL56
84	須恵器	坏	12.8	4.4	7.6	雲母・長石	明赤褐色	普通	底部・方向のヘラ削り	竈内・北西部 下層	60%
85	土師器	甕	[21.5]	(5.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナゲ・輪積み痕	竈内・南東部 下層	
86	土師器	瓶	[28.2]	(4.9)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部横ナゲ・輪積み痕	南西部下層	内面炭化物付着
TP5	須恵器	甕	-	-	-	長石	褐色	良好	体部内面ロコナゲ・輪積み痕	竈内	外面自然熱

第1513号住居跡 (第140・141図)

位置 調査区北部のP70区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1510号住居跡を掘り込み、第1507号住居に掘り込まれている。

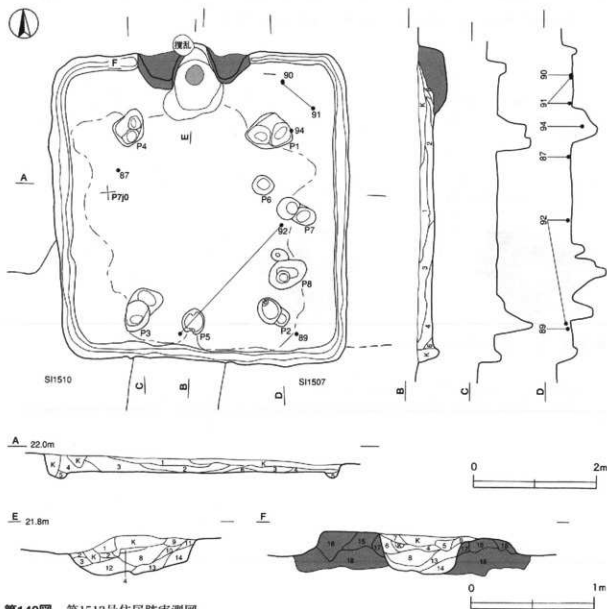
規模と形状 長軸5.00m、短軸4.80mほどの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は15~24cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除きよく踏み固められており、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅180cmほどである。袖部は15cmほど掘りくぼめた部分にローム土を用いて床面と同じ高さまで埋め戻し、その上に砂質粘土を用いて構築されており、内側が被熱して赤変している。火床部は15cmほど掘りくぼめられて皿状を呈し、火床面が赤変硬化している。また、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。なお、土層断面図中の第15~18層は袖部の断ち割り土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・砂粒微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物・砂粒・灰微量 | | |



第140図 第1513号住居跡実測図

- 4 ぶい赤褐色 灰中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
 5 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
 6 暗褐色 砂粒・粘土ブロック中量、焼土粒子微量
 7 赤褐色 焼土粒子多量、砂粒少量、炭化物微量
 8 ぶい赤褐色 焼土粒子多量、炭化物・砂粒微量
 9 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・砂粒微量
 10 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化物微量
 11 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 12 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物・砂粒・粘土ブロック微量
 13 ぶい褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化物・砂粒・粘土ブロック微量
 14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
 15 ぶい黄褐色 砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 16 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
 17 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
 18 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

ピット 8か所。主柱穴はP1～P4が相当し、深さは40～61cmである。P5は深さ30cmで、出入り口施設に伴うピットである。その他のピットの性格は不明である。

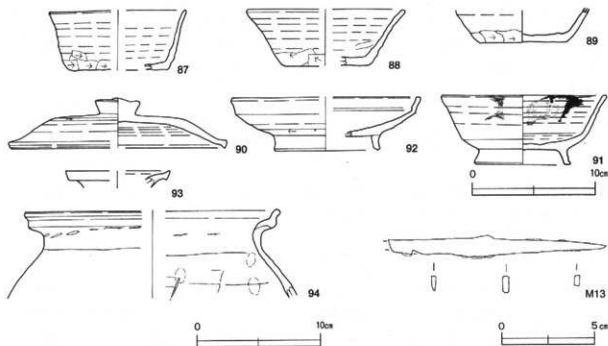
覆土 8層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 5 暗褐色 ローム粒子少量
 6 黒褐色 ロームブロック微量
 7 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・砂粒・粘土粒子微量
 8 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物・砂粒・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片359点、須恵器片148点（坏97、蓋9、長頸瓶1、甕・瓶類41）、刀子1点が出土している。遺物は覆土下層を中心にほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。床面から出土したものは87・90・91で、そのうち北東部の床面から出土した91の口縁部には油煙が付着している。

所見 油煙の付着した土器の出土から、集落内で文書事務が執り行われていたことが示唆される。廃絶時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第141図 第1513号住居跡出土遺物実測図

第1513号住居跡出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	直径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
87	須恵器	坏	[10.8]	4.7	[8.0]	長石・石英	褐色	普通	底部一方向のヘラ削り	西部床面	25%

番号	種類	名称	口径	器高	口径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
88	須恵器	杯	[12.4]	4.5	[7.0]	長石・石英	灰黄	普通	底部・方向へのヘラ削り	P1 覆土中	33%
89	須恵器	杯	-	(2.9)	6.9	高岭・長石・石英	灰黄	普通	底部・方向へのヘラ削り	南東部下層	40%
90	須恵器	蓋	17.0	4.0	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	木片・器縁へのヘラ削り	北東部床面	70%
91	須恵器	高台付杯	13.0	5.6	7.6	高岭・長石・石英	灰黄	普通	底部・側面へのヘラ削り後、高台貼り付け	北東部床面	須恵器5.9%付着
92	須恵器	甗	[14.7]	4.3	8.2	高岭・長石・石英	灰黄	普通	底部・側面へのヘラ削り後、高台貼り付け	南部・東部下層	60%
93	須恵器	長柄瓶	8.2	(1.6)	-	黒色粒子	灰黄	良好	口縁部はロコナデ	北西部覆土中	内外面自然色
94	土器	甗	[20]	(7.0)	-	高岭・長石・石英 赤色粒子	灰黄	良好	口縁部はナデ・輪漉み後、底部外周ナデ、 内面ヘラナデ・指漉み	P1内	赤夷炭化物付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・成分	特徴	出土位置	備考
M13	刀子	[11.7]	1.1	0.3	(9.0)	鉄	片側、刃先欠損	南東部上層	PL78

第1515号住居跡 (第142回)

位置 調査区東部のR 8 J8区に位置し、南東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1517・1530号住居跡を掘り込み、第1435号上坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m、短軸3.40mほどの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は8~15cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 若干凹凸があり、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されており、規模は焚口部から煙道部まで100cmほどである。天井部は崩落しており、軸部も北壁に砂質粘土を貼り付けた痕跡がわずかに確認される程度である。火床部は床面と同じ高さの地山面を使用し、火床部も赤変硬化している。また、煙道の立ち上がり部には角柱状の雲母片岩が直立した状態に据えられ、支脚として使用されており、煙道は急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼七ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック・焼七ブロック・炭化物中量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼七ブロック多量、炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 | ローム粒子多量、焼七粒子中量、炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼七ブロック少量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック多量、焼七ブロック中量、砂粒微量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼七ブロック中量、炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼七ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼七粒子中量、炭化粒子・砂粒少量 | | |

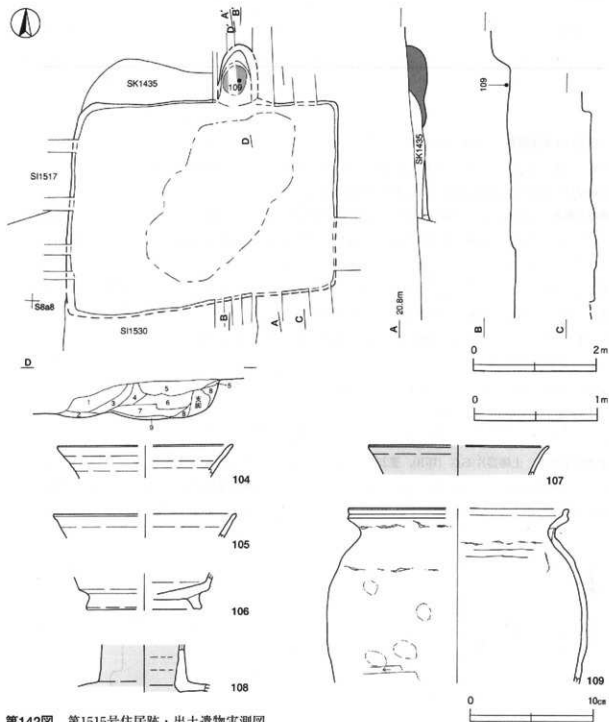
覆土 覆土の大部分を第1435号上坑によって掘り込まれているために、確認できたのは1層だけである。ロームブロックや焼七ブロック、炭化物を含んでいることから、人為堆積の可能性が高い。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼七ブロック中量、炭化物・灰少量

遺物出土状況 土師器片496点(杯・椀40、甗・甗(456)、須恵器片107点(杯48、蓋3、甗・甗56)、灰陶陶器片1点(長頸瓶)、緑釉陶器片1点(椀)、石製支脚1点、鉄棒1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片で、破断面が摩滅している。図示した土器もすべて細片で、出土位置は明確にしないが、第1435号土坑の下部から出土しており、いずれも覆土下層から出土したものである。また、狼狽産と考えられる107には被熱痕が認められ、本住居には焼失の痕跡がないことから、投棄されたか混入したかのいずれかと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。緑釉陶器片が出土したことから、付近にそうした稀少品を保持できた有力者層の存在がうかがわれる。



第142図 第1515号住居跡・出土遺物実測図

第1515号住居跡出土遺物観察表 (第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
104	須恵器	坏	[14.0]	(2.5)	-	雲母・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	北西部下層	
105	須恵器	坏	[14.5]	(1.9)	-	長石・石英	灰白	普通	体部ロクロナデ	南西部下層	
106	須恵器	高台付坏	-	(2.9)	[9.0]	雲母・長石・石英	にぶい黄褐色	普通	底部回転へう切り後、高台貼り付け	南西部下層	10%
107	須恵陶器	瓶	[14.4]	(2.3)	-	白色粘土, 網目	浅黄・オリーブ黄	良好	体部ロクロナデ	北西部下層	象投差, 黄鉄肌

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
108	灰釉陶器	長頸瓶	-	(3.7)	-	黒色粒子・緻密	灰・灰オリープ	良好	体部・頸部ロクロナデ、二段接合	山東部下層	表遺産
109	土師器	壺	[17.5]	[13.9]	-	石英・灰石・赤色粒子	ふい梅	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	壺大床部	20%

第1518号住居跡 (第143・144図)

位置 調査区東部のR 8 9区に位置し、南東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第90号溝と第1426号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m、短軸3.15mほどの南北に若干長い方形で、主軸方向はN-6°-Wである。南東に傾斜した地形のため、南東部の壁の立ち上がりは確認されていないが、北西部では壁高が30cmほどあり、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、ピットの内側がよく踏み固められている。壁溝は、北西コーナー部で確認されている。

竈 竈材の分布から、北壁の中央部に付設されていたと考えられる。

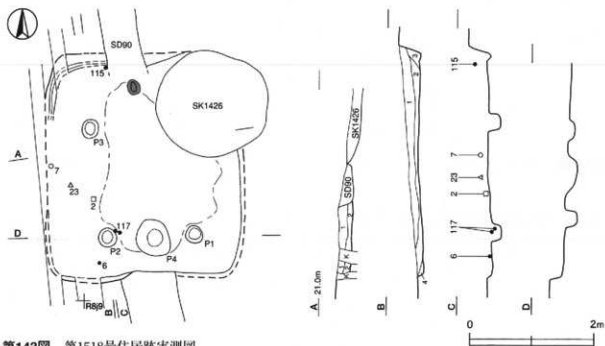
ピット 4か所。P1～P3は主柱穴で、深さは15～20cmである。P4は出入り口施設に伴うピットで、深さは20cmである。

覆土 4層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

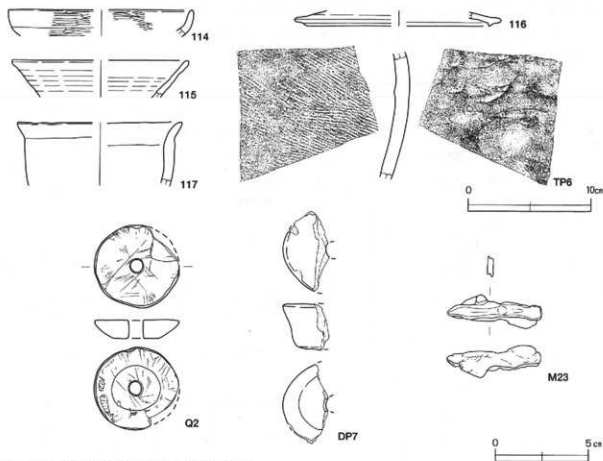
- | | | | | | |
|---|-----|---------------------|---|----|---------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 4 | 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片35点 (坏10、甕25)、須恵器片76点 (坏26、甕1、甕類9)、紡錘車2点 (土製1、石製1)、不明銅製品1点 (銅滓カ)、鉄滓1点が出土している。遺構の遺存状態を反映して、ほとんどの遺物が西側部分から出土している。115は北部の覆土中層から、DP7・Q2・M23はいずれも西部の覆土下層から出土している。



第143図 第1518号住居跡実測図

所見 土製と石製の紡錘車や鉄滓，不明銅製品の出土は，本住居の所属する集落が積極的に手工業に関わっていたことの一端を示す好資料といえる。廃絶時期は，出土土器から8世紀前半から中葉と考えられる。



第144図 第1518号住居跡出土遺物実測図

第1518号住居跡出土遺物観察表（第144図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
114	土師器	坏	[14.6]	(2.1)	-	石英・赤色砂子	明赤褐色	普通	口縁部・体部ヘラ磨き	北東部上層	
115	須恵器	坏	[14.0]	(3.0)	-	長石・石英	灰	普通	体部クロコナテ	北部中層	大塚遺
116	須恵器	蓋	[16.5]	(1.2)	-	雲母・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部クロコナテ	北西部上層	
117	土師器	小形甕	[13.0]	(3.0)	-	雲母・長石・赤色砂子	明赤褐色	普通	口縁部磨きナテ，体部摩滅のため不明	南部下層	10%
TP6	須恵器	甕	-	-	-	長石	暗紫灰	良好	体部内面無文の当て具痕	南壁際下層	外面自然釉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP7	紡錘車	(5.0)	(2.5)	2.4	(21.3)	雲母・長石・石英	ナテ，孔一部残存	西部下層	
Q2	紡錘車	4.4	4.3	1.0	(26.9)	滑石	孔径0.8～0.9cm，裏縁部一部欠損	西部下層	PL75
M23	不明	(5.1)	(1.7)	(0.4)	(9.1)	銅	板状，不整形	西部下層	PL83

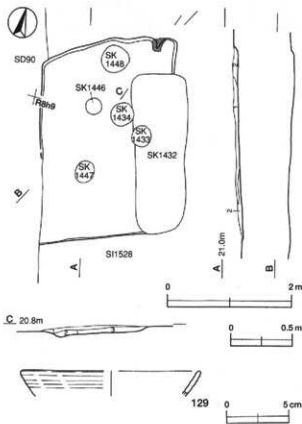
第1521号住居跡 (第145図)

位置 調査区東部のR 8 h9区に位置し、南東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第90号溝、第1432・1433・1434・1446・1447・1448号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.15mで、東西軸は西側部分を第90号溝に掘り込まれているために2.12mだけが遺存しており、 $N-18^{\circ}-W$ を主軸とする方形ないし長方形と推定される。壁高は2~5cmしかなく、壁の立ち上がりは判然としにくい。

床 はほぼ平坦である。硬化面や壁溝は確認されていない。



第145図 第1521号住居跡・出土遺物実測図

第1521号住居跡出土遺物観察表 (第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
129	須恵器	坏	[14.4]	(2.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部クロコナテ	北西部覆土中	

第1522号住居跡 (第146図)

位置 調査区東部のR 8 h8区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第1519号住居跡を掘り込み、第1436号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.30m、短軸3.25mほどの方形で、主軸方向は $N-8^{\circ}-W$ である。壁高は2~4cmしかなく、壁の立ち上がり具合は判然としにくい。

床 はほぼ平坦で、竈の手前から出入り口付近にかけてよく踏み固められている。

竈 北東コーナー部に設けられている。遺存状況が悪く、砂質粘土を用いた袖の一部と火床部が残存していただけである。火床部から、赤変硬化した部分は確認されていない。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物・砂粒少量
- 2 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片28点(坏4、甕・甌24)、須恵器片7点(坏3、甕4)が出土している。遺物はいずれも細片で、そのうち図示できたものはわずかに1点だけである。129は、北西部の覆土中から出土している。

所見 竈の火床部や床面の様子から、本住居の存続期間は短かったことが想定される。詳細な時期は、不明である。

竈 遺存状態が悪く、天井部と袖部は遺存していない。壁外への掘り込みは50cmほどで、火床部は床面と同じ高さの地山面を使用し、火床面は赤変硬化している。

竈土層解説

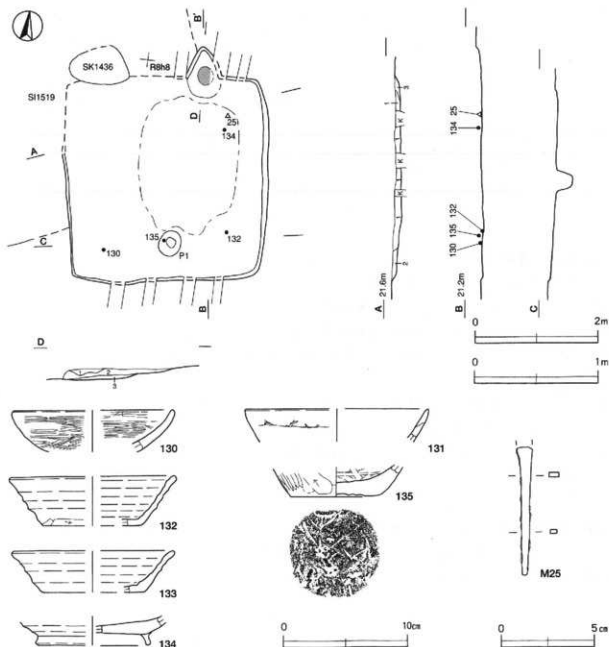
- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量、砂粒微量 | | |

ピット 1か所。P1は深さ27cmで、竈と対峙する位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | | |



第146図 第1522号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片115点（坏13、甕・甌102）、須恵器片35点（坏29、蓋1、高盤1、甕・甌4）、鉄蒧1点が出上している。遺物はほぼ全域に散在しており、特に土師器甕の体部片の出土が目立っている。図示した遺物のうち、床面から出土したものは130・132であり、133はP1の覆土中から出土している。また、竈手前の覆土下層から出土した134の底部外面には朱墨痕が認められ、内面も擦り減っており、視に転用されたものと判断できる。

所見 視に転用した朱墨痕のある土師の出土は、集落内における文書行政の一端を示唆するものといえる。廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。

第1522号住居跡出土遺物観察表（第146図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
130	土師器	坏	112[8]	33	-	雲母・長石・石英	明赤陶	普通	11脚部・体部内外面へう磨き	南西部床面	10%
131	土師器	坏	144[5]	26	-	雲母・石英・赤色粒了	橙	普通	11脚部側ナデ・輪部み肌	覆土中	
132	須恵器	坏	130[1]	39	7[8]	雲母・長石・石英	灰白	普通	武器跡へラ切り後、手持ちへラ削り	北東部床面	30%
133	須恵器	坏	126[1]	33	8[0]	長石・石英	陶灰	普通	武器跡へラ切り後、手持ちへラ削り	P1覆土中	30%
134	須恵器	高台付坏	-	23	9[2]	雲母・長石・石英	陶灰	普通	底部円転へラ切り後、高台貼り付け	北東部下層	竈器内面等址、 朱墨痕認め、15%
135	土師器	甕	-	26	7.2	雲母・長石・石英	にぶい橘	普通	底部外周木葉面、内面へラナデ	南部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	産地	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M25	蓋	6.8[1]	0.9[0]	0.2[0]	3.9[0]	赤	基部の破片、微塵	北東部下層	P1.79

第1523号住居跡（第147図）

位置 調査区中央部のS8j5区に位置し、東に緩やかに傾斜した白地の緑塗部に立地している。

重複関係 第1524号住居、第9号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は3.30mで、東西軸は1.80mだけが確認されており、当該期の一般的な住居形態である東竈を想定すると、N-110°-Eを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は15-25cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されていない。

ピット 1か所。P1は深さ14cmで、性格は不明である。

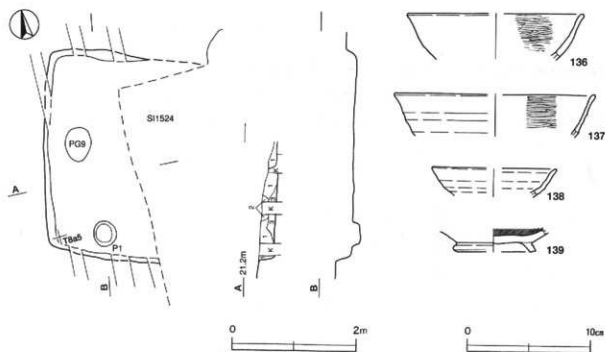
覆土 3層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片50点（碗16、甕34）、土製支脚1点が出土している。遺物はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。図示した土器は、すべて北東部の覆土中から出土している。

所見 時期は、土師器小皿が見られないことや小形の土師器碗が出現していることから、10世紀後半頃と考えられる。



第147図 第1523号住居跡・出土遺物実測図

第1523号住居跡出土遺物観察表 (第147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
136	土師器	椀	[140]	[37]	-	石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面へラ磨き	北東部覆土中	
137	土師器	椀	[160]	[34]	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	北東部覆土中	
138	土師器	椀	[99]	[23]	-	雲母・長石・石英	にぶい黄緑	普通	体部ロクロナデ	北東部覆土中	15%
139	土師器	椀	-	[19]	[5.7]	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転へラ切り後、高台貼り付け	北東部覆土中	20%

第1524号住居跡 (第148図)

位置 調査区中央部の S 8j5区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。なお、本住居の東側部分は黒色土中に構築されている。

重複関係 第1523号住居跡、第179号掘立柱建物跡を掘り込み、第9号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東に傾斜した地形のため、東壁の立ち上がりが確認されず、竈の位置や暗褐色を呈した床面の広がりから、N-0°を主軸とする長軸5.00m、短軸3.80mほどの長方形と推定される。残存する壁の高さは2~4cmしかなく、壁の立ち上がり具合は判然としない。

床 ほぼ平坦で、竈手前から出入り口付近にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁に付設されており、天井部と右袖部は遺存していない。左袖部は砂質粘土で構築されており、火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用し、火床面が被熱して赤変硬化している。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂粒・粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土ブロック微量 |

ピット 1か所。P1は深さ60cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

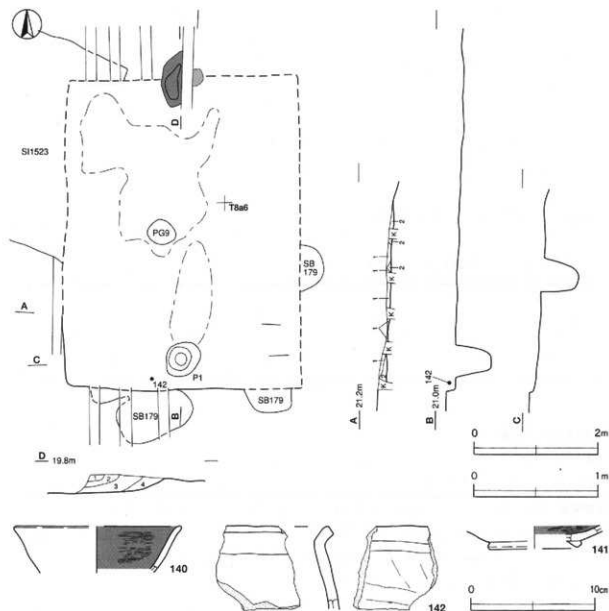
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片115点(小皿2、坏・碗35、甕・瓶76、鉢2)がほぼ全域から出土しており、そのほとんどが細片である。140は北東部の床面、142は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、土師器小皿の出土が見られることや出土土器から、10世紀後半以降と考えられる。



第148図 第1524号住居跡・出土遺物実測図

第1524号住居跡出土遺物観察表 (第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
140	土師器	碗	[1.2]	(3.7)	-	雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部内面へラ磨き	北東部床面	
141	土師器	碗	-	(1.7)	[7.2]	雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	高台貼り付け風、ロクロナデ	南西部床面	
142	土師器	甕	-	(6.7)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐色	普通	体部外面ナデ、内面へラナデ	南部中層	

第1527号住居跡 (第149図)

位置 調査区東部のR 8g9区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

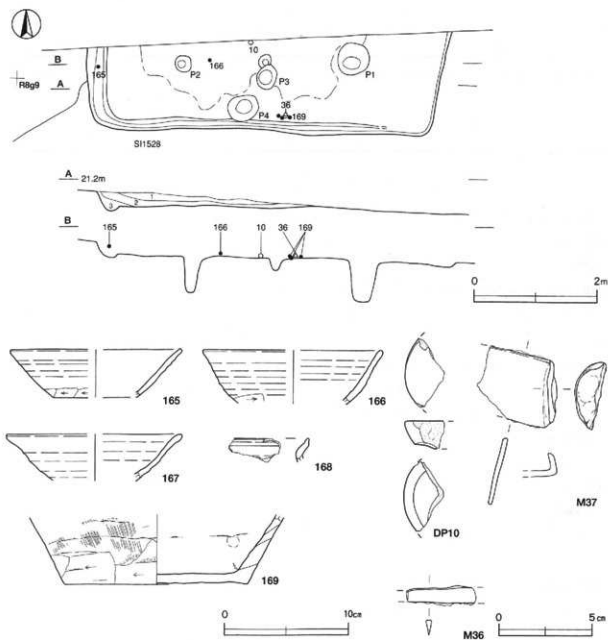
重複関係 第1528号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北側部分が調査区域外に延びているため、確認された南北軸は1.55mだけである。東西軸は5.70mであり、平面形は方形または長方形と推定される。また、主軸方向はピットの配置から $N-2^{\circ}-E$ と推定される。壁高は11~18cmで、各壁ともほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められており、壁溝が東壁際を除いて巡っている。

ピット 4か所。主柱穴はP1・P2が相当し、深さはそれぞれ60cm、56cmである。P3は深さ35cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4の性格は不明である。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。



第149図 第1527号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 3 褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片125点(杯17, 甕・瓶108), 須恵器片56点(杯14, 蓋1, 甕・瓶39, 瓶2), 刀子1点, 鉄鏝1点が西側部分を中心に出土している。165は西部の壁溝内, 167はP1内から出土している。

所見 晩絶時期は出土土器から9世紀中葉ないし後葉と考えられ, 当該期としては大形の住居になるものと推測される。

第1527号住居跡出土遺物観察表(第149図)

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色面	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
165	須恵器	杯	13.6	3.9	6.6	赤母・灰石・石英	灰黄緑	普通	外部ロクロナデ後, 内面のみナデ	西壁溝覆土中	15%
166	須恵器	杯	14.2	4.3	-	灰石・石英	灰	普通	外部ロクロナデ後, 内面のみナデ	P2東側下層	13%
167	須恵器	杯	14.0	3.8	-	赤母・灰石・石英	灰	普通	外部ロクロナデ	P1東上中	15%
168	土師器	甕	-	2.0	-	赤母・灰石・石英	明赤褐	普通	口縁部揉ナデ	南東部覆土中	-
169	須恵器	甕	-	5.6	14.6	赤母・灰石・石英	灰	普通	底部外面ナデ	南壁下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP10	紡錘車	3.7	2.1	1.5	9.2	赤・石・赤・赤	オレンジ色, ナデ	南部床面	-
M36	刀子	3.8	0.9	0.3	2.8	鉄	刃部の破片, 刃先短欠	溝壁下層	PL78
M37	鏝	4.2	3.6	0.3	22.2	鉄	歯状部, 一部全面引き直し	北東部覆土上	PL81

第1529号住居跡(第150図)

位置 調査区中央部のS84区に位置し, 東に緩やかに傾斜した台地の縁部に立地している。

重複関係 第9号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m, 短軸2.65mほどの長方形で, 主軸方向はN-92°-Eである。壁高は傾斜した地形のために西壁で30cm, 東壁で8cmと差があり, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。壁溝は西壁際から南壁際にかけて通っている。

竪 東壁の南寄り付設されている。規模は焚口部から煙道部まで75cmで, 壁外への掘り込みは60cmほどである。天井部と左袖部は遺存せず, 右袖部は白色粘土で構築されている。火床部は東壁ラインの外側に位置し, 床面と同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面が赤変硬化している。標定の立ち上がりは判然としない。

遺土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック・白色粘土ブロック少量
2 赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子微量

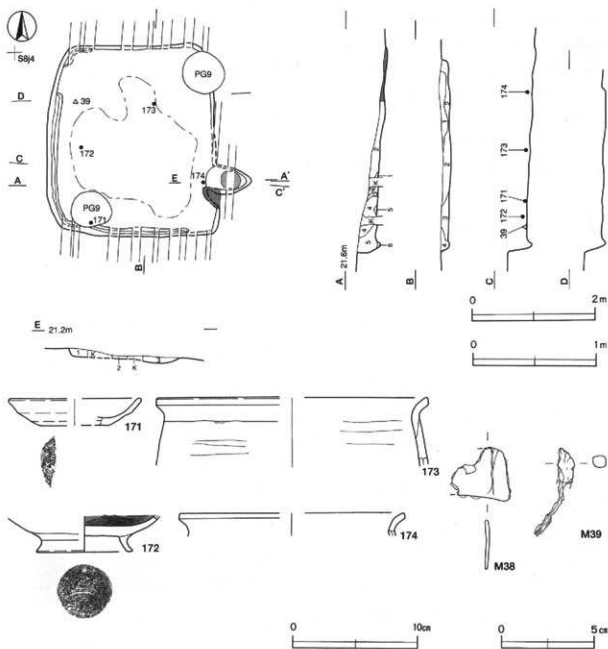
覆土 4層からなり, ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 4 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 5 暗褐色 ロームブロック多量
3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 6 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片203点(小皿3, 杯・碗34, 甕・瓶166), 須恵器片3点, 鉄鏝1点, 不明鉄製品1点, 鉄斧1点が出土している。遺物は遺構の遺存状態を反映して, 西側部分から多く出土している。174は覆土下の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 土師器小皿の出土や住居の形態から10世紀後半以降と考えられる。



第150図 第1529号住居跡・出土遺物実測図

第1529号住居跡出土遺物観察表 (第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
171	土師器	小皿	[10.4]	2.2	[5.4]	石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	底部回転糸切り	南西部床面	20%
172	土師器	碗	-	(2.9)	[7.6]	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け	西部下層	30%
173	土師器	壺	[21.6]	(5.5)	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	中央部下層	
174	土師器	壺	[18.0]	(1.8)	-	雲母・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部横ナデ	磁手前下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
M38	鎌	(3.1)	(2.6)	0.3	(2.9)	鉄	刃部の破片、面刃跡あり	北西部層上中	
M39	不明	(4.7)	0.7	0.6	(2.6)	鉄	断面方形の棒状、わずかに彎曲	北西部床面	

第1530号住居跡 (第151図)

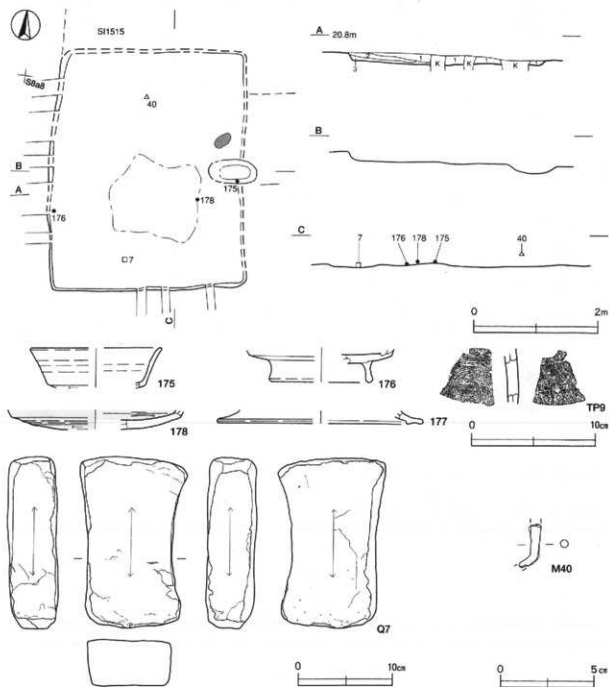
位置 調査区東部のS 8a8区に位置し、平坦な台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第1515号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北壁の立ち上がりが確認されなかったため、暗褐色を呈した床面の広がりから判断して、N-88°-Eを主軸とする長軸3.85m、短軸3.10mほどの長方形と推定される。確認された壁高は10cmほどで、いずれも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。天井部や袖部は遺存しておらず、付近の床面には砂粒や粘土粒子が散在し



第151図 第1530号住居跡・出土遺物実測図

ている。火床部は15cmほど掘りくぼめられているが、赤変硬化した部分は認められない。

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 3 極 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
 2 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片119点(坏11、甕1、甕・瓶107)、須恵器片4点(坏2、蓋1、甕1)、鉄釘カ1点が出土している。遺物は全域に散在しており、ほとんどが細片である。175は竈付近の床面から出土している。

所見 廃絶時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。調査区で確認された円面甕は5点だけで、その他は176のように須恵器高台付坏片等で代用されており、文書事務の盛行とともに円面甕の稀少性がうかがわれる。

第1530号住居跡出土遺物観察表(第151図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産地	用途	手造の特徴	出土位置	備考
175	須恵器	高台付坏	10.4	(2.2)	-	長石	褐色	普通	普通	外部下溜回転ヘリ有り	造手敷床面	10%
176	須恵器	高台付坏	-	(2.7)	8.2	長石・石英・鉄鉱	黄褐色	普通	普通	高台貼り付け後、ロクロナデ	内壁部床面	焼部内面赤褐色 観察用、20%
177	須恵器	甕	16.3	(1.1)	-	長石・石英	黄褐色	普通	普通	L線流ロクロナデ	北西部甕土中	
178	土師器	甕	-	(1.5)	-	赤石・長石・石英	褐色	普通	普通	底部外面回転ヘリ有り、内面ヘリあり	中央部下層	内外面赤褐色
TP9	須恵器	甕	-	-	-	赤石・長石	にぶい赤褐色	普通	普通	外面同心円状の帯で貫通、内面ロクロナデ	北西部甕土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
Q7	磁石	18.1	11.4	3.0	1730	凝灰岩	断面4面、他の面は整形された平坦面	南西部床面	赤褐色土層2%
340	釘	2.3	0.4	0.4	1.4	鉄	断面円形の棒状、中央で屈曲	北部土層	

第1531号住居跡(第152図)

位置 調査区東部のT8c5区に位置し、東に緩やかに傾斜した台地の縁辺部に立地している。

重複関係 第179・186・187号掘立柱建物跡を掘り込み、第1449号上坑と第9号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.10mの長方形で、主軸方向はN-93°-Eである。東壁の立ち上がりは傾斜した地形のため確認されず、それ以外の壁は外傾して立ち上がっている。西壁の高さは30cmほどである。

床 ほほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

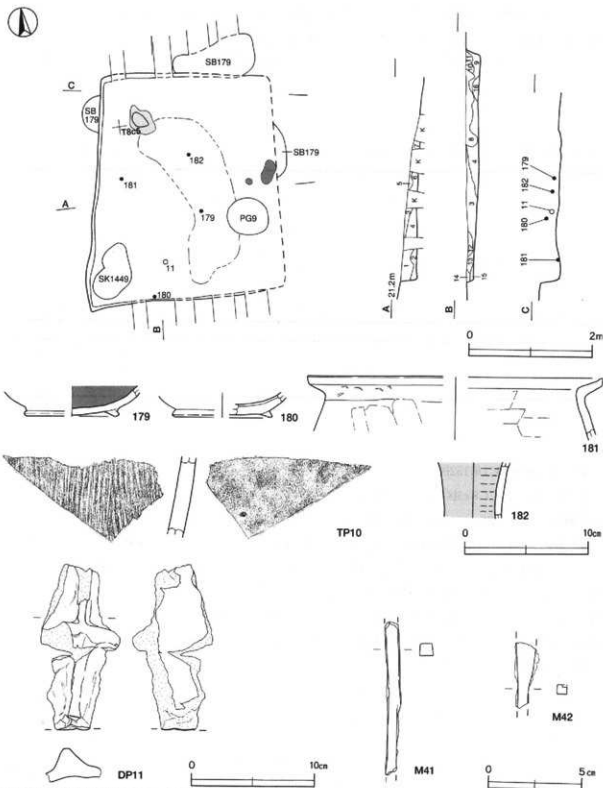
竈 東壁際中央部の床面に粘土粒子が散在しており、その付近に竈が構築されていたと推測される。

覆土 16層からなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。なお、床面直上に焼土塊が確認されており、焼失後に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 9 極 暗 褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化物微量
 2 極 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 10 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 11 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
 4 暗 褐色 ロームブロック中量 12 極 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 5 引 褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土ブロック微量 13 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
 6 引 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 14 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
 7 極 暗 褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量 15 黒 褐色 ロームブロック少量
 8 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 16 にぶい赤褐色 焼土粒子中量

遺物出土状況 土師器片162点(碗13, 甕・飯149), 須恵器片13点, 灰釉陶器1点(長頸瓶), 不明土製品1点(瓦塔カ), 鉄釘カ1点, 不明鉄製品1点, 鉄滓2点, 鍛冶が壁2点が出土している。遺物は遺構の遺存状態を反映して西側部分から多く出土しており, 須恵器片や鉄滓等は埋め戻される際に混入したものと考えられる。181は西部の床面から, 179は中央部の覆土下層から出土している。DP11は南西部の覆土下層から出土しており, 柱と出入り口部を表現した瓦塔の一部の可能性がある。



第152図 第153号住居跡・出土遺物実測図